第Ⅳ章　総括

第１節　出土遺物の位置づけ

村東遺跡から出土した遺物は、概ね平安時代から鎌倉時代にかけての時期に比定できる。本文及び観察表においては、土師器の変遷に基づく時期区分を記している。ここではその根拠を呈示し、当該期の遺物の様相について説明する。

播磨地域においては未だ、古代から中世にかけての土師器の編年観･変遷観は確立していない。そのため、播磨地域では遺構の時期を決定するため、窯跡出土の須恵器の変遷観から年代的な位置づけを行なってきた。また、緑釉陶器や黒色土器、瓦器等といった遺物が共伴する場合はそれにより年代を補強している。

当該期の須恵器については、西播磨の相生窯跡群、東播磨の志方窯跡群、神出窯跡群をはじめとする諸窯において生産され、各窯において編年研究が早い段階から行われてきた(1)。これらの諸窯は、総体的に同じような変遷をたどるが、東播系に対し､｢西播系｣の存在も指摘されているように細部においては異なっている(2)。近年では東播磨系須恵器について消費地からの検討も進められ、その様相は徐々に明らかになってきている(3)。

村東遺跡の所在する中播磨地域では、地理的に西播磨と東播磨の諸窯から須恵器がもたらされていると考えられる。出土遺物を窯跡で構築された編年に照らそうとする場合、破片資料の類似度等をもとにいずれの窯の資料であるかを特定し、その位置づけを検討する必要が生じる。ただ、現状では消費地において出土する資料を明確な基準に基づき同定を行うことは非常に困難である。こうした状況を考慮して、本報告では土師器による変遷観を設け、出土資料を位置づけていくこととした。播磨地域の土師器については少なからず検討されているものの、資料数の絶対的な少なさから古代から中世への変化は未だ未解明な部分が多い(4)。村東遺跡においては土師器とともに黒色土器や緑釉陶器、瓦器等が出土しているが、包含層からの出土が多く、遺跡内で土師器との共伴関係が把握できる資料は出土していない。そのため、やや迂遠ではあるが播磨地域において現在知られている資料を基に当該時期の土師器の様相を整理し、年代比定を試みる。

検討方法

播磨地域では当該期の資料が極めて少なく、検討を行う上で十分な資料数が得られないこともこれまで研究が進んでこなかった要因の一つであるものの、資料がないわけではない。まずは、既往調査で得られた資料をもとに当該期の組成を明らかにし、その上で編年的位置づけを確認することにする。

検討資料については、消費地出土資料のうち比較的一括性が高いと思われるものを選択した。ただし埋納遺構等の確実に一括性が担保される資料はなく、土坑、溝等の資料が中心である。また、ある程度の量がまとまって出土し、組成が捉えられる点にも注意した。組成の検討にあたっては、東播磨と西播磨とに分けて検討した。西播磨は市川流域以西、東播磨は加古川流域以東の地域とし、北播磨は東播磨に含めた。西播磨26例、東播磨27例である。これらを報告書の記載に基づき分類した。また、記載がない資料については実見の上、記載したものもある。

分類の基準は以下のとおりである。

1．器種は皿(托皿を含む)、杯、椀に分類した。
2．高台形態でⅠ．無高台、Ⅱ．平高台(托皿を含む)、Ⅲ．輪高台の3種に分類とした。
3．底部の観察からA.指圧痕未調整(非ロクロ成形)、B.ヘラ切り、C.糸切り、D.手づくね(本来的にはAに含まれるが区分した)の4種に分類とした。

これらの組み合わせにより各遺構の組成を把握した。

東播磨の土器様相

東播磨における組成は以下のとおりである。

表32　東播磨の土器様相

遺構名	土師器																		須恵器															
	皿									杯			椀					皿				杯						椀					
	無高台				輪高台			托皿		無高台			輪高台			平高台		無高台		托		輪高台		輪高台		無高台		輪高台		平高台		無高台	
	指	ヘラ	糸	手	指	ヘラ	糸	ヘラ	糸	指	ヘラ	糸	指	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸
上池遺跡　第1調査区　SX02下半層	+	+			+					+	+		+					+				+		+		+							
長塚遺跡　1次調査　SD02											2											1			1								
白水遺跡　4次　SX02下半層											1													1		2							
溝之口遺跡　K地区　SD003K	2										5			3		3								1		1		1		1	4		
家原・堂ノ元遺跡　ピット1005														1		1										1		1					
上脇遺跡　H７A地区　73016SE		3									5			1		4		1										1		3			
白水遺跡　3次第3トレンチ　SD02		2									3			2		3												2		3			
宿原寺ノ下遺跡　SK236											2			1		1	5		1												1		
上脇遺跡　H7A地区　73012SK		2													1		1											2		1			
曽我井・野入遺跡　Ａ地区　ＳＫ1002											2			1			3														4		
戸田遺跡　3区　SK12											1			2																	2		
白水遺跡　4次　SX03		1	6				1							１？	4		9	1								9					4		
今池尻遺跡　4区　SD401			9														6												1		1		
糀屋・土井の後遺跡　4区　土坑１		8	4									1		1				1	1												10		
大野遺跡　南地区　SX40			3						1			2		3			13	1													6		
梶原・番丁田遺跡　A地点　SD01			1									2																			3		
玉津田中遺跡　第8次　SD101			15				1		4			1							19		5						3				23		
垂水・日向　1次　SK02			1	2					2										1												1		1
与呂木遺跡　A-1地区　土坑1			65									10							13												3		4
垂水・日向遺跡　1次　SK04			2	7																													4
玉津田中遺跡　辻ヶ内地区　SG85001			30	44								50					1		11														21
玉津田中遺跡　6区　ＳＥ85001上面祭祀			14	1								5							2														2
出合遺跡　34次第5ﾄﾚﾝﾁ6区　SK56201			2																														15
上脇遺跡　H7A地区　72027SE			28	16								26																			1		12
福住遺跡　SX01（落ち込み）			2	23								3																					2
上脇遺跡　H7A地区　71044SK			3	4								2																					2
上脇遺跡　71049SK			2	3								3																					

上表によれば土師器皿は指圧痕未調整、ヘラ切り、糸切り、手づくねが存在する。土師器杯は指圧痕未調整、ヘラ切り、糸切りがあり、土師器椀には指圧痕未調整、ヘラ切り、糸切りがある。

上表は、全時期を通じて出土する土師器皿を基準にして配列している。土師器皿は指圧痕未調整→ヘラ切り→糸切り→手づくね成形の順に変遷するものと想定する。表に基づけば土師器杯はヘラ切り→糸切り、土師器平高台椀はヘラ切り→糸切り、輪高台椀は指圧痕未調整→ヘラ

切り→糸切りの順に底部調整が変化する。それぞれの変化するタイミングは同時ではないが、変遷の過程は皿の変遷と矛盾するものはない。また、この変遷は須恵器椀において既に指摘されているヘラ切り→糸切り、平高台→無高台の変遷とも矛盾しない。

西播磨の土器様相

西播磨における土器様相を東播磨と同様の配列で呈示する。

表33　西播磨の土器様相

遺構名	土師器																	須恵器															
	皿									杯			椀					皿						杯				椀					
	無高台				輪高台			托皿		無高台			輪高台			平高台		無高台		托		輪高台		輪高台		無高台		輪高台		平高台		無高台	
	指	ヘラ	糸	手	指	ヘラ	糸	ヘラ	糸	指	ヘラ	糸	指	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸	ヘラ	糸
竹原遺跡　全面調査区　635土坑		1				3					2							3							3		4						
本町遺跡　D地区2区3区通路部　溝2－02	2									3			2																	2			
円教寺薬師堂　第4層	9									62			3																				
円教寺薬師堂　第2層	3									58			6																		4		
本町遺跡　大手前公園　土坑	6									8			1																				
上原田遺跡　SE03										3			1																		1		
本町遺跡　D地区城南線4区①　SX2-03		4						4	1		2					2			1														
宮脇遺跡　Dブロック　SK1		2									2					3			1											2			
小犬丸遺跡　第20調査区　瓦溜め７西		1						1	10		10			2		1	10														7		
小犬丸遺跡　第20調査区　瓦溜め３									1		4			1			5																
小犬丸遺跡　瓦溜め2									2		13			5			14														1		
小犬丸遺跡　第21調査区　瓦溜め5		1							3		10			3			11																
宝林寺北遺跡　土坑42			33					1	2								4																
宮脇遺跡　AブロックⅣ地区　SK１		6	8								1	13				1															4		1
宮脇遺跡　BブロックⅢ地区　SK36			3																												2		
宮脇遺跡　FブロックⅡ地区　SK5		2	3								1										1										3		
宝林寺北遺跡　B地区　SE01		9		1					1		1？	1？							1										1		2		
市之郷遺跡　E区　SK58		28									4	1							6										1		2		21
長尾谷遺跡　140土坑			19	5								5																					7
福田天神遺跡　SK08		4	5	14																													11
宝林寺北遺跡　A地区　SK03			2	1															1								1						
長尾谷遺跡　122土坑			4																														1
生栖遺跡　集石遺構		14	10	7							22																						
市之郷遺跡　A区　SK05				13																												1	3
福田片岡遺跡　SE19				4																													
宮脇遺跡　Dﾌﾞﾛｯｸ　ST01				8																													

西播磨においても土師器皿を基に組成を整理すると、東播磨で確認した変遷過程と大きな矛盾はなく、それぞれの出現する順序は同じである。ただし、土師器皿と土師器杯においてヘラ切りが残存し、手づくね成形の土師器皿と共伴している点が大きく異なっている。

播磨地域の土器様相

東播磨と西播磨において土器の変遷は細部で異なる点もあるが、概ね一致している。このことから土師器皿の変遷に基づいて、表34のように底部指圧痕未調整の段階をⅠ期、ヘラ切り皿の出現をⅡ期、糸切り皿の出現をⅢ期、手づくね皿の量的出土をもってⅣ期とした。

表34　播磨地域の土器様相

東播磨						
時期	土師器皿	土師器杯	平高台椀	輪高台椀	須恵器杯B	須恵器椀
Ⅰ期古	指・(ヘラ)	指・ヘラ	ー	指	○	ー
Ⅰ期新	指	ヘラ	ヘラ	ヘラ	○	ヘラ
Ⅱ期古	ヘラ	ヘラ	ヘラ	ヘラ	○→消滅	ヘラ
Ⅱ期新	ヘラ	ヘラ	糸・ヘラ	(糸・ヘラ)	ー	糸
Ⅲ期古	糸	糸	糸	(糸・ヘラ)	ー	糸
Ⅲ期新	糸・(手)	糸	糸	ー	ー	糸(平→無)
Ⅳ期古	糸・手	糸	糸	ー	ー	糸(無)
Ⅳ期新	糸・手	糸	ー	ー	ー	糸(無)

西播磨						
時期	土師器皿	土師器杯	平高台椀	輪高台椀	須恵器杯B	須恵器椀
Ⅰ期古	(指・ヘラ)	ヘラ	ー	指	○	ー
Ⅰ期新	指	指	ー	指	ー	ヘラ・糸
Ⅱ期古	ヘラ	ヘラ	ヘラ	ー	ー	ヘラ・(糸)
Ⅱ期新	ヘラ	ヘラ	糸・ヘラ	(糸・ヘラ)	ー	糸
Ⅲ期古	糸	ー	糸	ー	ー	糸
Ⅲ期新	ヘラ・糸・(手)	ヘラ・糸	糸	ー	ー	糸(平→無)
Ⅳ期古	手・ヘラ・糸	ヘラ・糸	ー	ー	ー	糸(無)
Ⅳ期新	手	ー	ー	ー	ー	糸(無)

※ () は存在が予想されるもの、もしく出土量が少ないものを示した。

さらに各器種の消長により細分を行う。Ⅰ期は平高台椀の有無(須恵器も含む)で2時期に分ける。Ⅱ期は糸切り平高台椀の出現により2時期に分ける。Ⅲ期は輪高台椀の消長により2時期に分ける。Ⅳ期は平高台椀の消長と手づくね成形の土師器皿の形態変化によって2時期に分けた。それぞれ古段階と新段階とする。

東播磨、西播磨ともにⅡ期古段階に全ての器種でヘラ切りが採用され、Ⅲ期古段階に全ての器種が糸切りを採用するようになり、製作技法上の画期が想定できる。ヘラ切りもしくは糸切りへの変化は椀形態が先行し、皿と杯が一段階遅れて採用されている。Ⅲ期新段階に手づくね成形の土師器皿、いわゆる「て」の字状口縁が東播磨・西播磨ともわずかに認められるが、いずれも客体的な存在である。西播磨においてはⅢ期以降、土師器皿と杯にヘラ切りが残存し、東播磨とは様相が異なってくる。須恵器は、Ⅲ期新段階に平高台椀から無高台椀への変化が認められる。

各期の様相

皿と椀形態を中心に各期の様相を整理する。

Ⅰ期古段階は、神戸市上池遺跡SX02の資料を指標とする(5)。本資料の皿は、指圧痕を残す非ロクロ成形の皿とロクロ成形の皿が確認できる。このうち非ロクロ成形の皿は口縁部を外反させる**1**と直線的に外方へ延びる**2**がある。**1**は外反する口縁端部をわずかに摘み上げており、この器形の皿を古代からの系譜で捉えることができる。ただし、こうした口縁部の皿は多くなく、大半は端部を丸くおさめたものである。ロクロ成形の皿**3**については、一見生焼けの須恵器に近く、直線的な底面に外傾する口縁部を持つ。この器形は本時期以降確認できず、Ⅱ期の土師期皿に系譜上つながらないと考える。輪高台椀は**4**のように短く低平な輪高台を貼り付け、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部をわずかに外反させる。口縁端部はシャープにおさめる。

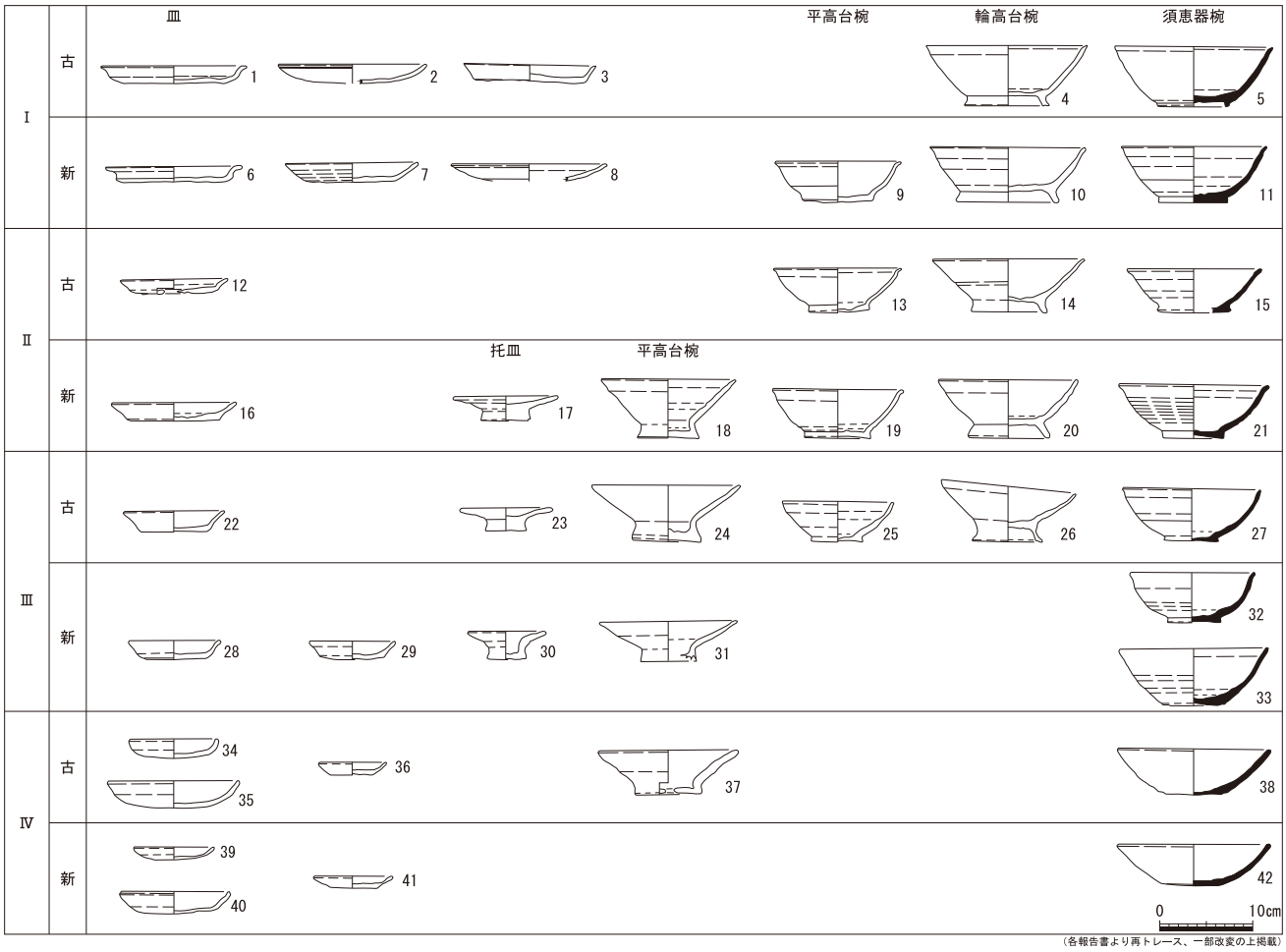
Ⅰ期新段階は、姫路市円教寺薬師堂の2層及び4層の資料を指標とする。本資料の皿は全て底部に指圧痕が認められる非ロクロ成形である。外反する器形**6**と直線的に外方へ延びる器形**7**・**8**がある。前者の器形には上池遺跡で認められた端部の摘み上げは認められない。外反度合いには強いものと弱いものがある。後者の器形については少量の出土で、本時期以後ほとんど認められない。

椀は**10**のように粘土紐巻上げにより成形し、器形は内湾気味もしくはやや直線的に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。口縁部のナデが強くなり、凸凹が目立つ個体も存在する。上原田遺跡や本町遺跡(大手前公園)では、直線的に外方へ延びる器形のものが出土しており、後述するⅡ期古段階との中間的な様相を呈している。平高台椀は円教寺では出土していない。平高台椀**9**は溝之口遺跡K地区SD003Kの資料を提示した。SD003Kは微高地の段差に沿った数本の溝の一つであり、厳密には一括性の担保はしがたく、参考資料として扱う。底部は回転ヘラ

切りで内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。

Ⅱ期古段階は、上脇遺跡H7A地区73016SEを指標とする。本資料の皿**12**は回転ヘラ切りで口縁部が外反する。資料数が少ないため断定はできないが、Ⅰ期ほど外反度の強い口縁部を持つ個体は見られない。ヘラ切り皿の法量は、口径9.4～12.2㎝、器高1.4～2.2㎝である。輪高台椀**14**は体部が直線的に外方へ延び、内面は平滑に仕上げる。この器形は次の段階では認められないことから当該時期の指標となる。ただ、西播磨ではこの時期に位置づけている本町遺跡や宮脇遺跡から輪高台椀が出土していないため、その様相は不明である。本町遺跡からは柱状高台の托皿が出土しており、本時期以降托皿が出土する。

Ⅱ期新段階は、小犬丸遺跡第20調査区瓦溜め7西及び第21調査区瓦溜め5を指標とする。この段階の皿の器形は**16**のように外反するものが主体的である。ヘラ切り皿の法量は、口径11.8～13.4㎝、器高1.7～2.5㎝である。平高台椀は前段階からの器形**19**と新たな器形**18**が出現する。**18**は小犬丸遺跡の椀C1と呼称されるものである(6)。体部は直線的に延び、見込みが大きく凹む器形でこの段階から出現する。輪高台椀**20**の底部は、輪高台の貼付け時等のナデが施される。そのため切り離しが判明する個体は少ない。数少ない個体から判断すると糸切りが優勢になる



1～5: 上池遺跡 SX02、6・7・10・11: 円教寺薬師堂第 2 層、8: 同第 4 層、9: 溝ノ口遺跡 K 地区 SD003K、12～15: 上脇遺跡 H7A 地区 73016SE、
16・18・19: 小犬丸遺跡第 20 調査区瓦溜め 7 西、17・20: 小犬丸遺跡第 21 調査区瓦溜め 5、21: 宿原寺ノ下遺跡 SK236、22・24～27: 大野遺跡 SX40、23: 宝林寺北遺跡土坑 42、
28・29・31～33: 宮脇遺跡 A ブロックⅣ地区 SK1、30: 宝林寺北遺跡 B 地区 SE01、34～38: 玉津田中遺跡 SG85001、39～42: 上脇遺跡 H7A 地区 72027SE

図103　播磨における土師器変遷図（S=1/8）

とみられる。また、輪高台部分が前段階に比べ高くなる傾向があり、高台部分を強調した例も認められる。托皿は**17**のように柱状高台を持つものが出土している。

Ⅲ期古段階は、大野遺跡南地区SX40を指標とする。皿は糸切りで外反する器形**22**を呈示したが、器形には外反するものと直線的に外方へ延びるものがある。法量は、口径8.5～11.6㎝、器高2.0～2.4㎝である。輪高台椀は**26**のように高台部の貼付け位置が高くなり、高台部が強調されたものとなる。出土量は少ない。平高台椀は**24**の器形と**25**の器形が存在するが、いずれも本時期以降出土量が減少していくとみられる。托皿は**23**のように柱状高台を持つものが出土している。西播磨では宝林寺北遺跡土坑42を土師器平高台椀･托皿の様相から当該期に位置づけたが、当該期の資料数が少なくその位置づけについては流動的である。

Ⅲ期新段階は、西播磨では宮脇遺跡AブロックⅣ地区SK1、東播磨では与呂木遺跡A-1地区土坑1を指標とする。皿については、西播磨では**28**のような糸切り皿、**29**のようなヘラ切り皿が出土する。東播磨では糸切り皿が主体的である。この段階の糸切り皿の法量は、口径8.4～12.8㎝、器高1.4～3.5㎝である。ヘラ切り皿の法量は、口径8.0～10.4㎝、器高1.4～2.4㎝である。托皿はこの段階で**30**のように内面底部が深く凹み、高台部の器壁が薄い器形が出土する。柱状高台の托皿の有無については両者の共伴資料がないため現状では不明である。平高台椀は**31**のように椀C1で、前段階と比較して器高が低くなる。消費地から出土する須恵器については、この段階で**32･33**のような平高台の須恵器椀と高台が痕跡程度となる須恵器椀が共伴する。呈示したのは、西播磨の宮脇遺跡の資料であるが、東播磨においても森田編年のI-1期からI-2期の移行期が当期に該当している。

Ⅳ期古段階は、玉津田中遺跡SG85001を呈示した。手づくね成形の皿**34･35**、糸切り皿**36**がある。手づくね成形の皿は丸みを帯びた器形で法量は大きく2分化する。法量は、小皿で口径7.8～9.9㎝、器高1.2～2.0㎝、大皿で口径11.9～16.2㎝、器高2.2～3.2㎝である。糸切り皿の法量は、口径7.0～9.0㎝、器高0.8～1.8㎝である。前段階に比べて糸切り皿の法量は小さくなる。西播磨におけるヘラ切り皿の法量は、口径7.3～9.3㎝、器高1.2～1.7㎝である。資料群を総体的にみた場合、糸切り皿とヘラ切り皿の小形化がⅢ期とⅣ期を画す一つの指標となる。平高台椀は出土数が極めて減少し、この段階以降ほぼ認められなくなる。托皿についても本時期以後、確認できていない(7)。

Ⅳ期新段階は、上脇遺跡H7A地区72027SEを呈示した。組成上はⅣ期古段階と大きく変わらない。手づくね成形の土師器大皿の器形が丸みを帯びたものから、体部の立上がりがやや角張り、外面をナデにより凹ませるものが出現するのを指標とした。手づくね成形の皿**39･40**、糸切り皿**41**がある。手づくね成形の皿が主体となり、糸切り皿は減少する。西播磨ではその傾向は更に顕著となる。法量は、小皿で口径7.4～8.8㎝、器高1.0～1.8㎝、大皿で口径11.0～13.5㎝、器高2.4～2.7㎝である。糸切り皿の法量は、口径7.5～8.2㎝、器高1.3～1.8㎝である。法量は、古段階に比べて縮小傾向はうかがえるが、総体としては大きく変わらない。

以上、4期8小期に分け、時期ごとに様相を俯瞰した。当然この小期の中にも時期差が存在することは承知しているが、現状ではそれを型式学的に担保できる資料数ではないことから本稿ではこれ以上の細分を行っていない。また、土師器から変遷を捉えることを主眼としたため、研究の蓄積のある須恵器についてはあえて参考程度としたことを付記する。

時期の比定

上述した各期の具体的な年代を検討していく。Ⅰ期については、Ⅰ期古段階の上池遺跡の資料が出土須恵器から札馬Ⅱ型式に位置づけられている(8)。Ⅰ期新段階にあたる円教寺薬師堂の遺物については、これまで10世紀中頃から後半とされ、円教寺創建年代と整合することから播磨における年代の一つの定点資料として扱われていた。しかし、近年の検討により、共伴する遺物の年代から下っても10世紀中頃までにおさまる可能性が指摘されている(9)。円教寺の資料と類似するのが第Ⅱ章第2節において呈示した辻垣内遺跡である。ここでは9世紀末頃に位置づけられる篠産の鉢Cが出土している。この資料は前述したように一括性を保った資料ではないが、Ⅰ期の年代を考える上で参考となる。円教寺資料は型式的にも上池遺跡の資料との連続性がうかがえる。このことから、円教寺資料の前段階にあたる上池遺跡の資料を、これまで指摘されている9世紀後半に位置づける。

Ⅱ期の年代を考えるうえで、加東市の木梨･北浦遺跡の天禄三年(972)の紀年をもつ巻数板周辺から出土した資料があげられる。ただし、これらは木簡と共伴する資料ではなく、木簡を被覆する埋土もしくは包含層の資料である(10)。この資料中に底部を欠損しているが、立上がりの脇にヘラの痕跡を残す皿が含まれている。土師器椀はヘラ切りと糸切り、土師器杯もヘラ切りと糸切りの双方が確認でき、様相としてはⅡ期新段階に近い。ただ、一括性のある資料ではないため、Ⅱ期のある時点に10世紀後半が含まれると認識しておきたい。

次に白水遺跡4次SX03が挙げられる。この資料も時期幅のある資料で一括性を担保できないが、土師器皿と椀に限ればⅢ期古段階に該当すると思われる。この資料中の軒丸瓦が神出窯万堡池支群出土瓦と同笵とされ、平安京民部省に瓦を供給した神出窯梟谷1号窯に先行する位置づけがなされている(11)。こうした播磨系の瓦の京都･奈良への供給は11世紀後半頃と考えられている(12)。このことからⅢ期古段階の一点を11世紀後半に位置づけることができる。

Ⅲ期新段階の年代を考えるうえでは、久留美･跡部窯跡群柳谷2号窯灰原出土資料が参考になる。当該窯では、天仁二年(1109)に造営された鳥羽離宮に使用された瓦笵がもたらされており、12世紀前半の年代が与えられている(13)。須恵器と土師器を焼成しており、土師器は回転糸切りの皿、中空の托皿、平高台椀が焼成されている。このうち回転糸切り皿については与呂木遺跡と類似し、距離的にも近く需給関係が想定できる。このことからⅢ期新段階の一点を12世紀前半と考えることができる。

以上から、Ⅰ期古段階を9世紀後半とし、以後の年代を暫定的に均等に割り振ればⅠ期新段階が10世紀前半、Ⅱ期古段階が10世紀後半、Ⅱ期新段階が11世紀前半、Ⅲ期古段階が11世紀後半、Ⅲ期新段階が12世紀前半、Ⅳ期古段階が12世紀後半、Ⅳ期新段階が13世紀前半となる。先に示した年代根拠とも大きな齟齬は生じていない。ここで呈示した年代観は、これまでの先行研究で示されたように、須恵器の年代観に基づくものではない。須恵器については前述したように参考程度の扱いとし、個別に整合を図ったものではない。しかし、図103に示したように須恵器の変遷についても大きく矛盾するものはなく、本書で呈示した土師器の変遷観について大枠で是認されよう。各期の年代比定については、時期を均等に割振る根拠はなく、あくまで現状での参考年代として呈示している。当然ながら、それぞれ前後にまたがる年代幅を内包していることは予想され、型式学的検討も含めて今後の課題であるが、ひとまず播磨地域における平安時代の土師器の様子を整理し、呈示した。本書では上述した根拠に基づき、時期区分を設定し村東遺跡出土資料の位置づけを行った。

第２節　村東遺跡の変遷

前節で検討した時期区分に基づいて、各遺構の時期を比定した。ただし、本遺跡の遺構は柱穴が中心であるため、明確に時期を決めることのできた遺構は少ない。そのため、包含層出土資料等を参考にしながら、遺構の変遷を述べることとする。

遺跡の中心範囲は図104に示したように東西方向は12-1区から9区までの約200m、南北方向は2区から10-1区までの約160mと推測される。そのうち遺構･遺物がまとまって出土しているのが4-1区、4-2区、5区、6-1区、10-1区、11区である。

建物跡は4-1区で6棟、4-2区で2棟、5区で1棟、6区で4棟、9区で1棟、10-1区 と11区 で9棟、12-1区で1棟検出され、計24棟である。墓は4-2区、6-1区、10-1区、11区、12-1区で計6基を確認している。

区画遺構は6-1区と11区で検出した溝と10-1区、11区で検出した溝または落込みがある。

井戸は4-1区で1基を確認した。

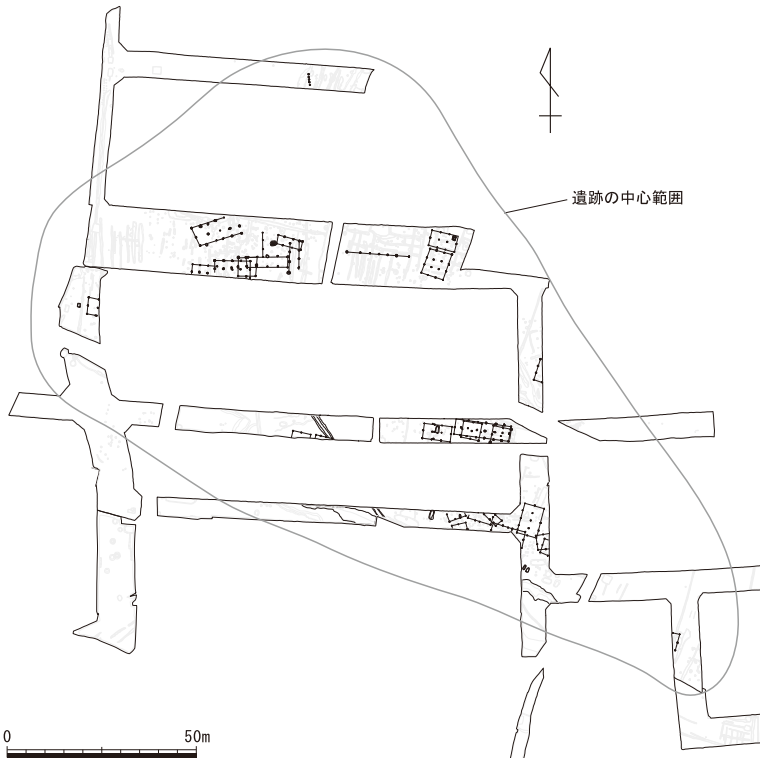


図104　村東遺跡主要遺構配置図（S=1/2,000）

本遺跡においては、柱穴同士の切合いが少なく、同一場所での建て替えをほとんど行っていないという特徴がある。

図105は建物跡、井戸、墓を主軸方向で分けたものである。大きく西側に傾くものが4-1区で1棟、10-1区と11区で4棟の計5棟ある。正方位に近い北向きの建物跡は4-1区で4棟、12-1区で1棟の計5棟検出している。東に傾くものは14棟ある。建物の主軸は当時の集落の軸と一致していると考えられ、建物の傾きによって遺構の同時性を考えることも可能である。その場合、4-1区SB05がI期新段階のSD17に切られているのを根拠に西傾→正方位→東傾といった変遷を考えることができる。遺跡の立地する自然堤防の主軸は、N110°～115°Wを測り、飾磨郡の条里方向に近い。このことから東傾する建物が自然地形に沿った形で建てられているといえる。次に図106には出土遺物により遺構を時期別に示した。まとまって遺物が出土した柱穴を持つ建物跡は少なく、厳密には時期を特定し難いが、各調査区において記述した遺物に基づき時期を与えた。

4-1区で検出した正方位に近い建物は全てⅠ期新段階に属し、10世紀前半の遺構である。12-1区SB01は北向きであるが出土遺物からは明確に時期を決め難く、12-1区ST01と主軸が揃うことからⅣ期新段階に位置づけられる可能性が高い。

西傾する建物のうち4-1区SB05は出土遺物から概ね10世紀前半と考えられるが、SD17に切

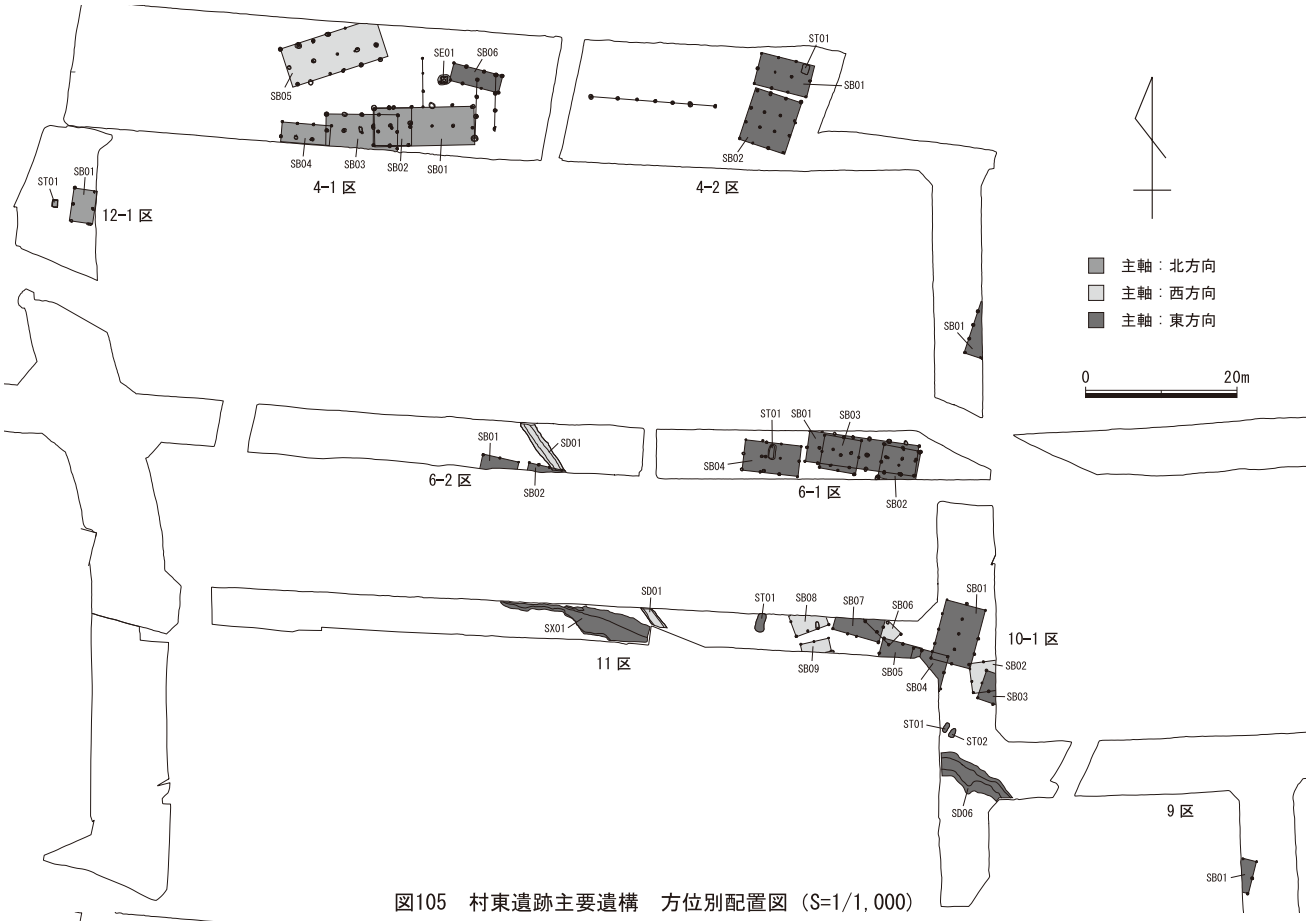


図105　村東遺跡主要遺構　方位別配置図（S=1/1,000）

図106　村東遺跡主要遺構　時期別配置図（S=1/1,000）

られていることからより時期が遡る可能性は十分考えられる。10-1区･11区のSB02･SB06･SB07･SB08･SB09はⅠ期の遺物を含む柱穴もあるが総じてⅣ期古段階、12世紀後半に位置づけられる。

東傾する建物のうち、4-2区SB01とSB02については、SB01はⅢ期新段階、12世紀前半に位置づけられる。SB02はSB01よりも古く位置づけられるが、出土遺物がなく、厳密には時期不明である。しかし、SB01と棟方向が概ねそろうことから大きな時期差はないと思われる。6-1区の建物は全てⅣ期古段階、12世紀後半に位置づけられる。5区･9区の建物跡についても概ね同様の時期と考えられる。10-1区･11区のSB01とSB04･SB05はⅣ期新段階に位置づけられる。

以上のように出土遺物からは、建物の棟方向は時期差ではなく、検出位置と関連するようにみえる。このことは包含層出土遺物にも端的に現れている。4-1区･4-2区といった北側の調査区にⅠ～Ⅲ期の土師器とともに緑釉陶器や黒色土器等の遺物が認められる。5区･6-1区･10-1区･11区といった南側の調査区からⅢ期～Ⅳ期の土師器とともに白磁･瓦器等の遺物が主として出土しており、建物の時期と概ね対応する。

表35　包含層出土遺物数量表

調査区	土師器食膳具合計		須恵器食膳具合計		緑釉陶器		黒色土器		白磁		青磁		瓦器		食膳具合計		調理具合計		貯蔵具合計		その他		不明		合計	
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
1区	39	398	41	627	1	10	0	0	1	31	0	0	0	0	82	1,066	23	768	23	830	9(布5)	926(282)	7	88	144	3,678
2区	130	1,393	134	1,287	0	0	1	5	1	28	0	0	0	0	266	2,713	50	1,535	58	2,317	3(布1)	245(80)	2	130	379	6,940
3区	29	127	25	319	0	0	3	35	0	0	0	0	3	55	61	576	17	462	6	170	20(布17)	3,371(3,180)	4	45	108	4,624
4-1区	1,090	7,500	905	8,105	4	108	3	9	1	38	2	27	2	14	2,007	15,801	513	9,702	268	10,515	65(布3/土30/羽1)	927(1,257/170/62)	154	1,333	3,007	40,278
4-2区	1,199	6,387	585	4,034	4	35	22	154	0	0	0	0	0	0	1,810	10,610	384	6,835	109	3,254	20(布1/土9)	684(60/36)	134	884	2,457	22,267
5区	73	387	119	888	0	0	0	0	3	86	0	0	10	50	195	1,232	77	1,204	27	1,245	3(布1/土1)	248(217/1)	11	43	313	3,972
6-1区	428	1,887	561	2,739	0	0	1	5	20	286	1	50	69	395	1,080	5,362	148	2,687	62	3,223	8(布2)	561(462)	25	183	1,323	12,016
6-2区	118	417	116	796	0	0	0	0	2	150	0	0	11	59	14	389	68	486	27	718	6	312	27	112	142	2,017
7区	35	388	79	764	0	0	0	0	5	138	0	0	6	40	126	1,346	49	1,333	14	539	3	37	3	36	195	3,291
8区	14	107	6	38	0	0	0	0	1	5	1	5	0	0	22	155	11	260	7	237	10(布1)	290(66)	2	40	52	982
9区	526	2,448	943	5,601	0	0	1	2	14	264	0	0	6	23	1,490	8,338	454	6,865	123	2,810	62(布1/土8)	1,563(105/41)	218	1,323	2,347	20,899
10-1区	573	3,173	515	4,512	0	0	0	0	15	187	5	36	27	170	1,135	8,078	224	3,574	140	4,105	38(土1)	2780(7)	137	1,006	1,674	19,543
11区	434	1,393	418	2,245	0	0	3	9	8	40	4	175	17	186	884	4,048	334	5,318	75	3,028	50(土2/羽2)	2,027(6/19)	71	331	1,414	14,752
12-1区	85	271	55	358	0	0	1	1	4	8	0	0	1	2	146	640	50	1,516	25	922	42	2,351	42	284	305	5,713
12-2区	0	0	2	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	19	0	0	0	0	32	1,398	9	52	43	1,469
12-3区	1	2	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7	4	94	0	0	18(土1)	1,069(5)	0	0	24	1,170
合計	4,774	26,278	4,505	32,337	9	153	35	220	75	1,261	13	293	152	994	9,322	60,380	2,406	42,639	964	33,913	83	4,098	846	5,890	13,927	163,611

包含層出土遺物は細片が多く、皿･杯･椀の器種識別ができる個体は少ない。識別できるものについては極力図化し、既に調査区ごとに示した。表35は本文中に掲載したものも含む包含層出土遺物の全数量を用途ごとに分類し示したものである。出土傾向としては、出土数の多い調査区に限れば、食膳具が60％以上を超え、調理具、貯蔵具の順となっている。このことから調査区ごとの時期差に対し、遺物組成には大きな変化は認められないことが指摘できる。つまり集落の性格は遺物組成から見る限り基本的に変化していないといえる。

検出した遺構の中心となる時期は、大きくⅠ期新段階とⅢ期新段階以降に分けられる。Ⅱ期に属す明確な遺構は少ないが、当該期の遺物も散見されることから集落そのものが断絶したのではないと思われる。本遺跡の特徴として柱穴等の切合いが少ないことがあげられる。こうした点から同一場所で建替えを繰り返しながら集落が変遷したのではなく、図104に示した範囲の中で地点を微妙に変えながら集落が変遷していったと推測できる。

次に検出した墓についてみる。Ⅲ期新段階の4-2区ST01、11区ST01を初現とし、Ⅳ期古段階の6-1区ST01、それよりやや時期の下る10-1区ST01･ST02、Ⅳ期新段階の12-1区ST01の6基がある。このうち、木棺墓は11区ST01と6-1区ST01である。その他は埋葬施設が確認できず、土葬墓であったと考えられる。4-2区ST01と11区ST01は石材を用いており、共通性がうかが

える。続く6-1区ST01も同様の構造を指摘できる。4-2区ST01と6-1区ST01は建物跡の内側で検出された。概ね柱間の中間に位置し、墓の主軸も建物跡と揃っていることから屋内に築かれた可能性も否定できない。

11区ST01の西側は建物跡が希薄となり、時期はややずれるが集落を画する可能性のあるSX01にも近い。10-1区ST01とST02は詳細にみれば新旧はあると思われるが、2基が計画的に配置されている。これらの墓は軸方向から10-1区SB01･SB03に関連すると見られる。墓の南側には建物跡は存在せず、集落の境界とみられるSD06が存在し、11区ST01と類似した状況である。12-1区ST01はSB01と主軸を揃え、同時期とすれば屋敷に近接して墓が築かれたことになる。

こうした屋敷墓を成立させた要因は、在地領主層を対象として検討した勝田至によれば「①開発者の霊と土地(特に屋敷地)との結びつきという観念、②それを支えている屋敷･土地の所有と継承というイエ制度、③墓(死体)に死者の人格が残るという観念、の３つが複合」したものとする(14)。屋敷墓を考古学的に研究した橘田正徳によれば、屋敷墓が風習として成立するのは11世紀後半とし、建物に近接する屋敷墓1類、屋敷の内と外とを区画する場所につくる屋敷墓2類、2基の土葬墓が並んで作られる屋敷墓3類の順に変遷するとする。また、この変遷を通じ「中世的家」の成立を読み取ることが可能としている(15)。村東遺跡においてはⅢ期新段階から屋敷墓が出現し、橘田の分類に従えば、建物に近接して作られた4-2区ST01、6-1区ST01、12-1区ST01が屋敷墓1類、11区ST01が屋敷墓2類に該当し、2基の土葬墓が並ぶ10-1区ST01･ST02が屋敷墓3類に該当する。

こうした研究を参考にすれば、村東遺跡においてはⅢ期新段階、12世紀前半以降に「イエ」が成立し、当該時期を境に建物の軒方向も主として東に傾くことから、新たな集落の編成を読み取ることが可能である。

13世紀前半以降は、遺構･遺物とも確認できなくなることから集落が移動したと考えられる。基幹水路の前身と見られる6-1区SD03と12-2区SD01、8区･9区にみられる鋤溝の存在から遺跡周辺は耕作地として利用されるようになったと思われる。10-2区や12-3区の調査では遺跡と現在の集落との間には生活痕跡の希薄な部分があることが判明しており、生活の場は、現在の集落の位置に移動したものと想定されよう。

第３節　村東遺跡の位置づけ

村東遺跡では10世紀前半の遺構が確認された。当該期の建物跡は概ね正方位を取るものの、大きな規模のものは確認できない。遺跡の自然地形は、前述したとおり概ね飾磨郡の条里方向に近く、当該期の建物跡の棟方向は自然地形にそわず極めて意図的である。当該期の遺構の性格を探る遺物としては、本町式軒丸瓦と風字硯があげられる。いずれも南部に位置する調査区から出土しているが、原位置を保ったものではない。本町式軒丸瓦はいわゆる播磨国府系瓦で8世紀後半の年代が与えられている(16)。そのため、直接的に当該期の遺構に関わるわけではないが、摩滅していないため近接して瓦を使用した施設があった可能性がある。風字硯の時期は不明ではあるが、文書作成に携わる階層の存在がうかがえる。それぞれ1点のみの出土であるため実証性を欠くが、緑釉陶器･黒色土器等の出土とともにこうした遺物が出土している点を積極的に評価したい。また、ほぼ同時期の資料が辻垣内遺跡でも出土している。この遺跡も村

東遺跡から延びる一連の地形上に立地している可能性が高い。実態はなお明らかではないものの夢前川河口部に10世紀前半には村東遺跡や辻垣内遺跡といった集落が点在していた景観が復元できる。

『日本紀略』寛和二年(986)七月、花山法皇が書写山円教寺に性空上人を訪問した記載がある。円教寺文書『悉地伝』には、その時、花山法皇が「英賀河尻」から船出したことが記されている(17)。『播磨国風土記』の記載から村東遺跡や辻垣内遺跡を含む夢前川河口一帯が「英賀里」と呼ばれていたと推測されることは前述したとおりである。「英賀河尻」の具体的な所在を知ることはできないが、この時期、夢前川の河口部に点在する村東遺跡や辻垣内遺跡等の集落が、総体として「英賀」と呼ばれていた可能性は高い。

12世紀前半以降の集落については、新たな領主の下で中世的な「イエ」が展開・発展し、集落が再編された可能性を指摘できる。そうした記憶が山崎の氏神である野杉春日神社の勧進伝承に残されていると想像できる。村東遺跡は、狭義には近世以降に文献上に現れる山崎村の前身集落と考えられるが、広義には中世後半に史料上に現れる「英賀」の前身であり、平安時代の「英賀」、そのものであると位置づけることができるのではないだろうか。

註

(1)例えば

中村　浩　1982「考察」『札馬古窯跡群発掘調査報告書』加古川市文化財調査報告7　加古川市教育委員会

2000「平安時代以降の須恵器型式編年について」『中津倉』大谷女子大学博物館報告書第43冊

森田　稔　1986「東播系中世須恵器生産の成立と展開」『神戸市立博物館研究紀要』第3号

森内秀造　1986「平安時代の窯業生産-播磨地方の須恵器生産を中心に-」『北山茂夫追悼日本史学論集　歴史における政治と民衆』日本史論叢会

1995「相生窯址群における編年の再考」『相生・緑ヶ丘窯址群Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第139冊

2011「出土遺物の検討」『神出窯跡群Ⅲ』兵庫県文化財調査報告第407冊

2015「神出窯須恵器の生産地編年の再検討に向けて」『中近世土器の基礎研究』26

岸本一郎・森下大輔　1990「東播北部古窯址群の基礎資料-西脇市南部及び加東郡北部に分布する奈良・平安時代の窯址群-」『今里幾次先生古稀記念　播磨考古学論集』

野村展右　2001「相生・龍野古窯跡群についてー採集資料の紹介からー」『ひょうご考古』第7号　兵庫考古研究会

池田征弘　2003「まとめ」『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅲ』兵庫県文化財調査報告第253冊　　等がある。

平安時代前期の須恵器については、森田1986において「古代須恵器」と「中世須恵器」の間をつなぐ「過渡期須恵器」と位置づけている。この時期の須恵器椀は、森内1995で述べるように「その形態的変化はきわめて乏しく、また、ゆるやかなもの」で、かつ、森田1986において「札馬・相生窯址群を比較するだけでも、東西でその様相は異なっている」と指摘するように東播磨と西播磨とで地域差が存在する。各窯において精力的な検討が行われているが、各窯を横断した検討は森内2011などで行われているものの、播磨全域を対象とした編年の確立は今後の検討課題である。

(2)岸本道昭編 1999『竹原遺跡』龍野市文化財調査報告22

(3)日本中世土器研究会編　2015『中近世土器の基礎研究』26

(4)例えば

山仲　進　1989「東播磨の在地系土師器」『神出1986』妙見山麓遺跡調査会

橋本久和　1991「畿内周辺の回転台土師器」『考古学研究』第38巻第1号　考古学研究会

菅本宏明　1993「東播系須恵器出現期における摂播国境地域の土器様相」『考古論集』潮見浩先生退官記念事業会

宮原文隆　1994「円満寺遺跡出土の土器類について」『円満寺遺跡』中町文化財報告7

2002「平安時代末～中世前半の概要」『思い出遺跡群Ⅳ』中町文化財報告27

岸本道昭　1994「布勢駅家廃絶期の土器」『布勢駅家Ⅱ』龍野市文化財調査報告11
中川　渉　1996「中世の土器」『玉津田中遺跡　第6分冊（総括編）-田中特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書-』兵庫県文化財調査報告第135－6冊
鋤柄俊夫　1997「播磨」『中世食文化の基礎的研究』国立歴史民俗博物館研究報告71
山田清朝　1997「平安～鎌倉時代の土器」『美乃利遺跡』兵庫県文化財調査報告第165冊
2010「まとめ」『大野遺跡』兵庫県文化財調査報告第380冊
山本雅和　1999「平安時代中期の土器と瓦」『白水遺跡第4次埋蔵文化財発掘調査報告書』
甲斐昭光　2002「土師器皿の変遷について」『宝林寺北遺跡Ⅱ』兵庫県文化財調査」報告第223冊
中井淳史　2007「中世播磨の土師器様相」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～補遺編』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会　　等がある。

これらの先行研究のうち、橋本、菅原、鋤柄、中井を除く各氏が行ったものは、報告遺跡の位置づけのために検討されたものである。いずれも共伴する須恵器の変遷観に基づき、土師器の器形分類や瓦器椀や瓦等の共伴資料の検討を踏まえ年代を探っている。検討の対象となっている資料は、「東播系」須恵器の出現以降の時期のものが中心である。そうした中で山田1997･2010では、大きくヘラ切り→糸切り→手づくねの変遷が捉えられている。また、甲斐2002では土師器皿の底部調整と須恵器椀の変遷を整理することで、ヘラ切り→糸切りへと変遷し、手づくねはその間一定量伴うことが指摘されている。両者の検討は一遺跡もしくは近隣の遺跡を検討対象としたもので、本書では、これらの研究を参考とし播磨全域を対象とした。

こうした地域･遺跡に即した研究とは別に、橋本らをはじめとする各氏は、製作技法や周辺地域の動向とを絡めながら大局的に播磨地域を俯瞰した研究を展開している。主として平安時代前期を対象とした橋本1986では東播磨と西播磨で土師器の様相が異なることを指摘し、主として平安時代後期以降を対象とした中井2007においても土師器の変遷に西播磨･東播磨･北播磨において地域差があることが指摘されている。

(5)神戸市埋蔵文化財センターにおける実見による。本資料は質･量に恵まれたもので、報告書に記載された以上にバリエーションが豊かである。表32には実見により観察できたものを＋として表記した。

(6)岸本道昭編 1994『布勢駅家Ⅱ』竜野市文化財調査報告11

(7)托皿の認定については報告者により異なり、図103-31･37については報告書では托皿に分類されているが、本稿では土師器椀とした。

(8)同資料については、報告書中では周辺の遺構を含めて平安時代前半（10世紀前半ごろ）に位置づけられており、前掲註4の橋本1991や菅本1993では9世紀後半としている。

(9)山本和子　2010「円教寺薬師堂」『姫路市史』第7巻　資料編考古
中井淳史・松本彩ほか　2013「円教寺薬師堂の出土遺物」『播磨六箇寺の研究Ⅰ-書写山円教寺の歴史文化遺産（一）』

(10)実見による。なお、本資料中の須恵器は東播北部古窯址群1段階の指標となっている鍋子1号窯址の年代推定根拠ともなっていることを森下大輔氏にご教示いただいた。

(11)池田征弘　2011「軒瓦の変遷」『神出窯跡群Ⅲ-神出鴨谷1号窯～3号窯･神出梟谷1号窯-』兵庫県文化財調査報告第407冊

(12)上原真人　2014「古代の終焉と播磨の瓦生産」『明石の古代Ⅱ』発掘された明石の歴史展実行委員会

(13)池田征弘　1999「出土瓦の検討」『久留美･跡部窯跡群』兵庫県文化財調査報告第186冊

(14)勝田　至　1988「中世の屋敷墓」『史林』71巻3号

(15)橋田正徳　2004「中世前期の墓制-墓地･屋敷墓からみた中世前期の家･集落･社会-」『考古学の語る中世墓地物語』第5回大谷女子大学文化財学科　公開講座

(16)今里幾次　1995『播磨古瓦の研究』

(17)姫路市史　2005『姫路市史』第8巻　史料編　古代中世1

参考報告書

上池遺跡：神戸市教育委員会　1989『昭和61年度神戸市埋蔵文化財年報』
長塚遺跡：加西市教育委員会　1995『長塚遺跡Ⅰ』加西市埋蔵文化財調査報告23
白水遺跡：神戸市教育委員会　1995『平成4年度神戸市埋蔵文化財年報』
神戸市教育委員会　1999『白水遺跡第4次』
神戸市教育委員会　2000『白水遺跡第3･6･7次　高津橋大塚遺跡第1･2次発掘調査報告書』
溝之口遺跡：兵庫県教育委員会　2006『溝之口遺跡』兵庫県文化財調査報告第309冊
家原堂ノ元遺跡：加東郡教育委員会　1984『家原･堂ノ元遺跡』加東郡埋蔵文化財報告5
上脇遺跡：兵庫県教育委員会　2002『上脇遺跡Ⅰ』兵庫県文化財調査報告第233冊
兵庫県教育委員会　2002『上脇遺跡Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第233冊
宿原寺ノ下遺跡：兵庫県教育委員会　2004『宿原寺ノ下遺跡』兵庫県文化財調査報告第264冊
戸田遺跡：兵庫県教育委員会　2003『戸田遺跡発掘調査報告書』兵庫県文化財調査報告第262冊
曽我井･野入遺跡：兵庫県教育委員会　2012『曽我井･堂ノ元遺跡、曽我井･野入遺跡、曽我井･沢田遺跡』兵庫県文化財調査報告第434冊
糀屋･土井の後遺跡：多可町教育委員会　2008『坂本･土井の内遺跡、坂本･クゴ田遺跡、糀屋･土井の後遺跡Ⅱ』多可町文化財報告5
大野遺跡：兵庫県教育委員会　2010『大野遺跡』兵庫県文化財調査報告第380冊
梶原･番丁田遺跡：加東郡教育委員会　1994『埋蔵文化財調査年報』加東郡埋蔵文化財報告15
柳谷２号窯：兵庫県教育委員会　1999『久留美･跡部窯跡群』兵庫県文化財調査報告第186冊
与呂木遺跡：兵庫県教育委員会　1994『与呂木遺跡』兵庫県文化財調査報告第133冊
出合遺跡：神戸市教育委員会　2011『出合遺跡』
垂水･日向遺跡：神戸市教育委員会　1992『神戸市垂水･日向遺跡第1･3･4次調査』
福住遺跡：神戸市教育委員会　1987『昭和59年度神戸市埋蔵文化財年報』
今池尻遺跡：神戸市教育委員会　1995『平成4年度神戸市埋蔵文化財年報』
玉津田中遺跡：兵庫県教育委員会　1995『玉津田中遺跡　4分冊』兵庫県文化財調査報告第135-4冊
神戸市教育委員会　2000『玉津田中遺跡発掘調査報告書　第8･10･12･13･15次調査』
竹原遺跡：龍野市教育委員会　1999『竹原遺跡』龍野市文化財調査報告22
上原田遺跡：兵庫県教育委員会　1980『播但連絡有料道路建設にかかる埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』
本町遺跡：姫路市教育委員会　1984『本町遺跡』
姫路市教育委員会　2002『特別史跡姫路城跡-お城本町地区市街地再開発事業に伴う発掘調査概報』
姫路市立城郭研究室　2001『城郭研究室年報』Vol.10
円教寺薬師堂：水口富夫　1986「薬師堂出土遺物について」『1000年の歴史を秘める-書写山円教寺』兵庫県立歴史博物館
大手前大学史学研究所　2013『播磨六箇寺の研究Ⅰ-書写山円教寺の歴史文化遺産（一）』
宮脇遺跡：兵庫県教育委員会　1995『宮脇遺跡』兵庫県文化財調査報告第138冊
小犬丸遺跡：龍野市教育委員会　1992『布勢駅家』龍野市文化財調査報告8
龍野市教育委員会　1994『布勢駅家Ⅱ』龍野市文化財調査報告11
宝林寺北遺跡：兵庫県教育委員会　1987『宝林寺北遺跡』兵庫県文化財調査報告第49冊
兵庫県教育委員会　2002『宝林寺北遺跡Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第223冊
市之郷遺跡：兵庫県教育委員会　2011『市之郷遺跡Ⅲ』兵庫県文化財調査報告第406冊
生栖遺跡：一宮町教育委員会　1989『生栖遺跡Ⅱ』一宮町文化財調査報告5
福田天神遺跡：龍野市教育委員会　1982『福田天神遺跡』龍野市文化財調査報告書Ⅳ
長尾谷遺跡：龍野市教育委員会　1999『長尾･小畑遺跡群』龍野市文化財調査報告21
福田片岡遺跡：兵庫県教育委員会　1991　『福田片岡遺跡』兵庫県文化財調査報告書第94冊

遺物観察表

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項
1	1区	SD01	須恵器	椀	(10.2)	(2.6)	–	(6.4)	底部1/4	普通	密、φ1mm以下の白、黒色流含む	N7/灰白色	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
2	1区	SD01	瓦	丸瓦	長(6.0)	厚1.8	幅(7.6)	–	1/10	堅緻	やや粗い、φ～1mm以下の黒、透明、白色粒微量含む	2.5Y8/1灰白色	端部面取り 凹面ヨコ方向ケズリ
3	1区	SD01	瓦	丸瓦	長(7.5)	厚1.8	幅(7.6)	–	1/10	普通	やや粗い、φ～1mm以下の白、灰、黒色粒少量含む	10YR8/2灰白色	凹面布目(縦7本・横7本/cm)、被熱痕跡
4	1区	包含層	土師器	椀	–	(1.7)	(6.9)	(6.9)	底部2/3	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	7.5YR6/3にぶい褐～2.5YR7/4淡赤橙	底部糸切り、高台脇ナデ、内面付着物のため調整不明 岸本分類椀C1
5	1区	包含層	土師器	椀	–	(2.45)	(9.2)	4.8	底部1/1	甘	やや密、φ0.1～0.3mmの乳白色粒少量含む	5YR7/6橙	底部糸切り、器面摩滅、Ⅲ期
6	1区	包含層	緑釉陶器	碗か	–	(1.55)	(9.1)	(6.3)	底部1/6	良好	精良	7.5Y6/3オリーブ黄	軟陶、削り出し輪高台、外面高台脇まで部分的に施釉
7	1区	包含層	白磁	碗	(16.3)	(3.85)	–	–	口縁1/7	良好	精良	7.5Y7/1灰白	白磁碗、太宰府分類Ⅳ類
8	1区	包含層	須恵器	椀	–	(2.3)	(10.55)	5.2	底部1/1	普通	やや密、φ0.1～0.3mmの乳白色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
9	1区	包含層	須恵器	椀	–	(2.6)	(10.5)	(6.7)	底部1/2	普通	密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、高台部つぶれ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
10	1区	包含層	須恵器	椀	–	(2.1)	(8.4)	7.4	底部2/3	良好	密、φ0.5～2mmの白色粒中量含む	N6/灰	底部ヘラ切り、高台内に爪形状圧痕、輪高台貼り付け、高台内ヘラ痕、内外面回転ナデ
11	1区	包含層	土師器	羽釜	–	(4.0)	–	–	口縁1/10	普通	やや粗い、φ3～1mm程の赤褐色、白色、黒色粒を多く含む	7.5YR5/2灰褐～4/1褐灰	顎部貼り付け、口縁部ナデ、短顎羽釜
12	1区	包含層	土師器	羽釜	–	(5.15)	–	–	口縁1/10	甘	やや粗い、φ0.5～2mmの灰色、褐色、白色粒中量含む	10YR6/4にぶい黄橙	外面タテハケ、顎部貼り付け後ナデ、内面ナデ、短顎羽釜
13	1区	包含層	瓦	丸瓦	長(6.45)	厚1.5	幅(8.0)	–	–	良好	粗い、φ～3mm大の灰色粒を少量含む	2.5Y8/1灰白	凸面ナデ、凹面布目、側面面取り
14	1区	包含層	瓦	平瓦	長(8.3)	厚2.45	幅(11.7)	–	1/10	良好	やや粗い、φ0.5～2mmの白色、灰色、透白色粒少量含む	N7/灰白	凸面格子タタキ、凹面布目(縦5本/cm、横6本/cm)、側面面取り
15	2区	SD01	土師器	椀	–	(3.6)	(12.7)	(9.7)	底部1/1	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	10YR8/2灰白～5YR7/6橙	底部指圧痕、輪高台貼り付け、Ⅰ期
16	2区	SK01	須恵器	椀	–	(2.6)	(10.6)	(6.2)	底部1/4	甘	やや粗い、φ～2mm大の灰、透明色粒やや多く含む	N8/灰白色	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
17	2区	SK01	須恵器	椀	–	(2.0)	(9.1)	(5.6)	底部1/3	普通	密、φ0.1cm以下の白色、灰色粒を多く含む	N7/灰白色	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
18	2区	SK08	須恵器	椀	–	(1.25)	(6.4)	(4.1)	底部1/4	普通	密、φ0.5mmの白色粒少量含む	N5/灰色	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
19	2区	SK08	須恵器	椀	–	(2.6)	–	–	口縁1/16	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒少量含む	N7/灰白色～N5/灰色	口縁端部やや外反、内外面回転ナデ
20	2区	包含層	土師器	杯	(13.2)	3.35	–	(7.1)	口縁1/6	普通	密、φ1.5mmの白色粒を含む	5YR7/6橙	底部調整不明、外面凸凹顕著
21	2区	包含層	土師器	杯	(12.5)	3.1	–	7.9	1/3	普通	密、φ0.5～2mmの褐色、白色粒中量含む	5YR6/6橙	底部ヘラ切りか、外面付着物、内面剥離
22	2区	包含層	土師器	杯	(14.1)	3.0	–	(8.2)	底部1/5	普通	やや粗い、φ5～1mmの白色粒を含む	5YR7/6橙	底部調整不明、器面摩滅
23	2区	包含層	土師器	杯	–	(1.15)	(10.35)	(6.9)	底部1/1	普通	密、φ0.5～2mmの灰色、白色、褐色粒少量含む	2.5Y6/1黄灰	底部ヘラ切り、外面摩滅、内面ナデ
24	2区	包含層	土師器	杯	–	(1.4)	(10.25)	8.25	底部3/4	普通	密、φ1mm程の白色粒を多く含む	10YR5/1褐灰	底部ヘラ切り、器面摩滅
25	2区	包含層	土師器	椀(底部)	–	(2.25)	–	8.1	底部1/1	普通	密、φ0.5～4mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	5YR6/6橙	底部ヘラ切り、器面摩滅、岸本分類椀C1、Ⅱ期新段階以降
26	2区	包含層	土師器	椀	–	(2.7)	(9.1)	(6.0)	底部1/2	普通	密、φ0.5～2mmの白色、灰色粒少量含む	5YR7/4にぶい橙	底部糸切り、器面摩滅
27	2区	包含層	土師器	羽釜	–	(6.2)	–	–	口縁1/10	普通	やや粗い、φ0.1～0.3mmの乳白色粒中量含む	10YR7/2にぶい黄橙	内外面ナデ、短顎羽釜
28	2区	包含層	白磁	碗	(15.6)	(4.55)	–	–	口縁1/8	普通	精良	7.5Y8/1灰白	白磁碗、玉縁部小さく扁平、太宰府分類Ⅱ-5類
29	2区	包含層	須恵器	椀	(15.9)	(4.4)	–	–	口縁1/8	普通	密、Φ1mm以下の白色粒を多く含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、口縁部重焼痕
30	2区	包含層	須恵器	椀	–	(3.25)	(11.7)	(5.9)	底部1/3	良好	密、φ0.5～2mmの白色、灰色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
31	2区	包含層	須恵器	椀	–	(2.4)	(11.4)	(5.65)	底部3/5	良好	密、φ0.5～3mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
32	2区	包含層	須恵器	椀	–	(2.25)	(10.1)	(7.1)	底部1/3	普通	密、φ1mmの白色粒を多く含む	N8/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
33	2区	包含層	須恵器	杯	–	(2.6)	(12.0)	(8.8)	底径1/3	普通	やや粗い、φ～3mm大の黒、白色粒微量含む	N8/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ、相生窯分類杯C
34	2区	包含層	須恵器	壺	(9.4)	(6.1)	(9.8)	–	頸部1/3	普通	密、φ～4mm大の白色粒少量含む	5PB6/1青灰	内外面回転ナデ
35	2区	包含層	須恵器	壺(底部)	–	(2.65)	(11.1)	(9.3)	底部1/3	良好	密、φ0.5～2mmの白色、赤褐色、灰色粒中量含む	7.5YR7/2明褐灰、N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
36	3区	SD01	青磁	碗	–	(4.25)	–	–	口縁1/10	普通	精良	緑灰色	端部肥厚し、外反
37	3区	包含層	瓦器	椀	–	5.3	–	–	1/8	普通	密、φ0.5～1mmの白色、灰色粒、中量含む	N4/灰	和泉型瓦器椀、器面摩滅
38	3区	包含層	黒色土器	椀	(17.0)	(4.45)	–	–	口縁1/8	甘	密、φ0.5～3mmの白色、灰色、透白色粒中量含む	内面:N3/暗灰、外面:7.5YR7/4にぶい橙	内面黒色(A類)、口縁端部沈線、器面磨滅
39	3区	包含層	瓦器	椀	–	(1.4)	(7.7)	(4.6)	底部1/2	甘	やや密、φ0.1～2mmの乳白色粒まれに含む	2.5Y7/1～2.5Y8/2灰白	貼り付け高台、断面三角形、内外面とも炭素吸着無し
40	3区	包含層	須恵器	椀	–	(3.5)	(12.2)	(6.0)	底部2/5	普通	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ
41	3区	包含層	須恵器	椀	–	(3.1)	(12.8)	(4.5)	底部1/2	普通	密、φ1～2mm大の乳白色粒、灰色粒少	N8/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
42	3区	包含層	瓦	平瓦	長(10.9)	厚2.65	幅(7.4)	–	1/10	甘	粗い、φ0.1から2mmの乳白色、黒、透明粒多量に含む	5Y3/1オリーブ黒	凸面縄目タタキ、砂付着、凹面布目
43	3区	包含層	瓦	平瓦	長(15.7)	厚2.0	幅(13.2)	–	1/10	普通	やや粗い、φ～1mm大の白、透明、灰色粒少量含む	N5/～N/6灰	凸面縄目タタキ後粗いハケ、凹面布目、粗いハケ、側面面取り、298・817と同じ
44	4-1区	SP130	須恵器	椀	(15.5)	(6.3)	–	–	口縁1/5	良好	密、φ0.5～1mmの白色粒	N6/灰	内外面回転ナデ
45	4-1区	SP130	須恵器	椀	–	(3.3)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒僅	N6/灰	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
46	4-1区	SP143	土師器	椀	–	(3.15)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ1mm大の白色粒を含む	10YR6/2灰黄褐	口縁端部外反、内外面ナデ
47	4-1区	SP143	須恵器	椀	–	(1.9)	–	–	口縁1/12	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	N8/灰白	内外面回転ナデ
48	4-1区	SP157	須恵器	椀	–	(3.85)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～3mm大の白、透明色粒少量含む	7.5Y2/1黒	内外面回転ナデ、内外面とも黒色を呈す
49	4-1区	SP116	須恵器	椀	–	2.1	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の黒色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、口縁端部外反
50	4-1区	SP116	須恵器	椀	–	(1.6)	(11.0)	(7.7)	底径1/6	普通	密、φ1mm程の黒色粒含む	N6/灰	底部糸切り
51	4-1区	SP96	土師器	椀	–	(2.3)	(8.2)	(8.0)	底部1/6	甘	密、φ～1mm大の白、透明粒まれに含む	7.5YR7/6橙	輪高台貼り付け、器面摩滅
52	4-1区	SP127	土師器	椀	–	(4.1)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の白、赤褐、黒少量含む	10YR6/2灰黄褐	立ち上がり直線的、口縁端部外反
53	4-1区	SP94	須恵器	椀	–	(1.7)	(9.6)	(5.4)	底部1/4	普通	密、φ～2mmの白、黒色粒微量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
54	4-1区	SP97	須恵器	椀	–	(1.55)	(8.3)	(4.9)	底部1/2	普通	密、φ1～2mm大の乳白色粒僅	N5/灰	底部糸切り、見込み凹み、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
55	4-1区	SP53	須恵器	椀	–	(3.2)	–	–	口縁1/12	良好	密、φ～4mm大の白色粒まれに含む	5B6/1青灰	内外面回転ナデ、口縁部外反
56	4-1区	SP30	土師器	杯	–	(3.45)	–	–	口縁1/8	普通	やや粗い、φ2mm前後の白色粒を多量に含む	5YR8/4淡橙	体部内湾、口縁端部やや外反、器面摩滅
57	4-1区	SP83	土師器	皿	(13.8)	(2.1)	–	(9.6)	1/8	普通	密、φ～2mm大の白、透明、黒色粒少量含む	10YR5/3にぶい黄褐	底部調整不明、内外面ナデ、口縁部端面
58	4-1区	SP84	土師器	杯	–	(2.75)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色、灰白色粒僅	5YR7/6橙	粘土紐巻上げ、外面指圧痕、口縁部・内面ナデ

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
59	4-1区	SP87	須恵器	椀	−	(2.1)	(8.4)	(5.3)	底部1/2	普通	密、φ～1mm以下の白色粒微量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
60	4-1区	SP185堀方	土師器	皿	(12.1)	(1.35)	−	(9.0)	口縁1/6	普通	φ～3mm大の白、赤褐色粒やや多く含む	7.5YR8/6浅黄橙	粘土紐巻上げ、口縁端部外反、底部指圧痕、口縁部・内面ナデ、Ⅰ期
61	4-1区	SP185	須恵器	杯	(14.0)	3.2	−	(7.0)	1/8	普通	密、φ1mm程の白色粒、褐色粒、黒色粒を含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、体部直線的、口縁端部わずかに外反 内面火襷、相生窯分類杯A
62	4-1区	SP175	土師器	皿	(13.8)	1.2	−	(11.2)	1/6	普通	密、φ0.5～1mm大の赤褐色、乳白色粒僅	7.5YR8/4浅黄橙	粘土紐巻上げ、底部指圧痕、口縁外反、ナデ、Ⅰ期
63	4-1区	SP145堀方	須恵器	椀	−	(2.5)	(9.4)	(5.5)	底部1/2	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒僅	N4/灰	底部糸切り、無高台であるが東播系ではない
64	4-1区	SP145	須恵器	椀	(12.4)	(3.85)	−	−	口縁1/5	普通	やや粗い、φ～1mm大の白色粒やや多く含む	N7/灰白～6/灰	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
65	4-1区	SP151	土師器	羽釜	−	(3.8)	−	−	口縁1/20	普通	やや粗い、φ～1mm大の赤、黒色粒やや多く含む	2.5Y8/2灰白	内外面ナデ、顎端部上下にやや拡張、短顎羽釜
66	4-1区	SP29	木製品	柱	長(42.2)	径(20.5)	−	−	−	−	−	−	丸太材、小口面水平
67	4-1区	SP112堀方	木製品	柱	長(49.5)	径(20.2)	−	−	−	−	−	−	丸太材、小口面水平
68	4-1区	SP254	木製品	柱	長(32.1)	径(19.0)	−	−	−	−	−	−	丸太材、小口面水平
69	4-1区	SE01 最下層	土師器	杯	(12.9)	3.5	−	(8.0)	1/2	普通	密、φ～3mm大の白、赤褐色粒やや多く含む	2.5Y8/1灰白～5YR6/4にぶい橙色	粘土接合痕、底面は内外面指圧痕、内外面ナデ、Ⅰ期
70	4-1区	SE01 最下層	須恵器	杯	(11.5)	3.85	−	(7.2)	1/4	良好	密、φ0.5mm大の灰白色粒僅	5Y8/1灰白	底部ヘラ切りか、内外面ナデ
71	4-1区	SE01	土師器	椀	−	(2.45)	9.0	9.0	底部1/1	普通	密、φ2mm大の砂粒を微量含む	2.5Y8/1灰白	底部内外面とも指圧痕、その後輪高台貼り付け、内面スス痕、Ⅰ期
72	4-1区	SE01	須恵器	椀	−	(3.1)	(12.1)	6.7	底径1/1	普通	密、φ～4mm大の透明、乳白、黒色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、外面スス痕、相生窯分類C1
73	4-1区	SE01	須恵器	椀	(16.2)	5.9	−	(6.8)	1/2	普通	密、φ1mmの粒少量含む	N6/灰色	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
74	4-1区	SE01	須恵器	椀	−	(4.15)	(15.0)	(8.5)	底部1/3	不良	密、φ1mm～2mmの白色、褐色粒少量含む	2.5Y7/1灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、外面に段、相生窯分類椀C2
75	4-1区	SE01 上層	須恵器	壺	−	(4.6)	(10.1)	−	頸部1/3	良好	密、φ0.5mm～2mmの灰色、白色粒少量含む	N6/灰	口縁端部、胴部欠損、内外面ナデ
76	4-1区	SE01 上層	須恵器	甕	−	(17.3)	−	−	胴部1/10	良好	密、φ0.5～2mmの白色、褐色粒中量含む灰色粒、少量含む	N6/灰	内面同心円状当具痕、外面平行タタキ
77	4-1区	SD02	黒色土器	椀	−	(3.55)	−	−	口縁1/10	普通	密、φ0.5mmの白色粒少量含む	N3/暗灰	内外面黒色(B類)、内面端部沈線、外面ミガキ顕著、内面摩滅
78	4-1区	SD02	須恵器	椀	−	(3.5)	−	−	口縁1/12	普通	密、φ1～1.5mm大の灰白色粒僅	N8/灰白	口縁部内湾、内外面回転ナデ
79	4-1区	SD02	須恵器	椀	−	(1.55)	(9.1)	(6.0)	底部1/4	普通	密、φ1mm大の白色粒少量含む	5Y7/1灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
80	4-1区	SD04	土師器	皿	−	(2.05)	−	−	口径1/9	普通	密、φ1mm以下の白色粒を多く含む	10YR8/2灰白	底部調整不明。器面摩滅
81	4-1区	SD04	須恵器	椀	−	(3.45)	(12.1)	6.1	底部2/3	良好	密、φ0.5～2mm大の白色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、高台脇つぶれ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
82	4-1区	SD09	須恵器	椀	−	(4.3)	(13.6)	(8.0)	底部1/6	普通	密、φ～3mm大の乳白、灰色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、外面スス痕、相生窯分類椀C1
83	4-1区	SD10	土師器	杯	−	(2.2)	(10.0)	(7.6)	底部1/3	普通	密、φ～1mm大の赤褐、黒、白少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	底部ヘラ切り、器面摩滅
84	4-1区	SD16	須恵器	椀	−	(2.2)	(9.4)	(5.6)	底部1/3	良好	密φ0.5～1mmの白色、灰色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内面回転ナデ、相生窯分類椀C3
85	4-1区	SD25	須恵器	杯	−	(2.3)	(10.3)	(7.2)	底部1/4	良好	密、φ0.1cm大の白色粒を含む	2.5Y6/2灰黄	底部調整不明、輪高台貼り付け、内外面とも火襷、杯B
86	4-1区	SD27	土師器	皿	11.15	2.35	−	5.5	1/3	普通	精良、φ1mm以下の砂粒混入	2.5YR7/6橙	底部ヘラ切り、立ち上がりはやや内湾し、端部は直線的、器面摩滅、Ⅱ期
87	4-1区	SD27	須恵器	杯	(13.0)	3.4	−	(7.1)	底部1/4	不良	密、φ0.5～1mmの灰白色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、口縁部重焼痕、色調は白色を呈す
88	4-1区	SD27	須恵器	突帯椀	−	(4.55)	(14.7)	7.0	1/2	普通	密、φ～6mm大の灰、乳白色、透明色粒やや多く含む	N8/灰白	底部糸切り後、輪高台貼り付け、体部下半に貼り付け突帯、色調は白色を呈す、相生窯分類椀C2
89	4-1区	SD35	土師器	杯	(13.5)	(3.55)	−	−	口縁1/5	普通	精良、φ0.5mmの褐色粒極少量含む	10YR7/2にぶい黄橙	底部調整不明、内外面ナデ
90	4-1区	SD17	土師器	皿	(10.6)	1.85	−	(8.9)	1/5	普通	密、φ～2mm大の赤褐色、白、黒色粒少量含む	7.5YR7/6橙	底部指圧痕、口縁外反、器面摩滅、Ⅰ期
91	4-1区	SD17	土師器	皿	(13.9)	1.05	−	(11.0)	1/4	普通	密、φ1mm程の白色粒をまれに含む	10YR8/2灰白	底部指圧痕、口縁外反、器面摩滅、Ⅰ期
92	4-1区	SD17	土師器	杯	(13.2)	3.1	−	(8.5)	1/5	普通	密、φ～3mm大の白、赤褐色、黒色粒やや多く含む	5YR7/6橙	底部調整不明、器面摩滅、Ⅰ期
93	4-1区	SD17	土師器	椀	−	(2.2)	(10.4)	(9.4)	底部1/2	普通	密、φ～3mm大の透明色、黒褐色、赤褐色、白色粒少量含む	5YR7/6橙	底部指圧痕、輪高台貼り付け、内面ナデ、高台部ナデ、Ⅰ期
94	4-1区	SD17	土師器	椀	−	(2.45)	(9.9)	(9.9)	底部1/4	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	2.5Y5/1黄灰～2.5YR7/6橙色	底部調整不明、輪高台貼り付け
95	4-1区	SD17	須恵器	杯	(13.0)	(4.3)	−	−	口縁1/4	普通	やや粗い、φ～6mm大の白、乳白色、黒色粒少量含む	N7/灰白	回転ナデ
96	4-1区	SD17	須恵器	杯	(13.1)	(2.7)	−	(5.85)	底部1/3	普通	密、φ0.5mmの灰色粒少量含む	N8/灰白	底部ヘラ切り、回転ナデ、色調は白色を呈す
97	4-1区	SD17	須恵器	杯	(11.0)	3.95	−	7.0	1/3	普通	やや粗い、φ3mm以下の白色粒を多く含む	N6/灰	底部ヘラ切り、器面摩滅、杯G
98	4-1区	SD17	須恵器	杯	−	(1.5)	(10.6)	(7.8)	底部1/3	不良	密、φ0.5～2mm大の白色灰色透明色粒中量含む	N8/灰白	底部ヘラ切り、内面ナデ
99	4-1区	SD17	須恵器	壺	−	(9.1)	(16.2)	(9.3)	底部1/6	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒僅、φ3mm大の赤褐色僅	内面:N7/灰白、外面:7.5YR5/3にぶい褐色	外面の発色は焼締陶器、内外面回転ナデ
100	4-1区	SD17	土師器	羽釜	-	(4.4)	−	−	口縁1/12	普通	やや粗い、φ0.5～1mm大の乳白色、灰白色、赤褐色粒少	10YR7/3にぶい黄橙	上部・下部欠損、竈の焚口の可能性あり
101	4-1区	SD17	土師器	羽釜か	−	(5.7)	−	−	口縁1/10	普通	粗い、φ2mm以下の白色粒を多量に含む	10YR6/2灰黄褐	口縁部ヨコナデ、端部は外側へ肥厚、口縁下部に貼り付け突帯(顎か)
102	4-1区	SD31	土師器	皿	(15.0)	1.7	−	(7.5)	口縁1/4	甘	やや粗い、φ0.5～2mmの灰色白色粒中量含む	5YR7/6橙	底部指圧痕、直線的に伸びる、内外面ナデ、Ⅰ期
103	4-1区	SD31	土師器	椀	(15.2)	6.6	−	(8.6)	1/4	普通	密、φ～3mm大の赤褐、黒色粒やや多く含む	5YR7/6橙	底部調整不明、輪高台貼り付け、内外面回転ナデ、Ⅰ期
104	4-1区	SD31	須恵器	甕	(19.4)	(5.75)	(20.1)	−	口縁1/7	良好	密、φ0.5～2mm大の白色灰色粒少量含む	N5/灰	回転ナデ、外面沈線1条、口縁端部上方へ摘み上げ
105	4-1区	SD32	土師器	椀	(15.0)	(2.6)	−	−	口縁1/7	甘	密、φ0.5～1mmの灰色、褐色、白色粒中量含む	7.5YR7/6橙	口縁端部外方へつまみ出し、回転ナデ
106	4-1区	SD32	土師器	杯	(12.1)	3.4	−	(7.2)	1/6	普通	密、φ～1mm大の赤褐、透明、黒光、白色粒、微量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部調整不明、口縁端部外反、Ⅰ期
107	4-1区	SD32	須恵器	椀	−	(1.2)	7.0	6.6	底部1/1	普通	密、φ～1mm大の乳白、白色粒微量含む	N7/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内面不定方向のナデ
108	4-1区	SD32	土師器	土錘	長(4.7)	厚1.2	幅1.6	孔径0.3	2/3	普通	精良	2.5Y8/1灰白～2.5YR7/6橙	棒状、上部穿孔一ヶ所、下部欠損
109	4-1区	SD32	土師器	羽釜	(24.0)	(8.2)	(30.8)	−	口縁1/6	普通	やや粗い、φ～4mm大の透明、赤褐、無色粒やや多く含む	10YR8/3浅黄橙	顎端部上方へ拡張、外面タテハケ後ナデ、内面ナデ、短顎羽釜
110	4-1区	SD33	土師器	椀	−	(2.9)	(10.6)	(8.3)	底部1/4	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒赤褐色粒僅	10YR8/4浅黄橙色	底部指圧痕、輪高台貼り付け、器面摩滅、Ⅰ期
111	4-1区	SD33	須恵器	杯	(14.1)	(3.75)	−	(7.4)	口縁1/4	普通	密、φ0.5～1mm大灰白色粒僅	N7/灰白色	底部調整不明、外面凹凸顕著
112	4-1区	SD33	須恵器	椀	−	(2.5)	(11.3)	8.15	底径1/1	普通	密、φ1mm以下の白色粒を多く含む	N6/灰色	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
113	4-1区	SD33	土師器	羽釜	(22.8)	(6.2)	(29.2)	−	口縁1/6	普通	やや粗い、φ2mm大の白色粒混入	10YR8/4浅黄橙	外面タテハケ後、口縁部ヨコナデ、顎部は上方へ湾曲、短顎羽釜
114	4-1区	SK50	土師器	皿	13.35	1.6	−	12.1	1/1	普通	密、φ～1mm大の白、赤褐色、透明、黒色粒やや多く含む	7.5YR7/4にぶい橙	底部指圧痕、口縁端部外方へ屈曲、口縁部ナデ、内面摩滅、Ⅰ期
115	4-1区	SK50	土師器	皿	(14.0)	1.45	−	(11.9)	1/6	普通	密、φ～1mm大の白、赤褐色、黒色粒少量含む	5YR7/6橙	底部指圧痕、布目、口縁内外面ナデ、Ⅰ期
116	4-1区	SK50	土師器	杯	(13.7)	(2.5)	−	−	口縁1/6	普通	密、φ0.5mm大の灰色、乳白色粒僅	5YR6/6橙	口縁内外面ナデ、直線的に立ち上がる

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
117	4-1区	SK50	土師器	杯	(14.0)	(3.2)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ1mm以下の白色粒、φ3mm以下の褐色粒を含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部調整不明、内外面ナデ、直線的に立ち上がる
118	4-1区	SK50	土師器	杯	(12.65)	3.0	–	7.4	1/2	普通	密、φ0.5～7mmの灰色、白色、赤褐色粒中量含む	7.5YR7/6橙	底部指圧痕、内外面ナデ、立ち上がり内湾、Ⅰ期
119	4-1区	SK50	土師器	杯	13.6	3.25	–	7.45	3/4	普通	やや粗い、φ～2mm大の赤褐色、白、黒、透明色粒含む	10YR8/1～8/2灰白	底部指圧痕、内外面ナデ、Ⅰ期新段階
120	4-1区	SK50	土師器	杯	(14.0)	3.1	–	(8.0)	口縁1/8	普通	密、φ～1mm大の透明、白、黒色粒やや多く含む	5YR6/4にぶい橙	底部調整不明、内外面ナデ、立ち上がり内湾
121	4-1区	SK50	土師器	杯	(14.0)	3.4	–	(7.6)	1/2	普通	密、φ1mm以下の細粒混入	5YR7/6橙	底部指圧痕、内外面ナデ、立ち上がり内湾
122	4-1区	SK50	土師器	杯	–	(3.6)	(10.8)	(6.6)	1/2	普通	密、φ～1mm大の赤褐色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、器面摩滅
123	4-1区	SK50	須恵器	椀	(16.0)	(4.45)	–	–	口縁1/4	普通	密、φ～1mm大の白、透明色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
124	4-1区	SK50	須恵器	椀	(14.2)	(3.05)	–	–	口縁1/4	甘	やや粗い、φ～3mm大の乳白色、黒色粒やや多く含む	N9/白	口縁重焼痕、器面摩滅、色調は白色を呈す
125	4-1区	SK50	須恵器	椀	–	(3.0)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の白色粒微量含む	N6/灰	内外面回転ナデ、口縁端部外反
126	4-1区	SK50	須恵器	椀	(15.8)	5.95	–	(6.15)	1/3	良好	密、φ0.5～3mmの白色、灰色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
127	4-1区	SK50	須恵器	椀	–	(3.1)	(13.5)	7.2	底部1/1	普通	やや粗い、φ～1mm大の乳白色粒やや多く含む	N8/灰白	底部糸切り後一部ナデ、平高台脇ナデ、内外面回転ナデ、接合痕良好に観察できる、相生窯分類椀C1
128	4-1区	SK50周辺包含層	土師器	皿	(12.5)	(1.5)	–	(9.8)	1/6	普通	やや粗い、φ～3mmの赤褐、白、黒色粒やや多く含む	7.5YR7/6橙	底部指圧痕、口縁外反、内外面ナデ、Ⅰ期
129	4-1区	SK50周辺包含層	土師器	杯	(12.0)	(3.5)	–	(6.8)	1/6	普通	やや粗い、φ～3mm大の赤褐色、白、灰、透明色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部調整不明、立ち上がり内湾、口縁端部外反、Ⅰ期
130	4-1区	SK50周辺包含層	土師器	杯	(13.1)	3.3	–	(8.0)	1/4	普通	密、φ～1mm大の赤褐色、黒、白色粒少量含む	7.5YR7/6橙、10YR8/2灰白	底部指圧痕、外面口縁部ナデ、内面摩滅、Ⅰ期
131	4-1区	SK50周辺包含層	土師器	杯	(15.2)	(2.9)	–	(9.3)	口縁1/6	普通	密、φ～5mm大の白、赤褐、黒、透明色粒微量含む	7.5YR7/4にぶい橙	底部調整不明、回転ナデ、外面凹凸顕著
132	4-1区	SK50周辺包含層	土師器	杯	(13.9)	(3.6)	–	(8.9)	口縁1/6	普通	やや粗い、φ1mm以下の白色粒褐色粒を多く含む	7.5YR8/3浅黄橙	底部調整不明、回転ナデ
133	4-1区	SK50周辺包含層	土師器	椀	–	(3.15)	(11.6)	(8.8)	底部1/2	普通	密、φ1mmほどの砂粒混入	7.5YR8/3浅黄橙	底部指圧痕、輪高台貼り付け、器面摩滅、Ⅰ期
134	4-1区	SK50周辺包含層	須恵器	椀	–	(2.4)	(10.4)	(7.8)	底部1/2	普通	密、φ1mm以下の白色粒を多く含む	N7/灰白	底部糸切り、輪高台貼り付け、高台畳付凹線状に凹む、内外面回転ナデ
135	4-1区	SK50周辺包含層	須恵器	椀	–	(2.2)	(10.0)	(7.2)	底径1/2	普通	密、φ～1mmの黒褐色粒含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面火襷
136	4-1区	SK50周辺包含層	須恵器	椀	(15.5)	5.3	–	(7.95)	1/6	普通	密、φ1mm大の灰白色粒少	N8/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、内外面火襷、相生窯分類椀C1
137	4-1区	SK50周辺包含層	須恵器	椀	(16.9)	(6.3)	–	(7.0)	底部1/4	良好	密、φ0.5～2mmの白色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、相生窯分類椀C1
138	4-1区	SK50周辺包含層	土師器	甕	–	(5.75)	–	–	口縁1/10	甘	粗い、φ0.5～2mm大の灰色、白色、乳白色粒中量含む	10YR7/4にぶい黄褐	外面:タテハケ(4条/cm)のち口縁ヨコナデ、内面:口縁部ヨコハケ(4条/cm)
139	4-1区	SK50周辺包含層	土師器	甕	(14.8)	(4.85)	(15.6)	–	口縁1/3	甘	粗いφ0.5～2mmの白色、褐色、灰色粒多量に含む	7.5YR7/4にぶい橙	口縁部ヨコナデ、内面スス痕
140	4-1区	SK13	土師器	甕	–	(9.95)	(26.05)	–	1/3	甘	**粗い、φ0.5～3mm大の白色、灰色、黄橙色粒**多量に含む	2.5Y7/2灰黄、2.5Y5/2暗灰黄	外面不定方向にハケ、部分的に器面摩滅剥離
141	4-1区	SK25	土師器	皿	(12.2)	(1.8)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ～1mm大の赤褐、黒、透明色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	口端端部外反、口縁部ナデ、底部調整不明
142	4-1区	SK25	土師器	皿	(13.1)	(2.3)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ～2mm大の赤褐、白、黒色粒微量含む	5YR7/6橙	手づくね成形、口縁端部摘み上げ、ての字状口縁、京都Ⅲ期
143	4-1区	SK25	土師器	杯	(11.1)	(3.0)	–	(7.0)	口縁1/8	不良	密、φ1mm大の白色粒微量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部調整不明、内湾して立ち上がる。
144	4-1区	SK25	土師器	杯	11.2	3.45	–	7.3	3/5	普通	密、φ0.5～1mm大の白色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙、10YR8/1灰白、10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、内外面ナデ
145	4-1区	SK25	須恵器	椀	(14.0)	(2.95)	–	–	口縁1/8	良好	密、φ0.5～1mmの白色粒中量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
146	4-1区	SK25	須恵器	椀	(15.3)	(4.35)	–	–	口縁1/2	良好	密、φ0.5～3mmの白色粒中量含む	N7/灰白、N4/灰色	外面凹線、内外面回転ナデ
147	4-1区	SK25	須恵器	椀	(14.4)	5.35	–	(6.6)	口径1/4	普通	密、φ1mm以下の白色粒を多く含む	N7/灰白	底部糸切り、口縁部外反、外面ロクロ痕跡顕著
148	4-1区	SK25	土師器	土錘	長(6.05)	厚1.1	幅1.3	孔径0.35	3/4	甘	φ0.5mm以下の白色灰色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	管状、一端欠損
149	4-1区	SK25	土師器	羽釜	–	(4.0)	–	–	口縁1/20	甘	粗い、φ0.5～4mmの白色、褐色、灰色粒多量に含む	2.5Y6/2灰黄	器面摩滅、短頸羽釜
150	4-1区	SK54	土師器	杯	13.1	3.05	13.4	7.6	2/3	普通	精良、φ0.5mmの赤褐色粒少量含む	内面:2.5Y8/1灰白、外面:7.5YR7/4にぶい橙色	底部ヘラ切り後ナデ、口縁部回転ナデ
151	4-1区	SK54	土師器	椀か杯	–	(2.6)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	7.5YR7/6橙	内外面ナデ
152	4-1区	SK54	須恵器	杯	–	(1.85)	(11.3)	(7.4)	底径1/4	普通	密、φ～2mm大の黒、白色粒微量含む	N8/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ、相生窯分類杯A
153	4-1区	SK54	須恵器	壺	11.45	(11.5)	(14.05)	–	1/2	良好	密、φ0.5～2mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	口縁端部は上方へ摘み上げ、耳・突帯なし、内外面回転ナデ 相生窯分類壺C
154	4-1区	SK06	須恵器	杯	–	(3.0)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の白色粒少量含む	N6/灰	底部ヘラ切りか、口縁端部外方へ屈曲
155	4-1区	SK07	土師器	杯	–	(3.2)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～1mm以下の黒、透明色粒少量含む	7.5YR7/6橙	内外面ナデ、口縁端部外反
156	4-1区	SK08	須恵器	杯	–	(1.15)	(9.45)	(7.2)	底部1/4	普通	密、φ0.5～2mm大の灰白色粒僅	N7/灰白	底部ヘラ切り、内面ナデ
157	4-1区	SK19	須恵器	杯	(13.8)	3.5	–	(8.0)	1/8	甘	密、φ～4mm大の透明、黒、灰色粒少量含む	N9/白	底部ヘラ切りか、相生窯分類杯A
158	4-1区	SK22	須恵器	椀	–	(1.4)	(9.4)	(4.8)	底部1/4	普通	密、φ1mm以下の白色粒混入	N7/灰白	底部糸切り、相生窯分類椀C1
159	4-1区	SK24	須恵器	甕	–	(5.7)	–	–	口縁1/14	普通	やや粗い、φ3mm以下の白色粒を含む	N8/灰白、N4/灰	内外面ナデ
160	4-1区	SK24	須恵器	椀	–	(4.2)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色粒少	N7/灰白	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
161	4-1区	SK26	須恵器	椀	(15.4)	(3.3)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～1mmの白、黒色粒微量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
162	4-1区	SK26	須恵器	椀	(16.0)	(3.7)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
163	4-1区	SK26	須恵器	椀	–	(2.3)	–	–	口縁1/13	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
164	4-1区	SK26	須恵器	椀	–	(2.15)	–	–	体部1/10	普通	密、φ～3mm大の白色粒やや多く含む	N6/灰～2.5GY6/1オリーブ灰	体部に段、内外面回転ナデ
165	4-1区	SK27	須恵器	杯	–	(4.0)	–	–	1/10	甘	密、φ～2mm大の黒色粒少量含む	N8/灰白	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾
166	4-1区	SK28	須恵器	杯	–	(3.2)	–	–	1/10	普通	密、φ～2mm大白色粒少量含む	N5/灰	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
167	4-1区	SK43	須恵器	椀	–	(3.1)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～2mm大の白色粒少量含む	7.5Y7/1灰白	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
168	4-1区	SK48	須恵器	杯	(15.5)	(3.3)	–	(9.1)	口縁1/6	普通	密、φ～5mm大の乳白色粒少量含む	N8/灰白	底部調整不明、口縁部重焼痕、色調は白色を呈す
169	4-1区	SK49	須恵器	椀	–	(3.2)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～3mm大の白、黒色粒やや多く含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
170	4-1区	SK51	土師器	杯	(14.4)	(2.9)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ5mmの白色粒含む	7.5YR7/6橙	器面摩滅
171	4-1区	SK46	土師器	杯	(13.1)	(3.1)	–	(7.1)	1/6	普通	φ～2mm大の白、灰色粒微量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ
172	4-1区	SK46	土師器	杯	(11.8)	(2.65)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ～1mm大の白、赤褐色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、内外面ナデ、立ち上がり内湾、口縁端部外反
173	4-1区	SK46	土師器	椀	–	(1.5)	(7.0)	(6.0)	底部1/3	普通	密、φ～3mm大の白、赤褐色、透明、黒色粒、やや多く含む	7.5Y8/4浅黄橙	底部糸切り、Ⅱ期新段階～Ⅲ期
174	4-1区	SK23	土師器	土錘	長6.2	幅1.25	孔径0.3	–	1/1	普通	密、0.5mm大の乳白色粒僅	2.5Y7/2灰黄	管状

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
175	4-1区	SK26	土師器	土鍾	長(4.25)	幅1.0	孔径0.4	－	2/3	普通	密、φ1mm大の赤橙色粒僅	10YR8/3浅黄橙	管状、片側端部欠損
176	4-1区	SK26	土師器	土鍾	長(3.9)	幅0.95	孔径0.4	－	2/3	普通	密、φ～1mm以下の赤褐色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	管状、片側端部欠損
177	4-1区	SK41	土師器	土鍾	長5.75	幅0.85	孔径0.3	－	1/1	普通	密、φ～1mm以下の赤褐色粒微量含む	5YR6/6橙と10YR8/2灰白	管状
178	4-1区	SP33	須恵器	甕	－	(15.6)	－	－	－	普通	密、φ0.1～1mm程度の乳白色粒少量含む	N4/灰	外面縦方向のタタキ、内面同心円状当具痕
179	4-1区	SP89	土師器	杯	(13.6)	3.3	－	(7.0)	1/3	普通	精良、φ0.5mmの白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ
180	4-1区	SP89	土師器	杯	(12.7)	(2.65)	－	(6.8)	底部1/3	甘	やや粗い、φ0.5～2mmの白色、灰色粒少量含む	10YR6/2灰黄褐	底部調整不明、内外面ナデ
181	4-1区	SP89	須恵器	椀	(15.4)	6.45	－	(7.2)	1/3	不良	密、φ3mm大の白色粒を含む	2.5Y8/1灰白～5Y5/1灰	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面黒斑有、内外面回転ナデ、口縁部ゆがみ有、相生窯分類椀C1
182	4-1区	SP179	土師器	皿	10.4	2.3	－	7.0	口縁4/6	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	5YR7/6橙	底部ヘラ切り、体部直線的、内外面ナデ、Ⅲ期
183	4-1区	SP179	土師器	皿	9.9	2.5	－	5.0	9/10	甘	精良、φ0.5～1mmの白色粒微量含む	10YR7/3にぶい黄橙	底部糸切り、板状圧痕、内面中央凹み、内湾して立ち上がり、口縁端部外反、Ⅲ期
184	4-1区	SK17	須恵器	椀	－	(6.0)	(16.0)	(8.0)	底径5/8	普通	密、φ1mm以下の白色粒混入	N6/灰色	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、壺底部か
185	4-1区	SP253	須恵器	椀	(14.0)	5.15	－	6.05	1/2	甘	やや粗い、φ3mm以下の灰色粒、白色粒多く含む	N8/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、色調は白色を呈す、相生窯分類椀C3
186	4-1区	SP13	土師器	杯	(13.3)	3.7	－	(8.6)	1/3	普通	密、φ0.5～1mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	7.5YR7/6橙	底部調整不明、粘土紐巻上げ、内外面ナデ、Ⅰ期
187	4-1区	SP15	須恵器	壺	－	(7.1)	(12.9)	9.25	底部1/1	普通	密、φ1.5mmほどの白色粒混入	N7/灰白	底部スサ痕、内外面回転ナデ
188	4-1区	SP16	土師器	杯	－	(3.05)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色、赤褐色粒僅	10YR8/4浅黄橙	器面摩滅
189	4-1区	SP27	須恵器	椀	－	(2.15)	(9.9)	(7.4)	底部1/4	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒少	5Y8/1灰白	底部糸切り、輪高台貼り付け、相生窯分類椀D
190	4-1区	SP22	土師器	杯	－	(2.55)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ1mm以下の白色粒、赤褐色粒を含む	2.5YR7/6橙	口縁端部直線的、器面摩滅
191	4-1区	SP22	緑釉陶器	破片	－	(1.6)	－	(1.6)	1/40	普通	精良	7.5YR5/3灰オリーブ	硬陶、体部破片
192	4-1区	SP22	須恵器	椀	－	(3.2)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒僅	N7/灰白	外面ロクロ痕良好に残る、内外面回転ナデ
193	4-1区	SP22	須恵器	椀	－	(3.35)	－	－	体部1/6	普通	密、φ～4mmの灰、白色粒少量含む	5PB7/1明青灰	体部外面に沈線、相生窯分類椀C2
194	4-1区	SP22	須恵器	杯	－	(1.65)	(8.5)	(7.0)	底部1/6	普通	密、φ～1mm大の白色粒少量含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、内面回転ナデ、相生窯分類杯A
195	4-1区	SP37	土師器	皿	－	(1.9)	－	－	1/8	普通	密、φ～1mm大の赤褐色、黒色粒微量含む	7.5YR7/6橙	底部調整不明、口縁外反、ナデ
196	4-1区	SP57	黒色土器	椀	－	(2.5)	－	－	口縁1/16	普通	密、φ～1mm以下の白色粒微量含む	N3/暗灰	内外面黒色(B類)
197	4-1区	SP65	須恵器	椀	－	(3.45)	(11.6)	(7.6)	底部1/2	普通	やや粗い、φ3mm程の白色粒、灰色粒を含む	N8/灰白	底部糸切り、相生窯分類壺Cか
198	4-1区	SP70	土師器	杯	－	(3.1)	－	－	口縁1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色、乳白色粒僅	5YR7/8橙、10YR8/3浅黄橙	内外面ナデ、口縁部直線的
199	4-1区	SP71	須恵器	椀	－	(3.25)	－	－	口縁1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒僅	N7/灰白	内外面回転ナデ、口縁外反
200	4-1区	SP71	須恵器	椀	－	(2.2)	(14.8)	(11.1)	底部1/5	普通	密、φ～4mm大の白、赤色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り、外面器面剝離
201	4-1区	SP72	土師器	皿	(11.8)	(1.8)	－	－	口縁1/6	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色粒、赤褐色粒僅	5YR7/6橙	底部調整不明、口縁端部外反、ナデ、Ⅰ期
202	4-1区	SP72	土師器	杯	(13.6)	(3.6)	－	(8.6)	1/6	普通	密、φ～5mm大の白、赤褐色、透明、黒色粒やや多く含む	5YR6/6橙	底部調整不明、器面摩滅、外面凸凹顕著
203	4-1区	SP75	須恵器	椀	－	(2.9)	(11.2)	(6.6)	底部1/3	普通	密、φ～4mm大の白、黒色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
204	4-1区	SP76堀方	須恵器	椀	－	(3.65)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の白、灰色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、口縁部外反
205	4-1区	SP77	土師器	杯	－	(1.6)	(12.4)	(9.8)	底部1/5	普通	密、φ4mm以下の白色粒混入	5YR7/8橙	底部調整不明
206	4-1区	SP79	土師器	杯	(13.0)	3.0	－	(8.1)	1/3	普通	精良、φ0.5～3mmの白色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	底部指圧痕、内外面ナデ、Ⅰ期
207	4-1区	SP79	土師器	杯	(12.2)	(3.2)	－	(7.2)	口縁1/4	普通	やや粗い、φ4mm以下の白色粒を多く含む	口縁部7.5YR8/4浅黄橙、10YR8/1灰白	底部調整不明、器面摩滅
208	4-1区	SP79	須恵器	杯	－	(2.7)	(12.3)	(8.5)	底部1/2	甘	密、φ～3mm大の黒灰色粒少量含む	5Y8/1灰白より白い	底部ヘラ切り後輪高台貼り付け、外面黒斑、杯B
209	4-1区	SP79	須恵器	皿	(14.1)	2.7	－	(5.6)	1/4	普通	密、φ2mm前後の白色粒を多く含む	5PB7/1明青灰	底部糸切り、口縁直線的に延びる、外内面回転ナデ
210	4-1区	SP90	須恵器	蓋	(15.9)	(2.85)	(16.4)	－	1/6	普通	やや粗い、φ2mm程の白色粒を多く含む	N8/灰白	ヘラケズリ、摘み有無不明、杯B蓋
211	4-1区	SP111堀方	土師器	羽釜	－	(4.1)	－	－	口縁1/12	普通	粗い、φ～1mm大の白、赤、透明、黒色粒やや多く含む	2.5Y4/1黄灰、2.5Y7/3浅黄	口縁直下に顎貼付、外面タテハケ後、口縁ナデ、短頸羽釜
212	4-1区	SP144	須恵器	杯	－	(1.9)	(9.7)	(7.1)	底部1/2	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色粒少	N7/灰白	底部ヘラ切り、輪高台貼り付け、外面火襷、内外面回転ナデ、杯B
213	4-1区	SP147	須恵器	椀	－	(1.5)	(9.5)	(6.7)	底部1/3	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒僅	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
214	4-1区	SP152	須恵器	椀	－	(3.7)	(12.6)	(6.0)	底部1/4	普通	密、φ～1mm大の白色粒まれに含む	5PB7/1明青灰	底部静止糸切り、輪高台貼り付け、内外面回転ナデ、相生窯分類椀D
215	4-1区	SP160堀方	土師器	杯	(11.2)	(3.1)	－	(6.4)	1/4	普通	密、φ～1mm大の赤色、透明、白、黒色粒やや多く含む	10R6/6赤橙	被熱、器面摩滅、Ⅰ期
216	4-1区	SP165	須恵器	椀	－	(1.5)	－	－	底部1/8	普通	密、φ0.5mm大の灰色粒僅	N7/灰白	底部糸切り、相生窯分類椀C1
217	4-1区	SP165	土師器	甕	－	(5.65)	－	－	口縁1/20	普通	粗い、φ0.5～1mm大の赤褐色粒中、乳白色粒僅	10YR7/8にぶい黄橙～10YR3/3暗褐	口縁部ナデ
218	4-1区	SP174	土師器	杯	(13.6)	2.25	－	(7.6)	1/2	普通	やや粗い、φ～2mm大の白、赤褐色、黒、透明色粒やや多く含む	5YR7/6橙、2.5Y8/1灰白より白い	底部指圧痕、内外面ナデ、内面黒斑、Ⅰ期
219	4-1区	SP181	須恵器	椀	(14.1)	(3.35)	－	(8.5)	口縁1/6	甘	密、φ1mm大の灰白色粒僅	N8/灰白	内外面回転ナデ、口縁部重焼痕、色調は白色を呈す
220	4-1区	SP183	須恵器	杯	(12.7)	2.85	－	(6.05)	1/6	良好	密、φ0.5～2mm大の白色、灰色、褐色粒中量含む	N6/灰、N4/灰	底部ヘラ切り、回転ナデ、底部と体部境明瞭、相生窯分類杯A
221	4-1区	SP184	須恵器	杯	－	(2.75)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の灰、白色粒微量含む	N8/灰白	内外面回転ナデ
222	4-1区	SP187	須恵器	甕	－	(15.4)	－	－	体部1/12	良好	密、φ0.5～1mm大の白色粒少量含む	N7/灰白	内外面平行タタキ、外面(3条/cm)、内面(4条/cm)
223	4-1区	SP189	須恵器	椀	－	(2.2)	－	－	口縁1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色粒僅	N7/灰白	内外面回転ナデ
224	4-1区	SP189堀方	土師器	杯	(14.9)	(2.45)	－	－	口縁1/6	普通	密、φ0.5～1mm大の赤橙色、乳白色粒僅	10YR7/2にぶい黄橙	内外面ナデ、口縁端部外反
225	4-1区	SP191	土師器	杯	(14.2)	3.15	－	(8.0)	1/6	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色、赤褐色粒僅	5YR7/6橙	底部指圧痕、内外面回転ナデ、Ⅰ期
226	4-1区	SP191	須恵器	杯	－	(1.1)	(8.75)	(7.7)	底径1/4	甘	密、φ～1mm大の黒色粒まれに含む	N9/白	底部ヘラ切り、板状圧痕、相生窯分類杯A
227	4-1区	SP191	須恵器	椀	－	(1.05)	(7.8)	(6.0)	底部1/4	普通	密、φ～1mm大の白色粒少量含む	N6/灰	底部ナデのため、切り離し不明
228	4-1区	SP192	土師器	杯	(14.0)	(3.2)	－	－	1/6	普通	密、φ0.5～1mm大の赤褐色、乳白色粒僅	7.5YR8/6浅黄橙	体部外面凹凸顕著、口縁端部外反、内外面ナデ、Ⅰ期
229	4-1区	SP192	土師器	杯	(11.6)	(2.9)	－	(6.6)	口縁1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の赤褐色、乳白色粒少	7.5YR8/6浅黄橙	底部調整不明、口縁端部外反、Ⅰ期
230	4-1区	SP192	須恵器	皿	(14.2)	2.55	－	(6.9)	1/3	普通	密、φ1mm大の灰色、乳白色粒少	N6/灰	底部ヘラ切り後、輪高台貼り付け、内面端部重焼痕、相生窯分類皿C
231	4-1区	SP201	須恵器	椀	－	(2.55)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の白色粒やや多く含む	N6/灰	内外面回転ナデ、口縁端部外反
232	4-1区	SP214	土師器	杯	(14.8)	(3.75)	－	(9.1)	1/4	普通	**やや粗い、φ1mm程の白色粒、黒色粒、褐色粒**を含む	10YR5/2灰黄褐	底部ヘラ切り、板状圧痕、口縁部とは接点なし

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
233	4-1区	SP219	須恵器	椀	–	(2.4)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ0.5mm大の灰白色粒僅	N7/灰白	口縁部外反、口縁部重焼痕
234	4-1区	SP225	土師器	杯	–	(3.5)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ1～2mm大の暗灰色、乳白色粒中	2.5YR5/8明赤褐	口縁端部外反、器面摩滅
235	4-1区	SP226	土師器	皿	(14.7)	1.1	–	(12.2)	口縁1/4	普通	密、φ2mm大の白色粒を含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部指圧痕、口縁外反、器面摩滅、Ⅰ期
236	4-1区	SP226	須恵器	蓋	(13.8)	(2.05)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ3から1mm大の白色粒混入	N8/灰白	内外面回転ナデ
237	4-1区	SP226	須恵器	皿	–	(1.15)	(8.6)	6.1	底部1/1	良好	密、φ0.5～2mm大の白色、灰色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内面ナデ
238	4-1区	SP250	土師器	椀	–	(1.5)	(9.3)	(9.3)	底部1/6	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒僅	10YR5/2灰黄褐	底部調整不明、輪高台貼り付け
239	4-1区	SP251	土師器	杯	(15.3)	(2.9)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ0.5mm大の灰白色、乳白色、赤褐色粒僅	5YR7/6橙	底部調整不明、外面指圧痕、口縁外面強いナデ
240	4-1区	SP251	須恵器	椀	–	(2.1)	(11.2)	7.2	底部1/1	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒微量含む	N7/灰白	底部糸切り、平高台脇ナデ後切り離し、相生窯分類椀C1
241	4-1区	SP224	須恵器	鉢	(27.8)	(10.0)	(29.6)	–	口縁1/8	普通	密、φ1～2mm大の黒色、乳白色粒少	N7/灰白	内外面回転ナデ、口縁端部は外反し、上方へ拡張
242	4-1区	包含層	土師器	皿	(14.6)	1.35	–	(12.8)	1/6	普通	やや密、φ0.1～1mm大の透明粒少量含む	5YR7/6橙～10YR3/1黒褐	底部調整不明、口縁外反、端部スス痕
243	4-1区	包含層	土師器	皿	(15.0)	1.85	–	(12.6)	1/6	甘	φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色、透明色粒中量含む	10YR8/3浅黄橙	口縁外反、底部指圧痕未調整、口縁及び内面ナデ、Ⅰ期
244	4-1区	包含層	土師器	皿	(13.1)	2.15	–	(10.3)	1/8	甘	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	2.5Y8/2灰白～10YR7/3にぶい黄橙	底部指圧痕、口縁外反、外面ナデ、内面摩滅、Ⅰ期
245	4-1区	包含層	土師器	皿	(11.0)	1.9	–	(6.55)	1/3	甘	密、φ0.5～2mmの白色、赤褐色粒極少量含む	5YR7/6橙	底部ヘラ切り、内外面ナデ、Ⅱ期
246	4-1区	包含層	土師器	杯	(13.7)	2.8	–	(9.5)	口縁1/5	普通	やや密、φ0.1～0.5mmの橙粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	底部調整不明、内面摩滅、外面ナデ
247	4-1区	包含層	土師器	杯	(14.0)	3.0	–	(9.5)	口縁1/6	普通	密、φ1mm程の白色粒をわずかに含む	10YR8/2灰白	底部調整不明、内外面ナデ
248	4-1区	包含層	土師器	杯	(13.9)	3.2	–	(7.7)	1/5	普通	密、φ1mmの白色粒を多く含む	10YR8/3浅黄橙	底部ヘラ切りか、内外面ナデ
249	4-1区	包含層	土師器	杯	(14.8)	3.55	–	(10.0)	1/8	普通	密、φ0.5mm大の乳白色、赤橙色粒僅	7.5YR8/4浅黄橙	底部調整不明、内外面ナデ
250	4-1区	包含層	土師器	杯	(13.7)	(2.8)	–	(7.6)	口縁1/5	普通	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	5YR7/6橙～5YR5/6明赤褐	器面摩滅
251	4-1区	包含層	土師器	椀	–	(1.8)	(9.6)	(9.6)	底部5/6	普通	やや粗い、φ3mm程の白色粒を含む	5YR7/6橙	底部指圧痕、貼付け輪高台、器面磨滅、Ⅰ期
252	4-1区	包含層	土師器	椀	–	(1.7)	(7.4)	(7.4)	底部1/1	普通	やや粗い、φ～4mm大の白、黒、透明、赤褐色粒少量含む	10YR5/2灰黄褐	底部糸切り、岸本分類椀C1
253	4-1区	包含層	土師器	椀	–	(2.8)	(8.8)	(7.3)	底部1/3	普通	密、φ～1mm大の赤、黒色粒やや多く含む	5YR8/4淡橙	底部糸切り、器面摩滅、岸本分類椀C1
254	4-1区	包含層	土師器	椀	–	(1.5)	(7.6)	(6.1)	底部1/3	普通	密、φ～2mm大の白、灰、赤褐色粒少量含む	内面:N3/暗灰、外面:5YR7/6橙	底部糸切り、外面摩滅、内面黒化、岸本分類椀C1
255	4-1区	包含層	白磁	碗	–	(3.35)	–	–	口縁1/8	良好	精良	7.5Y8/1～5Y7/2灰白	白磁碗、太宰府分類Ⅳ類
256	4-1区	包含層	緑釉陶器	椀	–	(3.25)	–	–	口縁1/20	普通	精良	7.5Y4/3暗オリーブ	硬陶、濃緑色釉
257	4-1区	包含層	緑釉陶器	椀	–	(1.4)	(9.1)	(7.3)	底部1/5	普通	精良	施釉部みどり	軟陶、貼り付け有段輪高台、内面圏線
258	4-1区	包含層	緑釉陶器	椀	–	(2.35)	(9.7)	(6.5)	底部1/2	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒少量含む	施釉部5Y7/3浅黄	軟陶、蛇の目削り出し高台、内外面とも部分的に釉剝離
259	4-1区	包含層	緑釉陶器	椀	–	(1.2)	(9.1)	(7.0)	底径1/7	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	7.5Y6/2灰オリーブ	硬陶、蛇の目削り出し高台、高台内部、畳付け施釉
260	4-1区	包含層	須恵器	蓋	–	(2.5)	(12.2)	摘径3.05	摘部1/1	普通	密、φ～3mm大の透明、白、灰色粒少量含む	5PB7/1明青灰	ヘラケズリ後宝珠摘み貼り付け
261	4-1区	包含層	須恵器	蓋	(15.5)	2.85	(16.0)	–	口縁1/6	普通	やや粗い、φ0.5～2mmの灰色、褐色、白色粒中量含む	5Y8/1灰白	口縁屈曲、外面頂部ヘラケズリ、内外面回転ナデ
262	4-1区	包含層	須恵器	杯	–	(3.9)	(12.5)	(7.2)	底部1/2	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色粒少	2.5Y6/2灰黄～2.5Y4/1黄灰	底部ヘラ切り、内外面火襷、杯B
263	4-1区	包含層	須恵器	杯	–	(2.2)	(11.7)	(9.0)	底部1/2	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒少	N8/灰白	底部ヘラ切り、輪高台貼り付け、外面高台脇に爪形状圧痕、杯B
264	4-1区	包含層	須恵器	椀	–	(2.1)	(10.0)	8.0	底部1/1	普通	やや粗い、φ3mm前後の白色粒、灰色粒を多く含む	N8/灰白	底部調整不明、輪高台貼り付け、高台部回転ナデ
265	4-1区	包含層	須恵器	椀	–	(3.0)	(9.3)	(7.1)	底部1/3	普通	密、φ～3mm大の白、黒色粒少量含む	N7/～N8/灰白	底部糸切り、輪高台貼り付け、内外面回転ナデ、相生窯分類椀D
266	4-1区	包含層	須恵器	杯	(14.2)	3.55	–	(8.0)	口縁1/10	普通	やや粗い、φ0.1～3mmの乳白色粒多量に含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ、相生窯分類杯A
267	4-1区	包含層	須恵器	杯	–	(1.9)	(9.8)	(6.2)	底部1/3	普通	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少々含む	N8/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ、相生窯分類杯A
268	4-1区	包含層	須恵器	杯	–	(1.3)	(10.4)	(7.8)	底部1/4	良好	密、φ0.5～2mmの白色粒少量含む	10YR6/1褐灰～N5/灰	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ、相生窯分類杯A
269	4-1区	包含層	須恵器	椀	–	(2.3)	(9.95)	(6.0)	底部1/1	普通	密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、見込み鏡有、相生窯分類椀C1
270	4-1区	包含層	須恵器	椀	–	(3.05)	–	–	口縁1/20	普通	密、φ～3mm大の灰、白色粒少量含む	N7/灰白	外面墨書、判読不能
271	4-1区	包含層	須恵器	椀	(14.1)	(2.6)	–	–	口縁1/6	普通	やや粗い、φ0.1～0.5mmの乳白色粒多量に含む	N8/灰白	口縁端部外反、内外面回転ナデ
272	4-1区	包含層	須恵器	杯	(11.0)	(3.1)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の灰、白色粒微量含む	N8/灰白～N6/灰	内外面回転ナデ
273	4-1区	包含層	須恵器	椀	(16.2)	(4.7)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ0.5～2mm大の灰白色粒少	N7/灰白	内外面回転ナデ
274	4-1区	包含層	須恵器	椀	–	(2.25)	(8.15)	4.8	底部1/1	普通	やや粗い、φ3mm前後の白色粒、灰白粒を多く含む	N8/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
275	4-1区	包含層	須恵器	椀	–	(3.65)	(12.1)	(5.55)	底部1/1	普通	密、φ2mmの白色粒を含む	N8/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
276	4-1区	包含層	須恵器	椀	–	(2.35)	(10.1)	6.8	底部1/1	甘	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒少	N8/灰白	底部糸切り、輪高台状に作り出し、内面見込みに段、白磁Ⅳ類模倣か
277	4-1区	包含層	須恵器	椀	–	(1.6)	(9.0)	(6.7)	底部1/1	普通	粗、φ0.1～2mmの乳白色粒多量に含む	N6/灰	底部糸切り、高台脇ナデ、内面回転ナデ
278	4-1区	包含層	須恵器	壺	(12.4)	(7.5)	–	–	口縁1/4	普通	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	N7/灰白、施釉部2.5GY6/1オリーブ灰	口縁部回転ナデ、内面自然釉
279	4-1区	包含層	須恵器	高杯か	–	(3.05)	(9.2)	(8.0)	脚部1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色粒僅	N6/灰	脚部、内外面回転ナデ
280	4-1区	包含層	須恵器	壺	–	(3.7)	(8.7)	6.05	底部1/1	普通	密、φ1mm以下の白い砂粒を含む	N7/灰白～2.5GY5/1オリーブ灰	底部調整不明、輪高台貼り付け、高台内墨痕か
281	4-1区	包含層	須恵器	壺	–	(2.9)	–	–	耳部1/2	普通	密、φ～1mm大の白、透明、黒色粒少量含む	N7/灰白	双耳壺か、貼り付け突帯1条、下端すぼまる耳貼り付け
282	4-1区	包含層	須恵器	鉢	–	(3.5)	–	–	口縁1/14	普通	密、φ～3mm大の白、赤褐色粒やや多く含む	N9/白	器壁は厚いが椀の可能性もあり、口縁端部玉縁状におさめる、内外面回転ナデ
283	4-1区	包含層	須恵器	甕	–	(3.6)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ0.5mm大の灰色粒僅	N6/灰～N4/灰	端部内面凹み、内外面ナデ
284	4-1区	包含層	須恵器	杯	–	(2.3)	(13.2)	(8.4)	底部1/3	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒微量含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ、相生窯分類杯A
285	4-1区	包含層	須恵器	甕	(22.0)	(6.3)	(23.4)	–	口縁1/8	普通	やや粗い、φ～2mm大の白、黒色粒少量含む	N7/灰白	口縁端面凹線状に凹み、内外面回転ナデ
286	4-1区	包含層	須恵器	壺	–	(6.9)	(20.6)	(14.4)	底部1/6	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色、灰色粒少	N6/灰	底部調整不明、外面体部板ナデ、内面ナデ
287	4-1区	包含層	土師器	甕	(13.4)	(5.05)	(14.7)	–	口縁1/8	普通	やや粗い、φ1mm程の白色粒を多く含む	2.5YR7/4橙	口縁端部外方へ拡張、外面タテハケ後口縁部ナデ、内面ナデ
288	4-1区	包含層	土師器	甕	(20.25)	(5.8)	(20.7)	–	口縁1/4	甘	粗い、φ0.5～1mmの灰色、褐色、透明色、黒色粒多量に含む	2.5Y7/4淡赤橙	口縁端部上方へ拡張、外面内面ともヨコハケ後ナデ
289	4-1区	包含層	土師器	甕	(26.3)	(8.25)	(27.0)	–	口縁1/6	甘	粗い、φ0.5～2mmの白色、褐色、赤褐色、灰色粒多量に含む	10YR6/2灰黄褐	口縁端部凹線状に凹む、外面タテハケ後口縁部ナデ、内面ヨコハケ後口縁部ナデ
290	4-1区	包含層	土師器	羽釜	(23.7)	(5.2)	(28.7)	–	口縁1/7	甘	やや粗い、φ0.5～2mmの白色、褐色、透白色多量に含む	10YR7/3にぶい黄橙	頸部貼り付け、外面タテハケ後ナデ、内面ナデ

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
291	4-1区	包含層	土師器	甕	(22.3)	(6.2)	(28.3)	–	口縁1/8	甘	粗い、φ0.5～4mmの白色、灰色、褐色、透白色粒中量含む	10YR6/3にぶい黄橙	顎部貼り付け、端部上方へ拡張、口縁端部内側へ拡張、内外面ナデ、内面ス入付着、短顎羽釜
292	4-1区	包含層	土師器	甕	(27.35)	(7.85)	(28.5)	–	口縁1/8	甘	粗い、φ0.5～4mmの白色、灰色、褐色、透白色粒多量に含む	10YR7/3にぶい黄橙	顎部貼り付け、端部上方へ拡張、外面タテハケ後ナデ、内面ナデ
293	4-1区	包含層	土師器	鞴羽口	長(6.2)	幅(3.0)	孔径2.0以上	–	–	普通	密	10YR8/3浅黄橙	羽口残欠、表面ヘラケズリ、先端側硬化
294	4-1区	包含層	土師器	土錘	長(4.2)	厚1.25	孔径0.4	–	2/3	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒微量含む	2.5Y6/1黄灰	棒状、一端穿孔、器面ナデ
295	4-1区	包含層	土師器	土錘	長(5.0)	厚1.8	孔径0.55	–	9/10	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色、灰色、橙色粒少	5YR7/6橙	管状、端部欠損、器面摩滅
296	4-1区	包含層	土師器	土錘	長(5.7)	幅1.05	孔径0.4	–	9/10	普通	密、φ0.5mm以下の灰色粒少量含む	2.5Y8/3淡黄	管状、端部に黒斑
297	4-1区	包含層	瓦	平瓦	長(10.05)	幅(8.15)	厚2.2	–	–	甘	やや粗い、φ1～3mmの白色、灰色、褐色、透褐色粒含む	表10YR7/3にぶい黄橙	凸面縄目タタキ、凹面摩滅
298	4-1区	包含層	瓦	平瓦	長(16.5)	厚3.1	–	–	–	普通	やや粗い、φ～5mm大の乳白、青、灰色粒少量含む	下部5Y8/1灰白	凸面縄目タタキ後粗いハケ、凹面布目(縦4本・横4本/cm)、粗いハケ、側面面取り、被熱痕跡、817・43と同じ
299	4-1区	包含層	石製品	砥石	長(8.3)	厚3.1	幅8.3	–	–	–	–	10Y7/1灰白	流紋岩、2面使用、一部に被熱
300	4-1区	包含層	埴輪	円筒	–	(6.3)	(26.9)	(26.9)	底部1/7	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	7.5YR8/4浅黄橙	外面タテハケ、透孔下端一部残存、内面粘土接合痕顕著
301	4-2区	SP120	土師器	杯	(12.8)	(3.3)	–	(7.8)	1/5	普通	密、φ0.5mmの白色、褐色粒含む	2.5YR7/6橙～10YR8/3灰白	底部ヘラ切りかん、粘土紐巻上げ、Ⅰ期
302	4-2区	SP139	土師器	椀	–	(3.9)	(10.4)	(8.2)	底部1/4	普通	密、φ1mm大の乳白色粒僅、φ0.5mm大の赤褐色粒僅	7.5YR8/4浅黄橙	底部糸切り、内面回転ナデ、岸本分類椀C1
303	4-2区	ST01	土師器	皿	9.0	1.5	–	6.65	1/1	普通	密、φ～1mm大の白、黒、透明、赤色流、微量含む	7.5YR8/4～10YR8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、口縁部外反、内外面ナデ、Ⅲ期
304	4-2区	ST01	土師器	杯	14.6	2.85	–	8.4	1/1	良好	精良	7.5YR7/3にぶい橙	底部ヘラ切り、板状圧痕、内外面ナデ
305	4-2区	ST01	土師器	杯	15.3	3.5	–	8.95	1/1	普通	密、φ0.5～1mmの褐色粒、白色粒中量含む	10YR8/2灰白、5YR7/4にぶい橙色	底部ヘラ切り、板状圧痕、内外面ナデ
306	4-2区	ST01	須恵器	椀	(15.7)	5.9	–	(5.65)	口縁1/4	普通	密、φ1.5mm大の白色粒微量含む	口縁部N6/灰、N7/灰	底部糸切り、高台痕跡程度、内外面回転ナデ、相生窯D1期
307	4-2区	ST01	土師器	土錘	長(3.9)	厚0.9	幅1.0	孔径0.3	4/5	普通	密、φ1mm大の赤橙色粒僅	7.5YR8/3浅黄橙	管状、端部欠損
308	4-2区	SD07	須恵器	椀	(13.0)	(3.25)	–	–	口縁1/5	普通	密、0.5～2mmの白色、灰色粒中量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
309	4-2区	SD07	須恵器	椀	–	(5.7)	–	–	口縁1/13	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒微量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
310	4-2区	SD07	須恵器	椀	–	(2.6)	(11.35)	(5.7)	底部1/6	良好	密、φ0.5～1mmの灰色粒、白色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、相生窯分類椀C1
311	4-2区	SD07	土師器	羽釜	–	(3.35)	–	–	口縁1/20	普通	やや粗い、φ0.1cm前後の白色赤褐色粒を多く含む	10YR7/2にぶい黄橙	口縁部ヨコナデ、短顎羽釜
312	4-2区	SD08	土師器	皿	(12.0)	2.4	–	(6.3)	1/4	甘	密、φ0.5～2mmの白色、褐色粒中量含む	10YR8/3浅黄橙、2.5Y8/3淡黄	底部ヘラ切り後ナデ、Ⅱ期新段階
313	4-2区	SD10	須恵器	椀	–	(4.1)	–	–	口縁1/18	普通	密、φ～3mm大の白、透明色粒やや多く含む	5Y7/1灰白	内面ナデによる浅い沈線4本
314	4-2区	SD10	須恵器	椀	–	(2.45)	(11.3)	(7)	底部2/3	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色粒僅	5Y7/1灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類湾C1
315	4-2区	SD10	須恵器	壺	–	(5.0)	(10.4)	(8.2)	底径1/4	普通	密、φ～4mm大の灰色、黒、白色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、回転ナデ
316	4-2区	SD10	須恵器	鉢	–	(7.1)	(20.6)	(14.0)	底径1/6	普通	精良	N6/灰	底部器面剝落、内面ナデ
317	4-2区	SD11	土師器	杯	–	(2.4)	(11.8)	(5.0)	底部1/4	普通	密、φ～1mm大の赤褐、白、透明、黒色粒やや多く含む	7.5YR7/4にぶい橙～6/2灰褐	手づくね成形、外面ナデ
318	4-2区	SD11	須恵器	杯	(14.9)	(3.75)	–	(8.0)	3/4	甘	やや粗い、φ～1mm大の灰色粒混入	口縁N4/灰、N8/灰	底部ヘラ切り、ゆがみあり、相生窯分類杯A
319	4-2区	SD11	鉄製品	鉄鏃	長(10.7)	厚1.3	幅(1.65)	–	1/1	–	–	–	関
320	4-2区	SD12	土師器	椀	–	(1.65)	(8.0)	–	底部1/2	甘	密、0.5mmの白色粒、1mmの黒色量少量含む	10YR8/4浅黄橙、10YR5/1褐灰	底部ヘラ切り後輪高台貼付、輪高台部欠損、Ⅱ期
321	4-2区	SD12	土師器	甕	–	(6.4)	–	–	口縁1/8	普通	粗い、φ～2mm大の赤褐、白、黒、透明色粒多く含む	10YR7/3浅黄橙	口縁端部上方へ拡張。外面タテハケ後、口縁部ヨコナデ、内面ヨコハケ後ナデ
322	4-2区	SD13	土師器	椀	(16.0)	(4.85)	–	–	口縁1/7	普通	密、φ0.5～1mmの白色灰色粒少量含む	2.5Y8/1灰白、7.5YR7/4にぶい橙	外面凸凹顕著、口縁部外反
323	4-2区	SD13	須恵器	椀	–	(1.8)	(8.0)	(6.0)	底部6/8	甘	やや粗い、φ2cm大の白色、灰色粒を多く含む	7.5YR8/1灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内面回転ナデ、相生窯分類椀C1
324	4-2区	SD13	土師器	羽釜	(25.2)	(5.5)	(30.7)	–	口径1/4	普通	**粗い、φ～3mm大の乳白、白、黒、赤褐色粒や**や多く含む	10YR6/4にぶい黄橙	外面タテハケ後ナデ、内面ナデ、短顎羽釜
325	4-2区	SD15	須恵器	椀	–	(2.3)	(10.7)	6.0	底部1/1	不良	密、φ～7mm大の白、灰、透明、黒色粒やや多く含む	N8/灰白	底部糸切り、器面摩滅、相生窯分類椀C1
326	4-2区	SD17	土師器	杯	(12.85)	3.15	–	(9.4)	底部1/5	普通	密、φ0.5mmの白色、褐色粒含む	10YR8/2灰白、10YR5/2灰黄褐	底部ヘラ切り、内外面ナデ
327	4-2区	SD17	土師器	椀	–	(1.8)	(9.0)	(9.0)	底部1/3	甘	密、φ～1mm大の赤褐、白、黒色粒少量含む	10YR8/4浅黄橙	底部調整不明、輪高台貼り付け
328	4-2区	SD17	須恵器	椀	–	(2.9)	(10.9)	(6.0)	底部1/2	普通	密、φ～1mm大の白、透明色粒少量含む	7.5Y7/1灰白	回転糸切り、相生窯分類椀C1
329	4-2区	SD17	須恵器	椀	–	(2.6)	(9.4)	(6.4)	底径1/2	普通	密、φ～2mm大の白、黒少量含む	5PB6/1青灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
330	4-2区	SD17	土師器	甕	(24.55)	(8.65)	(25.2)	–	口縁1/8	普通	粗い、φ0.5～1mmの白色粒中量含む、φ0.5mmの褐色粒含む	10YR6/3にぶい黄橙、10YR4/1褐灰	内面ヨコハケ後ナデ、外面タテハケ(6条/cm)後、口縁部ナデ
331	4-2区	SD22	土師器	鞴羽口	3.25	2.05	3.0	2.5	羽口先1/3	普通	φ0.5～1mm大の灰黒色、白色粒中粒含む	7.5YR7/4にぶい橙、N5/灰	先端スラグ付着、内面赤化
332	4-2区	SK11	土師器	皿	8.95	1.6	–	5.7	1/1	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色粒少	10YR8/2灰白～7.5YR8/6浅黄橙色	底部ヘラ切り、口縁部は内湾気味に立ち上がる
333	4-2区	SK11	土師器	椀	–	(4.5)	(10.8)	(6.0)	底部1/5	普通	密、φ0.5mm以下の白色、褐色粒少量含む	10YR7/2にぶい黄橙、2.5Y5/1黄灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、岸本分類椀C1
334	4-2区	SK11	須恵器	皿	8.9	1.75	–	5.0	完形	普通	密、0.1～2mm大の乳白色粒少	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
335	4-2区	SK11	須恵器	椀	(16.1)	5.95	–	(6.2)	1/2	甘	密、φ0.5～1mm大の灰色、赤褐色粒微量含む	5Y8/1灰白	底部糸切り、口縁部重焼痕、相生窯分類椀C3
336	4-2区	SK07	土師器	杯	(13.9)	3.55	–	(6.55)	1/4	甘	密、φ0.5～1mm白色粒少量含む	5YR7/6橙、5YR6/6橙	底部調整不明。ヘラ切り後ナデか。体部は直線的にのび、内外面ナデ
337	4-2区	SK07	土師器	杯	(13.9)	3	–	(8)	1/4	普通	密、φ0.5～1mm大の赤褐色粒少	7.5YR7/6橙	底部調整不明、内外面ナデ
338	4-2区	SK07	黒色土器	椀	(15.3)	(3)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ0.5mm大の灰白色粒僅	内面:7.5Y2/1黒、外面:7.5YR8/6浅黄橙色	内面黒色(A類)、内面ミガキ顕著
339	4-2区	SK07	須恵器	椀	(16.2)	5.05	–	(7.1)	1/2	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒少	5PB6/1青灰	底部糸切り、高台脇ナデ、口縁部外面重焼痕、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
340	4-2区	SK03	須恵器	杯	(14.0)	3.8	–	(6.2)	1/4	普通	密、φ～0.4mm前後の白色粒混入	N7/灰白	底部ヘラ切り、板状圧痕、相生窯分類杯A
341	4-2区	SK03	土師器	羽釜	(20.4)	(10.1)	(26.2)	–	口縁1/4	普通	やや粗い、φ0.5～1mmの褐色粒、灰白、白色粒、多量に含む	10YR6/3にぶい黄橙、10YR4/1褐灰	内面板状工具による横方向のナデ、外面縦方向のハケ目、口縁部ナデ調整、短顎羽釜
342	4-2区	SK19	土師器	椀	–	(5.0)	(13.6)	(8.45)	底部1/3	やや甘	密、φ0.5mm以下の白色、黒色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙、10YR5/1褐灰	底部調整不明。ヘラ切り後輪高台貼り付けか、体部直線的に外方へ延びる、Ⅱ期古段階か
343	4-2区	SK21	土師器	托皿	–	(2.0)	(8.6)	6.2	底部1/1	普通	密、φ1mm前後の褐色粒灰色粒を含む	7.5YR5/1褐灰	底部糸切り、器面摩滅
344	4-2区	SK22	須恵器	椀	(13.1)	4.5	–	(7.6)	1/4	普通	密、φ0.5～1mm大の白色粒僅	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
345	4-2区	SK22	土師器	甕	(22.7)	(4.75)	(23.0)	–	口縁1/4	甘	粗い、φ1～2mmの白色、灰白、褐色粒多量に含む	10YR8/1灰白	口縁端部内面へつまみ上げ、器面摩滅
346	4-2区	SP32	土師器	羽釜	(22.2)	(7.35)	(28.0)	–	口縁1/8	普通	粗い、φ0.1cmの赤褐色粒を多く含む	10YR7/3にぶい黄橙～7.5YR8/3浅黄橙色	口縁部:回転ナデ、胴部外面ハケ目、短顎羽釜
347	4-2区	SP58	土師器	椀	–	(3.8)	(11.6)	(8.2)	底部3/4	普通	密、φ～2mm大の赤褐、黒、透明、白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙～5/1褐灰色	底部糸切り後、高台貼り付け、回転ナデ、今池尻遺跡に類例あり、須恵器椀模倣か
348	4-2区	SP74	土師器	椀	(14.0)	5.65	–	(8.2)	底部1/3	甘	密、φ0.5～2mmの白色粒中量含む	10YR8/2灰白、7.5YR7/4にぶい橙	底部調整不明、高台貼り付け

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
349	4-2区	SP77	須恵器	杯	(14.2)	3.3	–	(6.3)	底部1/3	普通	密、φ～3mm大の乳白、黒色粒少量含む	N9/白	底部ヘラ切り、色調は白色を呈す、相生窯分類杯A
350	4-2区	SP85	土師器	甕	(11.5)	(8.0)	(12.2)	–	口縁1/6	普通	粗い、φ1mm前後の砂粒を多く含む	10YR6/2灰黄褐	外面タテハケ後ヨコハケ、口縁部ナデ、内面ナデ
351	4-2区	SP92	須恵器	杯	(12.8)	3.45	–	(7.8)	2/3	普通	やや粗い、φ3mm大の白、黒色粒やや多く含む	N8/灰白～6/灰	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ、相生窯分類杯A
352	4-2区	SP103	土師器	椀	(14.5)	5.4	–	(10.0)	1/5	普通	密、φ～5mm大の白、赤褐、透明色粒やや多く含む	10YR8/2灰白～5YR7/6橙色	底部調整不明、器面摩滅
353	4-2区	SP125	土師器	皿	12.8	1.6	–	7.8	4/5	普通	やや粗い、φ～3mm大の白、透明、赤褐、黒色粒少量含む	5YR7/6橙～7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、口縁部は外反しながら直線的に延びる、Ⅱ期
354	4-2区	SP125	須恵器	椀	–	(1.6)	(9.6)	(3.0)	底bu1/4	普通	密、φ～1mm大の乳白、黒、白色やや多く含む	5Y8/1灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
355	4-2区	SP129	黒色土器	椀	(12.1)	(3.4)	–	–	口縁1/5	普通	密、φ0.5mm～1mmの白色粒少量含む	内面：7.5Y3/1オリーブ黒、 外面：2.5Y4/1黄灰色	内面黒色(A類)、内面ミガキ顕著
356	4-2区	SP130	須恵器	椀	(15.8)	(5.55)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ0.5mm～1mm大の灰白色粒僅	N7/灰白	外面浅い沈線1条、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C2
357	4-2区	包含層	土師器	皿	(13.0)	(1.25)	–	(10.75)	口縁1/7	甘	密、φ0.5mm以下の白色、褐色、透白色粒少量含む	10YR8/2灰白	口縁部外反、ナデ
358	4-2区	包含層	土師器	皿	(11.4)	1.55	–	(8.4)	1/7	普通	やや粗い、φ～4mm大の白、黒光色粒やや多く含む	10YR5/2灰黄褐	口縁部外反、ナデ、底部指圧痕、Ⅰ期
359	4-2区	包含層	土師器	皿	(13.7)	1.6	–	(6.0)	口縁1/5	普通	やや粗い、φ2mm大の赤褐、白、黒色粒少量含む	7.5YR7/6橙	口縁外反、底部調整不明、器面摩滅、Ⅰ期
360	4-2区	包含層	土師器	皿	(10.0)	(1.5)	–	–	1/6	普通	精良	10YR7/1灰白	底部ヘラ切り、器面摩滅
361	4-2区	包含層	土師器	椀	(12.4)	(2.85)	–	–	口縁1/5	普通	密、φ0.5mm以下の白色、褐色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙	外面凸凹顕著、内外面ナデ
362	4-2区	包含層	土師器	杯	(11.9)	(3.55)	–	(6.4)	1/7	普通	密、φ1mmの白色粒を多く含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部調整不明、底部脆強いナデにより凹む、内外面ナデ
363	4-2区	包含層	土師器	杯	(11.6)	(3.2)	–	–	1/6	普通	密、φ～3mm大の白、赤褐、黒色粒少量含む	2.5Y8/2灰白～5/2暗灰黄	底部調整不明、内外面ナデ
364	4-2区	包含層	土師器	椀	–	(1.3)	(8.0)	(8.0)	底部2/3	普通	密、φ～3mm大の透明、白、赤褐色粒、少量含む	2.5Y8/2灰白～5YR6/6橙	底部ヘラ切り、高台脇ナデ、内面摩滅、岸本分類椀C1、Ⅱ期以降
365	4-2区	包含層	土師器	椀	(14.0)	(4.65)	–	–	口縁1/5	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	7.5YR8/4浅黄橙	外面凸凹顕著、内外面ナデ
366	4-2区	包含層	土師器	椀	(16.0)	(4.45)	–	–	口縁1/9	甘	密、φ0.5～1mmの白色、灰色、褐色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	器面摩滅
367	4-2区	包含層	土師器	椀	(14.7)	(4.2)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ1mmの白色粒含む白色粒を含む	7.5YR6/1褐灰	直線的に外方へ開き、外面凸凹、内外面ナデ
368	4-2区	包含層	土師器	椀	–	(2.45)	(9.1)	(7.0)	底部1/3	普通	密、φ～1mm大の白、透明、赤褐粒少量含む	2.5Y6/2灰黄	底部ヘラ切り、高台脇板ナデ、Ⅱ期以降
369	4-2区	包含層	土師器	椀	–	(2.15)	(7.3)	(6.3)	底部1/3	普通	密、φ～1mm大の赤、黒、白色粒含む	2.5YR7/6橙	底部糸切り、外面ナデ
370	4-2区	包含層	土師器	椀	(14.3)	5.9	–	(8.7)	1/6	普通	密、φ～1mm大の白、赤、灰色粒微量含む	10YR6/2灰黄褐	輪高台貼り付け、外面凸凹顕著、内外面ナデ
371	4-2区	包含層	土師器	椀	–	(3.5)	(12.9)	(9.6)	底部1/4	普通	密、φ～1mm大の白、赤、黒色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙	輪高台部ナデ
372	4-2区	包含層	黒色土器	椀	(15.6)	5.3	–	(7.5)	1/6	普通	密、φ～3mm大の乳白色、透明、赤褐色粒やや多く含む	N2/黒、7.5YR7/6橙	内面黒色(A類)、内面口縁端部沈線、器面摩滅
373	4-2区	包含層	土師器	杯	12.2	3.4	–	7.0	口縁4/5	良好	やや密、0.1～3mmの乳白色、φ0.1～0.5mmの樫粒中量含む	10YR6/2～5/2灰黄褐	底部ヘラ切り、板状圧痕、内外面回転ナデ
374	4-2区	包含層	須恵器	杯	(12.5)	3.0	–	(6.9)	底部1/4	普通	やや粗い、φ0.1～0.5mmの乳白色粒多量に含む	N8/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ、相生窯分類杯A
375	4-2区	包含層	須恵器	杯	(11.8)	(2.45)	–	(6.3)	1/5	普通	やや粗い、φ1mm以下の白色粒、黒色粒を多く含む	5Y8/1灰白	底部糸切り後一部ナデ、相生窯分類杯A
376	4-2区	包含層	須恵器	杯	–	(2.05)	(12.0)	(6.6)	底部1/4	普通	密、φ0.5～3mmの白色、灰色、透白色粒中量含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ
377	4-2区	包含層	須恵器	椀	(15.4)	4.6	–	(6.0)	底部1/3	普通	やや粗い、φ3～1mm白色粒を多く含む	N8/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
378	4-2区	包含層	須恵器	椀	(14.2)	(5.55)	–	(6.4)	1/5	良好	密、φ0.5～1mmの灰色、白色粒中量含む	N7/灰白	底部静止糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
379	4-2区	包含層	須恵器	椀	(16.0)	(4.35)	–	–	口縁1/4	不良	密、φ0.5mm以下の白色、褐色、灰色粒少量含む	N6/灰	内湾しそのまま口縁を丸くおさめる、器面摩滅
380	4-2区	包含層	須恵器	椀	(18.0)	(4.5)	–	–	口縁1/7	普通	やや粗い、φ1mmの白色粒を多く含む	N8/灰白	内外面回転ナデ、口縁外面に重焼痕
381	4-2区	包含層	須恵器	椀	–	(2.1)	–	–	口縁1/14	普通	密、φ～1mm大の白色粒まれに含む	N8/灰白	口縁端部玉縁状、内外面ナデ
382	4-2区	包含層	須恵器	椀	–	(2.3)	(11.8)	(7.0)	底部1/3	良好	やや粗い、φ0.1～2mmの乳白色粒多量に含む	N8/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内面凹み、内外面ナデ、相生窯分類椀C3
383	4-2区	包含層	須恵器	椀	–	(2.25)	(10.4)	(6.5)	底部1/2	不良	密、φ0.5～2mmの灰色、透白色、白色粒少量含む	5Y8/1灰白	底部糸切り、高台脇ナデ
384	4-2区	包含層	緑釉陶器	杯	–	(1.9)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ～2mm大の灰色粒まれに含む	10Y8/2灰白～緑色	須恵質
385	4-2区	包含層	緑釉陶器	椀	–	(1.55)	(8.7)	(6.5)	底部1/4	良好	精良	2.5GY7/1明オリーブ灰	須恵質、削り出し平高台
386	4-2区	包含層	須恵器	椀	–	(3.1)	(13.9)	(9.0)	底部1/10	普通	やや粗い、φ0.1～0.5mmの乳白色粒多量に含む	N7/灰白	底部ヘラ切り後輪高台貼り付け、内外面回転ナデ、相生窯分類椀A
387	4-2区	包含層	須恵器	椀	–	(2.55)	(10.5)	(8.0)	底部1/4	普通	密、φ～1mm大の白色粒少量含む	N7/灰白	底部ヘラ切り後輪高台貼り付け、内外面回転ナデ、相生窯分類椀A
388	4-2区	包含層	須恵器	蓋	–	(3.8)	(13.8)	–	1/7	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒少量含む	N8/灰白	外面自然釉付着、内面回転ナデ
389	4-2区	包含層	土師器	壺	–	(3.25)	(10.8)	–	頸部1/2	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒僅	2.5Y8/2灰白	頸部に貼り付け突帯、断面三角形
390	4-2区	包含層	須恵器	杯蓋	–	2.3	(17.4)	–	天井部1/8	普通	密、φ0.1～2mmの乳白色粒中量含む	N8/灰白	端部屈曲、内外面回転ナデ
391	4-2区	包含層	須恵器	壺	–	(7.25)	(14.6)	(9.2)	底部1/1	良好	密、φ0.5～2mmの白色、灰色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ
392	4-2区	包含層	須恵器	甕	–	(4.5)	–	–	頸部1/4	普通	密、φ0.5～2mm大の乳白色粒中	5PB5/1青灰	外面格子タタキ(縦方向が強い)、内面同心円状当具痕
393	4-2区	包含層	土師器	甕	(25.3)	(9.6)	(25.9)	–	口縁1/6	普通	粗い、φ1mm前後の砂粒を多く含む	2.5Y8/2灰白	口縁端部わずかに摘上げ、外面タテハケ後口縁ナデ、内面ヨコハケ
394	4-2区	包含層	土師器	甕	–	(4.45)	–	–	口径1/10	普通	粗い、φ～2mm大の白、赤、黒、透明色粒やや多く含む	10YR6/2灰黄褐	内面ヨコハケ、外面ナデ
395	4-2区	包含層	土師器	羽釜	(19.2)	(7.05)	(24.4)	–	口縁1/10	普通	粗い、φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色、赤褐色粒多量に含む	10YR7/3にぶい黄橙	外面タテハケ後口縁部ナデ、内面ナデ
396	4-2区	包含層	土師器	羽釜	–	(7.5)	–	–	口縁1/10	普通	粗いφ～1mm大の白、赤、透明、黒色粒少量含む	2.5Y7/3浅黄	頸端部上方へ拡張、外面タテハケ後口縁部ナデ、内面ナデ
397	4-2区	包含層	土師器	羽釜	(18.8)	(5.6)	(24.7)	–	口縁1/4	普通	やや粗い、φ3～4mmの砂粒を多く含む	2.5Y8/3浅黄	頸端部下面ヘラケズリ、内外面ナデ
398	4-2区	包含層	土師器	羽釜	(22.0)	(12.1)	(27.6)	–	口縁1/8	普通	粗い、φ0.5～2mm大の乳白色、灰白色、赤褐色粒多い	10YR7/3にぶい黄橙～10YR3/1黒褐	外面タテハケ後口縁部ナデ、内面ナデ
399	4-2区	包含層	土師器	底部	–	(4.2)	–	–	不明	普通	やや粗い、φ～5mm大の白、赤褐、黒、透明色粒やや多く含む	10YR8/3浅黄橙	内面粘土紐接合痕未調整、外面板ナデ、焼成前穿孔2箇所
400	4-2区	包含層	土師器	土錘	長(3.5)	幅(1.1)	孔径0.3	–	1/2	普通	精良	10YR7/3にぶい黄橙	管状、片方欠損、指圧痕
401	4-2区	包含層	土師器	土錘	長5.45	幅(0.9)	孔径0.3	–	1/9	普通	密、φ1mm以下の白色粒、黒色粒を含む	10YR4/2灰黄褐	管状、端部位置部欠損、表面ナデ
402	4-2区	包含層	土師器	土錘	長(5.05)	幅(0.85)	孔径0.4	–	–	甘	密、φ0.5～2mmの白色、褐色粒少量含む	7.5YR6/4にぶい橙	管状、片側欠損、表面ナデ
403	5区	SD02	土師器	皿	9.3	1.65	–	8.0	2/3	普通	密、φ1～2mm大の黄褐色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	手づくね成形、外面に粘土接合痕有、端部は丸いがややシャープ、Ⅳ期
404	5区	SD02	瓦器	皿	(9.1)	1.3	–	(7.4)	口縁1/6	普通	密、φ～2mm大の灰色粒微量含む	N4/灰	器面摩滅
405	5区	SD02	瓦器	皿	(9.6)	(1.7)	–	–	口縁1/4	普通	密、φ1mm大の白色粒を微量含む	N4/灰	器面摩滅
406	5区	SD02	土師器	杯	14.6	3.0	–	8.9	4/5	普通	密、φ0.5～1mmの白色、赤褐色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、器面摩滅

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
407	5区	SD02	土師器	托皿	−	(2.05)	(5.3)	(5.3)	底部1/1	普通	細かい	7.5YR8/4浅黄橙	器面摩滅、底部糸切りか、Ⅱ期新段階～Ⅲ期
408	5区	SD02	土師器	托皿	−	(2.2)	(5.1)	(5.1)	底部1/1	普通	密、φ1mm大の赤褐色粒中、φ0.5～1mm大の白色粒僅	5YR7/8橙	底部糸切り、器面摩滅、Ⅱ期新段階～Ⅲ期
409	5区	SD02	瓦器	椀	(15.0)	4.6	−	(6.0)	1/4	普通	精良	N7/灰白	内面疎らにミガキ、高台断面四角形、外面暗文観察できず、炭素吸着弱、和泉型Ⅲ期
410	5区	SD02	瓦器	椀	(13.8)	(4.35)	−	−	口縁1/6	普通	密、φ1mm前後の白色粒を含む	N4/灰	器面摩滅、和泉型
411	5区	SD02	白磁	碗	−	(5.0)	−	−	口縁1/12	普通	精良	5Y7/2灰白	大宰府Ⅳ類
412	5区	SD02	白磁	碗	(14.3)	(4.1)	−	−	口縁1/6	普通	密、φ～1mm黒色粒まれに含む	施釉部7.5Y7/1灰白、露胎部5Y8/1灰白	大宰府Ⅳ類
413	5区	SD02−1	須恵器	杯	(14.5)	(3.55)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ1mm前後の白色粒を含む	N8/灰白	底部調整不明、内外面回転ナデ
414	5区	SD02	須恵器	椀	(18.0)	4.3	−	(7.75)	口縁1/6	普通	密、φ0.5～3mmの灰色、白色粒中量含む	N6/灰	底部調整不明、内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ−2期
415	5区	SD02	須恵器	椀	(16.3)	5.3	−	(4.8)	1/3	甘	やや粗い、φ3mm前後の砂粒を含む	N8/灰白色	底部調整不明、口縁部重焼痕、色調は白色を呈す
416	5区	SD02	須恵器	椀	(16.0)	6.0	−	(5.0)	1/2	普通	密、0.1～4mm大の乳白色少	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、端部は丸くおさめる、森田編年Ⅱ−2期
417	5区	SD02	須恵器	椀	(16.0)	4.5	−	(5.8)	1/5	甘	密、φ～2mm大の乳白色、黒色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
418	5区	SD02	須恵器	椀	−	(2.9)	(12.8)	(5.0)	底部1/2	普通	密、φ1mm以下の砂粒混入	N7/灰白	底部糸切り、平高台明瞭でない、森田編年Ⅰ−2期
419	5区	SD02−1	須恵器	椀	−	(1.75)	(10.2)	(5.75)	底部1/3	甘	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒少	N8/灰白	底部糸切り、高台低い、器面摩滅、森田編年Ⅰ−2期
420	5区	SD02−1	須恵器	椀	−	(2.5)	(10.8)	(5.2)	底部1/3	良好	密、φ0.5～1mmの白色粒極少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
421	5区	SD02	須恵器	椀	−	(2.15)	(9.6)	5.45	底部1/1	普通	密、φ～3mm大の乳白色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
422	5区	SD02	土師器	甕	−	(7.35)	−	−	口縁1/8	普通	粗い、φ3mm前後の砂粒を含む	5YR7/6橙	内面ナデ、外面はタテハケ後ナデ、口縁端部に沈線状のスジ
423	5区	SD02	土師器	羽釜	−	(3.5)	−	−	口縁1/8	普通	粗い、φ～8mm大の白、赤褐色、黒色粒多く含む	2.5Y8/1灰白	内外面ナデ、顎部断面は四角形
424	5区	SD02	土師器	羽釜	(25.2)	(3.8)	(31.2)	−	口縁1/6	普通	粗い、φ～2mm大の赤褐色、白、雲母粒含む	2.5Y7/2灰黄	内外面ナデ、顎端部は上方へ拡張
425	5区	SD02	土師器	甕	(34.5)	(5.75)	(35.1)	−	口縁1/3	甘	粗い、φ0.5～1mm大の白色粒中量含む	10YR4/2灰黄褐	内面口縁部ヨコハケ(6条/cm)、外面タテハケ後ナデ
426	5区	SD02	土師器	羽釜	−	(6.4)	−	−	口縁1/10	普通	粗い、φ1mm以下の砂粒を多く含む	7.5YR8/4浅黄橙	内面ヨコハケ(5条/cm)、外面羽部貼り付け後ナデ
427	5区	SD02	瓦質土器	羽釜	−	(21.2)	脚径2.5	−	脚部1/1	普通	やや粗い、φ～1mm大の灰色粒含む	5Y8/1灰白	三足鍋脚部、器面摩滅、脚部はケズリにより成形か
428	5区	SD02	須恵器	甕	(22.0)	(4.2)	(22.8)	−	口縁1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒僅	N6/灰	口縁端部外方へつまみ出す
429	5区	SD02	須恵器	甕	(28.7)	(3.3)	(29.0)	−	口縁1/8	甘	密、φ0.5～1mmの白色、灰色、褐色粒少量含む	N3/暗灰	口縁端部上方へやや拡張、外面タテハケ(5条/cm)、焼成甘く瓦質
430	5区	SD02	須恵器	甕	(30)	(7.2)	(31.9)	−	口縁1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒少、赤褐色粒僅含む	5PB6/1青灰	口縁端部は上方、下方へわずかに拡張、外面タタキ後ナデ、内面ナデ
431	5区	SD02	須恵器	鉢	−	(5.0)	−	−	口縁1/20	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒少	N8/灰白	口縁端部断面三角形、内外面ナデ、口縁部分類A2類
432	5区	SD02	瓦	軒丸瓦	径(13.5)	厚3.4	幅(6.1)	−	瓦当1/4	普通	やや粗い、φ～2mm大の灰、白色粒微量含む	N8/灰白	本町式軒丸瓦、瓦当裏面ケズリ、復元径13.5cm、本町式S寸
433	5区	SD02	瓦	丸瓦	長(8.8)	高(10.25)	幅(12.4)	−	1/10	普通	粗い、φ～5mm大の灰、白、赤褐色粒少量含む	2.5Y7/1灰白	玉縁部欠損、側面面取り、布目(縦11条、横11条/cm)、外面摩滅
434	5区	SK10	瓦器	椀	15.35	5.5	−	5.4	1/2	甘	密、φ0.5～1mm大の灰白色、乳白色粒少	N4/灰	器面摩滅、和泉型Ⅲ期
435	5区	SK10	須恵器	椀	(15.7)	4.8	−	5.5	2/3	普通	やや粗い、φ10～1mm大の白色粒を多く含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ−2期
436	5区	SK10	須恵器	椀	(15.4)	4.8	−	(4.6)	1/8	普通	密、φ～1mm大の白、灰色粒微量含む	N8/灰白	底部糸切り、口縁重焼痕、内外面回転ナデ、色調は白色を呈す、森田分類Ⅰ−2期
437	5区	SK10	須恵器	鉢	−	(4.75)	(17.8)	(9.7)	底部1/4	普通	密、φ～2mm大の白、透明、黒色粒やや多く含む	N6/灰	鉢底部、器面摩滅、底部調整不明
438	5区	SK10	土師器	甕	(33.6)	(6.95)	−	−	口縁1/12	甘	粗い、φ0.5～4mmの白色、灰白、褐色、赤褐色粒多量に含む	5YR6/6橙	外面タテハケ後ナデ、内面ナデ
439	5区	SK10	土師器	鍋	−	(8.15)	−	−	脚部1/3	普通	やや粗い、φ1～1.5mm灰白色、φ0.5～1mm赤褐色粒含む	10YR7/3にぶい黄橙	土師質三足鍋脚部、外面タテハケ(5条/cm)
440	5区	SD01	須恵器	杯	(13.2)	3.5	(13.4)	(7.2)	底部1/3	普通	密、φ～1mm大の白色粒微量含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ、薄手の作り
441	5区	SK03	土師器	羽釜	−	(3.35)	−	−	羽部1/10	甘	やや粗い、φ0.5～4mmの白色、赤褐色、灰色粒含む	10YR7/2にぶい黄橙	羽部貼り付け、ナデ
442	5区	SK06	須恵器	椀	−	(2.95)	−	−	口縁1/14	良好	密、φ0.5～2mmの白色、透明粒少量含む	N7/灰白	内外面ナデ
443	5区	SK09	須恵器	椀	−	(3.15)	−	−	口縁1/16	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	N7/灰白	内外面ナデ、口縁端部丸くおさめる
444	5区	SK09	須恵器	椀	−	(2.3)	−	−	口縁1/8	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒微量含む	N6/灰	内外面ナデ、口縁端部肥厚
445	5区	包含層	土師器	托皿	−	(1.65)	(7.2)	5.0	底部1/1	良好	密、φ0.5～1mm大の白色、灰色粒少量含む	N8/灰白	底部ヘラ切り、内面ナデ
446	5区	包含層	瓦器	皿	−	(1.6)	−	−	口縁1/10	普通	精良	N7/灰白、N4/灰	器面摩滅
447	5区	包含層	瓦器	椀	−	(1.75)	(8.6)	(4.5)	底部1/3	甘	密、φ0.5mm以下の白色粒少量含む	2.5Y6/2灰黄	高台断面四角、器面摩滅
448	5区	包含層	須恵器	鉢	−	(2.35)	−	−	口縁1/16	普通	密、φ～7mmの青、白、黒色粒少量含む	5PB7/1明青灰	口縁端部上方へ拡張、口縁部分類B1類
449	5区	包含層	須恵器	鉢	−	(3.7)	−	−	口縁1/20	普通	密、φ～2mm大の灰、白、黒色粒少量含む	N7/灰白	口縁端部上方へ拡張、口縁部分類B1類
450	5区	包含層	須恵器	椀	−	(3.1)	(12.6)	(4.8)	底部1/2	普通	密、φ3～1mmの白色粒、褐色粒、灰色色粒を含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ−1期
451	5区	包含層	須恵器	椀	−	(2.1)	(9.5)	(6.0)	底部1/1	普通	密、φ～2mm大の白、透明色粒微量含む	N7/灰白	底部糸切り、平高台脇ナデ、相生窯分類椀C3
452	5区	包含層	土師器	甕	−	(8.7)	−	−	口縁1/12	普通	粗い、φ～1mm大の白、赤褐、透明、黒色粒矢や多く含む	10YR8/2灰白	内面ヨコハケ、口縁外面ヨコハケ後ナデ
453	6−1区	SP64	土師器	皿	(9.0)	1.4	−	(6.5)	1/4	普通	密、φ1～2mmの褐色、赤褐色、白色、灰色粒、中量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切りか、器面摩滅、Ⅳ期
454	6−1区	SP100	土師器	皿	(9.0)	1.45	−	(7.4)	口縁1/6	甘	精良、φ0.5mmの白色粒ごく少量含む	10YR8/3浅黄橙	手づくね成形、口縁端部三角形、内外面ナデ、Ⅳ期
455	6−1区	SP88	土師器	皿	(15.0)	(2.15)	−	−	口縁1/8	甘	密、φ0.5～1mmの白色、褐色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	手づくね成形、器面摩滅
456	6−1区	SP88	須恵器	椀	−	(3.6)	(13.85)	5.3	底部2/3	良好	密、φ1～7mmの白色小石粒中量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ−1期
457	6−1区	SP100	土師器	皿	(14.0)	(2.55)	−	(8.8)	口径1/8弱	普通	密、φ1mm以下の砂粒混入	7.5YR8/4浅黄橙	手づくね成形、口縁端部三角形、内外面ナデ、Ⅳ期
458	6−1区	SP100	土師器	皿	(15.0)	2.45	−	(8.6)	口縁1/5	甘	密、φ0.5～1mm大の白色粒少量含む	10YR7/2にぶい黄橙	底部ヘラ切り、口縁やや内湾気味に立ち上がり端部で外反
459	6−1区	SP100	須恵器	椀	(16.0)	(3.35)	−	−	口縁1/6	不良	やや粗い、φ0.5～2mm大の白色、灰色、透白色粒中量含む	5Y8/1灰白	内外面回転ナデ、色調は白色を呈す
460	6−1区	SP139堀方	土師器	杯	15.4	2.75	−	8.8	1/4	普通	やや粗い、φ1mm以下の砂粒を含む	口縁部10YR8/1灰白、底部5YR8/4淡黄	底部ヘラ切り、板状圧痕有、口縁やや内湾気味に立ち上がる
461	6−1区	SP139	須恵器	椀	−	(3.4)	−	−	口縁1/14	良好	やや粗い、φ0.5～3mmの白色、灰色粒中量含む	N6/灰	内外面回転ナデ
462	6−1区	SP139	須恵器	椀	−	(2.4)	(12.2)	(5.95)	底部1/2	良好	密、φ0.5～2mm大の灰色、白色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ−1期
463	6−1区	SP31	須恵器	椀	(15.0)	(3.95)	−	−	口縁1/7	良好	密、φ0.5～1mmの白色、暗灰色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
464	6−1区	SP50	須恵器	椀	−	(3.45)	(14.4)	(6.2)	底部1/4	良好	密、φ0.5～1mmの灰色、白色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ−1期

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
465	6-1区	SP53	土師器	皿	(8.8)	1.25	–	(6.4)	2/5	普通	やや粗い、φ～5mm大の乳白色、透明、赤褐色やや多く含む	2.5Y8/2灰白	底部ヘラ切りか、Ⅲ期新段階
466	6-1区	SP53	須恵器	皿	(8.4)	1.55	–	(5.2)	口縁1/7	良好	密、φ0.5mm以下の白色粒極少量含む	N5/灰、N3/暗灰	内外面ナデ
467	6-1区	SP91	土師器	皿	(9.0)	1.75	–	(6.7)	1/6	普通	やや粗い、φ0.5～4mmの白色、褐色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	底部調整不明、口縁部緩やかに外反
468	6-1区	ST01	土師器	皿	9.3	1.95	–	4.0	9/10	普通	密、φ2mm以下の透明粒、赤色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	手づくね成形、口縁部ナデ、端部丸くおさめる、Ⅳ期
469	6-1区	ST01	土師器	皿	8.9	1.8	–	4.0	1/2	普通	密、φ2mm以下の赤色粒微量含む	7.5YR8/2灰白～8/3浅黄橙、10YR8/2灰白	手づくね成形、口縁部ナデ、端部丸くおさめる、Ⅳ期
470	6-1区	ST01	土師器	皿	(8.3)	1.6	–	2.55	1/2	普通	密、φ7mm以下の砂粒(白、透明、赤)少量含む	10YR8/2灰白、2.5YR7/4淡赤橙～7/6橙	手づくね成形、口縁部ナデ、端部丸くおさめる、Ⅳ期
471	6-1区	ST01	土師器	皿	8.85	1.55	–	4.1	1/1	良好	密、φ2.5～1.0mmの砂粒を少量含む	10YR8/2灰白	手づくね成形、口縁部ナデ、端部丸くおさめる、Ⅳ期
472	6-1区	ST01	白磁	碗	15.5	6.9	–	6.05	1/1	普通	精良	施釉部5Y7/1灰白	底部内面沈線、大宰府Ⅳ－1a類、玉縁一部当初より欠損
473	6-1区	ST01	白磁	碗	15.15	6.45	–	6.9	1/1	普通	精良	釉色5Y7/1灰白	底部内面沈線、大宰府Ⅳ－1a類、高台端部摩滅
474	6-1区	ST01	白磁	皿	9.6	2.9	–	4.5	1/1	普通	緻密	露胎部2.5Y8/2灰白、施釉部7.5Y8/1灰白	内面見込み部釉を輪状に掻き取り、太宰府分類Ⅲ-1類
475	6-1区	SK06	土師器	皿	10.2	1.85	–	6.8	3/4	普通	密、φ1mm以下の砂粒を含む	5YR6/6橙	底部ヘラ切り、口縁やや内湾気味に立ち上がる
476	6-1区	SK06	土師器	皿	(8.8)	(1.15)	–	(6.8)	口縁1/5	普通	やや密、φ～1mm大の赤褐色黒色粒微量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、器面摩滅
477	6-1区	SK06	須恵器	椀	(16.4)	(3.9)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ1～2mm大の乳白色粒少	N6/灰	内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ－2期
478	6-1区	SK06	須恵器	椀	(16.9)	(3.6)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ～4mm大の透明、白色粒まれに含む	N7/灰	内外面回転ナデ
479	6-1区	SK06	瓦器	皿	(9.0)	(1.75)	–	(6.6)	口縁1/4	普通	密、φ1mm大の白色粒を含む	N6/灰	内面見込み暗文、口縁部ミガキ
480	6-1区	SK06	土師器	甕	–	(3.6)	–	–	口縁1/12	普通	やや粗い、φ～2mm大の赤褐色、白、透明色粒多く含む	5YR6/6橙～7.5YR7/4にぶい橙	外面タテハケ後、口縁部内外面ヨコナデ、
481	6-1区	SD03	土師器	皿	(8.2)	1.25	–	5.7	3/4	普通	密、φ0.5～4mmの灰色、褐色、透白色粒中量含む	7.5YR7/3にぶい橙	底部ヘラ切り、内外面ナデ、見込み中央凹む、内湾して立ち上がる
482	6-1区	SD03	土師器	土錘	高(3.85)	幅0.95	孔径0.4	–	–	普通	密、φ1mm以下の砂粒混入	10YR8/4浅黄橙	管状、上下端とも欠け
483	6-1区	SD03	石製品	五輪塔	高21.35	風輪幅14.3	空輪幅11.7	–	1/1	–	–	5Y7/2～7.5Y7/2灰白	空風輪、砂岩製、ホゾ一部欠損
484	6-1区	SP14	土師器	杯	(13.0)	3.15	–	(7.15)	口縁1/6	甘	密、φ0.5～1mm大の白色、褐色粒中量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、口縁直線的
485	6-1区	SP18	土師器	皿	8.6	1.6	–	4.9	口縁4/6	普通	やや粗い、φ3mm以下の砂粒を多く含む	2.5Y8/1灰白	手づくね成形、器面摩滅、Ⅳ期
486	6-1区	SP110堀方	土師器	皿	–	(2.05)	–	–	1/10	普通	やや密φ～1mm大の白、透明、黒色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	底部調整不明、口縁部外反、Ⅰ期か
487	6-1区	SP123堀方	土師器	椀	–	(1.45)	(6.6)	(6.3)	底部1/2	普通	密、φ～2mm大の赤褐色、透明色粒少量含む	10R6/4にぶい赤橙	器面摩滅
488	6-1区	SP125	土師器	杯	(14.4)	(2.9)	–	(7.2)	1/8	普通	やや粗い、φ～2mm大の赤褐色、黒色粒微量含む	2.5Y8/2灰白	底部調整不明、器面摩滅
489	6-1区	SP136	須恵器	椀	–	(2.65)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒まれに含む	N6/灰	内外面回転ナデ
490	6-1区	SP137	土師器	皿	(8.0)	1.2	–	(6.2)	1/8	普通	やや粗い、φ～3mm大の白、透明、黒、赤褐色粒多く含む	7.5YR7/6橙	底部ヘラ切りか、器面摩滅
491	6-1区	包含層	土師器	皿	(8.1)	1.7	–	(6.8)	1/7	甘	密	10YR8/2～10YR6/1褐灰	手づくね、内外面ナデ、外面下半指オサエ、Ⅳ期
492	6-1区	包含層	土師器	皿	(8.7)	1.3	–	(7.0)	1/2	甘	やや密、φ0.1～0.5mmの橙粒中量含む	10YR8/2灰白～5YR7/6橙	手づくね、口縁部丸くおさめる
493	6-1区	包含層	土師器	皿	(7.9)	(0.9)	–	(4.8)	1/4	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	10YR8/2灰白	口縁端部丸くおさめる、器面摩滅
494	6-1区	包含層	土師器	皿	(15.1)	2.3	–	–	口縁1/8	甘	やや粗い、φ0.1～3mmの乳白色粒含む	5YR7/6橙	手づくね、器面摩滅、口縁端部三角形、Ⅳ期
495	6-1区	包含層	土師器	皿	(14.0)	(2.3)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	2.5Y8/1灰白	器面摩滅、内面ナデにより凹む、Ⅳ期
496	6-1区	包含層	須恵器	椀	(17.0)	(4.65)	–	–	口縁1/7	良好	密、φ0.5～5mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
497	6-1区	包含層	須恵器	椀	–	(2.1)	(9.7)	(6.0)	底部1/3	良好	密、φ0.5mm以下の白色粒極少量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
498	6-1区	包含層	須恵器	椀	(17.0)	4.55	–	(6.6)	1/4	甘	密、φ1mm程の灰色粒を含む	N8/灰白	底部糸切り、内湾し立ち上がり、口縁部外反、森田編年Ⅱ－1期
499	6-1区	包含層	須恵器	杯蓋	–	1.9	(16.0)		1/10	普通	密、φ0.1～0.5mm、φ3mmの乳白色粒含む	N7/灰白	端部屈曲、内外面回転ナデ
500	6-1区	包含層	瓦器	皿	(9.2)	(2.1)	–	–	口縁1/6	普通	精良	N5/灰	内面ミガキ、外面ナデ、下半指オサエ
501	6-1区	包含層	瓦器	皿	(8.0)	(1.3)	–	–	口縁1/8	普通	精良	2.5YR7/4淡赤橙～2.5Y8/1灰白	内外面ナデ、外面下半指オサエ
502	6-1区	包含層	瓦器	皿	(8.6)	(2.0)	–	–	1/4	普通	精良	N5/灰～N8/灰白	器面摩滅、内面炭素吸着弱
503	6-1区	包含層	瓦器	椀	(14.2)	(3.4)	–	–	口縁1/5	普通	密、φ0.5mm大の乳白色、灰色粒僅	5Y8/2灰白～5Y7/1灰白	内面ミガキ、外面ナデ、炭素吸着ほぼなし、和泉型
504	6-1区	包含層	瓦器	椀	(15.0)	(3.1)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ0.5mm以下の灰色、白色粒極少量含む	N6/灰	内面摩滅、口縁外面ナデ、下位指オサエ
505	6-1区	包含層	瓦器	椀	–	(1.0)	(6.6)	(4.4)	底部1/4	普通	密、φ～1mm大の褐色粒まれに含む	N6/灰、N8/灰白	器面摩滅
506	6-1区	包含層	瓦器	椀	–	(1.5)	(8.9)	(6.0)	底径1/4	普通	密、φ～1mmの黒、茶色粒微量含む	5PB5/1青灰～5B7/1明青灰	内面付着物のため調整不明
507	6-1区	包含層	瓦器	椀	–	(1.1)	(6.65)	4.9	底部7/8	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	N5/灰	内面見込み平行暗文、高台断面四角、内面炭素吸着良好、外面炭素一部剝げ
508	6-1区	包含層	白磁	碗	(15.5)	(2.2)	–	–	口縁1/8	良好	精良	5Y7/2灰白	白磁碗玉縁部、太宰府分類Ⅳ類
509	6-1区	包含層	白磁	碗	(15.0)	(5.5)	–	6.8	3/4	普通	密、φ～1mm大の黒色粒微量含む	施釉部5Y7/2灰白	白磁碗、削り出し高台、見込みに段、太宰府分類Ⅳ-1b類
510	6-1区	包含層	青磁	碗	–	(2.1)	(10.0)	(5.6)	底部1/4	普通	精良	7.5Y5/2灰オリーブ	龍泉窯系青磁碗、太宰府分類Ⅰ類
511	6-1区	包含層	須恵器	甕か	–	(4.4)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ2mmほどの白色粒を含む	5PB5/1青灰	直立する口縁部、口縁端部外反、水平端面
512	6-1区	包含層	須恵器	甕	–	(6.0)	–	–	体部1/20	普通	やや粗い、φ5mm程の砂粒を含む、φ1mm以下の白色粒多	N7/灰白	外面タタキ、頸部ナデ
513	6-1区	包含層	須恵器	鉢	–	(3.3)	–	–	口縁1/16	良好	密、φ0.5mm以下の白色粒極少量含む	N6/灰	口縁端部上方へわずかに拡張、内外面回転ナデ、口縁部分類B1類
514	6-1区	包含層	須恵器	椀	–	(2.75)	(14.1)	(6.2)	底部1/3	普通	密、φ1.5mm程の白色粒を含む	N8/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ－2期
515	6-1区	包含層	須恵器	壺	–	(20.7)	(21.4)	–	胴部1/2	普通	密、φ3mm以下の白色粒を含む	N4/灰	内外面ロクロ目顕著
516	6-1区	包含層	須恵器	壺	–	(5.15)	(12.7)	–	頸部1/4	良好	密、φ0.5mm以下の白色粒極少量含む	N6/灰	沈線2条、内外面回転ナデ
517	6-1区	包含層	須恵器	壺	–	(6.8)	(21.0)	–	肩部1/6	良好	密、φ0.5～4mmの白色粒極少量含む	N7/灰白	肩部2条凸帯貼り付け
518	6-1区	包含層	土師器	台か	–	長(5.6)	厚(3.1)	–	口縁1/5	普通	密、φ～5mm大の白、赤褐、透明色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	用途不明品、器面摩滅のため調整不明
519	6-1区	包含層	土師器	堝	–	長(8.7)	厚3.8	幅(3.3)	脚部1/3	甘	やや粗い、φ0.5～2mmの白色、褐色、灰色粒多量に含む	2.5Y5/1黄灰	三足脚部、外面タテハケ
520	6-1区	包含層	土師器	甕	(30.5)	(4.8)	(30.9)	–	口縁1/8	甘	粗い、φ0.5～5mmの白色、褐色、透明色、灰色粒多量に含む	7.5YR6/4にぶい橙	口縁内面に面を有す、器面摩滅
521	6-1区	包含層	土師器	甕	(30.0)	(4.7)	(30.7)	–	口縁1/8	普通	粗い、φ0.5～2mm大の灰白色、乳白色粒多	10YR8/2灰白	内面ヨコハケ、外面摩滅
522	6-1区	包含層	土師器	甕	(33.0)	(4.2)	(34.2)	–	口縁1/5	普通	粗い、φ～5mm乳白、黒、透明色粒少量含む	10YR6/2灰黄褐	内面ヨコハケ後ナデ

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
523	6-1区	包含層	瓦	平瓦	長(11.65)	厚2.5	幅(12.4)	－	1/10	普通	やや粗い、φ~5mm以下の白色粒を含む	5Y8/1灰白	凸面平行タタキ、凹面布目(縦7本、横5本/cm)
524	6-2区	SP04	瓦器	椀	(15.0)	(4.5)	(15.1)	－	口縁1/4	普通	密、φ0.5mm大の灰色、赤橙色、乳白色粒僅	5Y8/1灰白、5Y3/1オリーブ黒	器面摩滅、和泉型
525	6-2区	SP06	土師器	甕	－	(3.4)	－	－	口縁1/10	普通	粗い、φ3mmまでの白、褐色、灰色の砂礫の粒を多く含む	2.5Y8/2灰白	器面摩滅
526	6-2区	SP05	土師器	皿	(8.6)	(1.4)	－	(5.2)	口縁1/5	普通	密、φ1mm前後の白色粒混入	10YR8/3浅黄橙	手づくね、口縁端部薄作り、Ⅳ期
527	6-2区	SP05	土師器	皿	(8.0)	(1.2)	－	(6.3)	口縁1/6	普通	密、φ1mmの白色粒含む	7.5YR7/4にぶい橙	手づくね、口縁端部は丸くおさめる、Ⅳ期
528	6-2区	SP05	土師器	皿	(8.2)	1.6	－	(4.9)	1/4	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒僅	7.5YR7/6橙	手づくね、口縁端部は三角形状、Ⅳ期
529	6-2区	SP05堀方	土師器	椀	(12.0)	4.85	－	5.7	1/3	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色粒少	10YR7/4にぶい黄橙	底部糸切り、ゆるやかに内湾しながら立ち上がり、口縁端部外反、見込み凹み、平高台椀の最終形態か
530	6-2区	SP05	須恵器	椀	(14.0)	4.2	－	(6.0)	1/3	普通	密、φ～3mm白小石、φ1mm黒小石混じる	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、森田編年Ⅲ－1期
531	6-2区	SP05	須恵器	椀	－	(3.45)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ1mm程の白色粒灰色粒を多く含む	N7/灰白	内外面回転ナデ
532	6-2区	SP05	白磁	碗	－	(3.65)	－	－	口縁1/8	普通	精良	7.5Y8/2灰白	大宰府分類Ⅴ－4類かⅧ－1・3類
533	6-2区	SP05	瓦器	椀	－	(3.6)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	N4/灰	器面摩滅
534	6-2区	SP05	土師器	甕	(37.7)	(7.45)	(38.2)	－	口縁1/4	普通	粗い、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒多	2.5YR7/6橙	器面摩滅
535	6-2区	包含層	白磁	碗	－	(3.2)	(10.4)	6.0	底部1/1	普通	精良	7.5Y7/1灰白	大宰府分類Ⅴ類底部
536	6-2区	包含層	須恵器	壺	(9.8)	(4.15)	(15.3)	－	口縁1/5	普通	密、φ0.5～2mmの白色粒、灰色粒少量含む	5Y7/2灰白	口縁部直下に沈線2条、耳接合痕有、褐釉陶器の可能性あり
537	6-2区	包含層	須恵器	壺	長6.9	厚1.45	幅1.65	－	耳1/1	普通	密、φ0.5～1mmの透明色白色粒少量含む	N6/灰白	壺耳部、帯状、相生窯分類壺B
538	6-2区	包含層	須恵器	杯	－	(1.95)	(11.3)	(8.2)	底径1/9	普通	密、φ～1mmの白、黒、透明色粒微量含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、輪高台貼り付け、内外面回転ナデ、杯B
539	6-2区	包含層	須恵器	壺	－	(5.2)	(23.7)	(19.8)	底部1/6	普通	やや粗い、φ～3mm大の白、黒色粒やや多く含む	N5/灰と白	底部ケズリ、輪高台貼り付け、高台外面打欠き
540	6-2区	包含層	土師器	羽釜	－	(2.7)	－	－	口縁1/8	普通	粗い、φ1mm程の白色粒を多く含む	10YR6/3にぶい黄橙	外面頸貼付後タテハケのちナデ、内面ヨコハケ後口縁端部ナデ
541	6-2区	包含層	瓦質土器	羽釜	(26.0)	(2.9)	(32.0)	－	口縁1/8	普通	やや粗い、φ0.5～1mm大の乳白色粒僅	N3/暗灰	外面ナデ、内面ヨコハケ後口縁端部ナデ
542	6-2区	SD02	土師器	皿	(8.6)	1.6	－	－	口縁1/6	普通	密、φ0.5～1mmの白色粒、褐色粒、黒色粒少量含む	10YR7/4にぶい黄橙	手づくね、器面摩滅、Ⅳ期
543	6-2区	SD02	瓦器	皿	(9.1)	2.0	－	(3.65)	1/4	普通	密、φ0.5mmに満たない砂粒をわずかに含む	5Y3/1オリーブ黒	器面摩滅
544	6-2区	SD02	須恵器	壺	－	(6.8)	(19.5)	(15.1)	底部1/4	普通	密、φ1mm間での白、透明な砂粒を含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ
545	6-2区	SK01	土師器	羽釜	(23.6)	(15.45)	(28.1)	－	1/4	普通	粗い、φ0.5～3mmの白色、褐色、赤褐色、灰色粒多量に含む	2.5Y7/3浅黄、10YR5/1褐灰	口縁直下に頸貼付、外面：ナデ、内面：ナデ、粘土紐接合痕
546	6-2区	SX03	瓦質土器	脚部	長(16.25)	脚幅(2.8)	幅(4.4)	－	脚部9/10	甘	やや粗い、φ1mm以下の白色粒、灰色粒、褐色粒を多く含む	5YR8/4淡橙～10Y4/1灰	瓦質三足鍋脚部、器面摩滅
547	7区	SK01	土師器	杯	－	(1.3)	(10.0)	(9.4)	底部2/3	普通	やや粗い、φ1～2mm大の灰白色、乳白色粒少	5YR5/3にぶい赤褐	底部ヘラ切り、板状圧痕有
548	7区	SK01	須恵器	椀	－	(2.4)	－	－	口縁1/12	普通	やや粗、φ～2mm大の灰色粒やや多く含む	5PB6/1青灰	内外面回転ナデ、口縁端部肥厚
549	7区	SK02	土師器	皿	(8.2)	1.35	－	(5.2)	1/3	普通	やや密、φ～1mm大の白、赤褐色、灰色粒微量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、内湾して立ち上がる、Ⅳ期
550	7区	SP01	須恵器	椀	－	(3.15)	－	－	口縁1/12	普通	密、φ～4mm大の白、灰色粒少量含む	5Y7/1灰白	口縁部重焼痕、色調は白色を呈す
551	7区	SP05	須恵器	椀	－	(2.8)	－	－	口縁1/16	普通	密、φから2mm以下の白、黒色粒少量含む	N7/灰白	口縁端部肥厚、口縁外面重焼痕
552	7区	SP07	須恵器	椀	－	(3.6)	(14.4)	(6.4)	底部1/4	普通	やや粗、φ～7mm大の乳白色、白、黒色粒少量含む	5PB7/1明青灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
553	7区	SP07	須恵器	椀	－	(5.2)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ1mm以下の白色粒混入	N7/灰白	内外面回転ナデ、内面スス痕
554	7区	SP10	須恵器	椀	－	(3.5)	－	－	底部1/8	普通	密、φ～2mm以下の白、黒色粒やや多く含む	N7/灰白	底部調整不明、内外面ナデ
555	7区	SP10	須恵器	椀	－	(3.4)	－	－	口縁1/12	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒僅	N6/灰色	内外面ナデ、口縁端部肥厚
556	7区	包含層	瓦器	皿	(9.2)	(1.75)	－	－	1/6	普通	密、φ～2mm大の赤、白色粒少量含む	N5/灰、10Y8/1灰白	内面ミガキ
557	7区	包含層	土師器	托皿	(11.2)	3.9	－	(5.1)	2/3	甘	やや粗い、φ0.1～0.5mmの乳白色粒多、橙粒少量含む	10YR8/2灰白～10YR8/3浅黄橙	底部糸切り、内外面ナデ
558	7区	包含層	須恵器	杯	(16.5)	(2.55)	－	－	口縁1/6	良好	密、φ0.5～3mmの白色粒少量含む	N6/灰	口縁外反、内外面回転ナデ
559	7区	包含層	須恵器	椀	(14.5)	(3.9)	－	－	口縁1/6	普通	密、φ～4mm大の白色粒少量含む	N7/灰白	内湾し立ち上がり、口縁部外反、内外面回転ナデ
560	7区	包含層	須恵器	椀	－	(1.65)	(11.1)	7.2	底部4/5	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒微量含む	N8/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
561	7区	包含層	瓦器	椀	－	(4.8)	－	－	口縁1/8	甘	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	N2/黒～N7/灰白	器面摩滅
562	7区	包含層	白磁	碗	(14.8)	(2.9)	－	－	口縁1/8	良好	精良	10Y8/1灰白	白磁碗、太宰府分類Ⅳ類
563	7区	包含層	白磁	碗	－	(2.2)	(9.0)	(5.0)	底部1/3	普通	密、φ～1mm大の黒色粒微量含む	施釉部7.5Y8/1灰白	白磁碗、底部削り出し、見込みに段、太宰府分類Ⅳ1-b類
564	7区	包含層	白磁	碗	－	(2.15)	(9.2)	(7.0)	底部1/5	普通	密、φ～1mm大の黒色粒微量含む	7.5Y7/1灰白	白磁碗、底部削り出し、見込みに圏線、太宰府分類Ⅳ類
565	7区	包含層	土師器	甕	－	(7.2)	－	－	口縁1/15	普通	粗い、φ～3mm大の白、透明、黒、赤褐色粒やや多く含む	5YR6/6橙	外面タテハケ後ナデ、内面ナデ
566	7区	包含層	須恵器	鉢	－	(4.2)	(13.7)	(10.1)	底部1/4	普通	密、φ～3mm大の白色粒やや多く含む	5PB7/1明青灰	底部ヘラ切り、高台脇ナデ、高台脇自然釉付着
567	7区	包含層	須恵器	甕	(27.5)	(6.1)	(28.0)	－	口部1/6	普通	やや粗い、φ～8mm大の青、白、黒色粒少量含む	N7/灰白	口縁端部上方へわずかに拡張、内外面ナデ
568	8区	SK01	須恵器	椀	(16.4)	(3.4)	－	－	口径1/8	普通	密、φ～4mm大の白色粒微量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、口縁端部肥厚、重焼痕
569	8区	SK01	土師器	甕	(34.0)	(6.6)	(35.1)	－	口縁1/10	普通	粗い、φ0.5～2mm大の赤橙色、乳白色、雲母少量含む	7.5YR6/6橙～7.5YR5/4にぶい橙	外面タテハケ後、内外面ナデ
570	8区	SK01	焼締陶器	擂鉢	(31.0)	(8.4)	(32.7)	－	口縁1/6	普通	φ～1.5cmの白、灰色粒少量含む	2.5YR6/6橙	堺明石系、スリ目7条/単位、口縁外面沈線2条、江戸時代
571	8区	SK02	染付	蓋	(8.8)	(2.5)	(9.0)	(4.8)	1/3	普通	精良	施釉部10GY8/1明緑灰より白い	肥前系磁器、江戸時代
572	8区	SK02	施釉陶器	皿	(10.8)	2.4	－	(3.6)	1/3	普通	精良	施釉部5PB6/1青灰	見込みに目痕、外面口縁のみ施釉
573	8区	SK02	施釉陶器	杯	－	(1.5)	(6.35)	3.2	底部1/1	普通	精良	施釉部7.5Y5/2灰オリーブ	外面底部露胎
574	9区	SP01	須恵器	皿	(7.4)	2.35	－	(4.2)	1/8	普通	密、φ0.5～2mm大の乳白色、灰色粒僅	N8/灰白	口縁端部重焼痕、器面摩滅、相生窯分類小皿
575	9区	SP01	須恵器	椀	(16.6)	4.85	－	(5.6)	1/6	普通	密、φ～5mm大の灰、白色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
576	9区	SP02	須恵器	椀	－	(3.05)	(11.9)	(5.6)	底部1/3	普通	密、まれにφ2mm大の灰色粒を含む	N7/灰白	底部糸切り、見込み凹み、森田編年Ⅱ－1期
577	9区	SP20堀方	土師器	皿	(9.8)	1.45	－	(7.0)	1/6	普通	密、φ～1mm白、赤色粒少量含む	5YR6/6橙	底部ヘラ切り、口縁直線的、Ⅲ期新段階
578	9区	SP22	須恵器	椀	(16.3)	(5.55)	－	(5.6)	1/4	普通	やや粗い、φ3mm前後の灰色粒白色粒を多く含む	5Y8/1灰白	底部糸切り、見込み凹み、内外面回転ナデ、口縁外面重焼痕、相生窯分類椀C3
579	9区	SP22	須恵器	椀	(15.2)	(5.1)	－	－	1/6	普通	φ～5mm大の白、黒色粒やや多く含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、口縁外面重焼痕
580	9区	SD02	須恵器	椀	(15.9)	(3.9)	－	－	口縁1/8	普通	密、φ1mm以下の黒色粒、白色粒を含む	N7/灰白	内外面回転ナデ

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
581	9区	SD02	須恵器	椀	－	(1.3)	(7.4)	(6.5)	底部1/4	普通	密、φ1mm以下の白色粒、黒色粒を含む	N7/灰白	底部糸切り、高台脇回転ナデ後切り離し
582	9区	鋤溝	須恵器	椀	－	(1.65)	(9.4)	(5.3)	底部1/4	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	N8/灰白	底部糸切り、内面回転ナデ
583	9区	鋤溝	須恵器	壺	－	(3.3)	－	－	口縁1/30	普通	密、φ～1mm以下の白色粒少量含む	N7/灰白	口縁端部上下にやや拡張
584	9区	包含層	土師器	皿	(8.2)	1.4	－	6.0	3/4	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色、褐色粒僅	5YR6/6橙	底部ヘラ切り、口縁部内湾気味に立ち上がる
585	9区	包含層	土師器	皿	(7.0)	1.2	－	(4.9)	口縁1/8	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色粒僅	7.5YR8/4浅黄橙	底部調整不明、口縁内湾気味に立ち上がる
586	9区	包含層	須恵器	椀	14.1	5.0	－	(4.75)	3/4	良好	密、φ0.5～3mmの白色、灰色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り、見込み凹み、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
587	9区	包含層	須恵器	椀	(14.1)	5.0	－	(5.0)	1/4	普通	密、φ～3mm大の白、黒色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、高台痕跡程度、内面凹み無、内外面回転ナデ、森田分類Ⅰ－2期～Ⅱ－1期
588	9区	包含層	須恵器	椀	(13.4)	(3.7)	－	－	口縁1/4	普通	密、φ～1mm大の灰黒色粒少量含む	N7/灰	内外面回転ナデ
589	9区	包含層	須恵器	椀	－	(1.8)	(9.6)	(5.6)	底部1/5	普通	密、φ1mm大の白、黒色粒微量含む	N6/灰	底部糸切り、見込み凹む
590	9区	包含層	須恵器	椀	－	(2.45)	(11.8)	(5.0)	底部1/5	普通	やや粗い、φ～2mm大の白色粒やや多く含む	N7/灰白	底部糸切り、見込み凹み無し、森田編年Ⅱ－1期
591	9区	包含層	須恵器	椀	－	(2.6)	(9.9)	6.5	底部2/3	良好	密、φ1mm大の白粒微量含む	N6/灰	底部糸切り、高台脇ナデ、相生窯分類椀C3
592	9区	包含層	須恵器	椀	－	(2.55)	(12.8)	(6.2)	底部1/2	普通	密、φ0.5～2mm大の灰白色、乳白色粒僅	N7/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、見込み凹み、内外面ナデ
593	9区	包含層	須恵器	・	(10.9)	(2.65)	－	－	口縁1/6	良好	密、φ0.5mm以下の白色粒、黄橙色粒少量含む	N4/灰	内外面回転ナデ、外面櫛描列点文
594	9区	包含層	須恵器	鉢	－	(5.7)	－	－	口縁1/10	普通	やや粗い、φ3mm程の白色粒を多く含む	N8/灰白	口縁端部外反、内外面ナデ、口縁下部重焼痕、口縁部分類A1類
595	9区	包含層	須恵器	鉢	－	(7.4)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ1mm間での褐灰色の砂礫粒含む	N7/灰白	ロクロ目顕著、口縁端部わずかに外反、口縁部分類A1類
596	9区	包含層	須恵器	鉢	－	(2.7)	(16.5)	(11.5)	底径1/4	普通	密、φ～3mm大の白、赤褐、黒色粒やや多く含む	N6/灰	底部糸切り、内面摩滅
597	9区	包含層	須恵器	壺	－	(3.35)	(17.7)	(15.2)	底部1/5	良好	密、φ0.5～2mmの白色粒少量含む	N8/灰白	底部調整不明、輪高台内側に爪形状圧痕
598	9区	包含層	白磁	碗	－	(2.95)	－	－	口縁1/12	普通	精良	5Y7/2灰白	白磁碗、玉縁部、太宰府分類Ⅳ類
599	9区	包含層	白磁	碗	－	(3.15)	－	－	口径1/20	普通	密	施釉部10Y8/1灰白	白磁碗、口縁端部水平、外反へ尖る、太宰府分類Ⅴ類もしくはⅧ類
600	9区	包含層	白磁	碗	－	(2.7)	－	－	口径1/20	普通	密	施釉部7.5Y7/2灰白	白磁碗、口縁は内湾し、玉縁を有す、太宰府分類Ⅱ類
601	9区	包含層	白磁	碗	－	(4.05)	(12.9)	6.45	底部1/1	普通	やや粗い、φ3mm程の白色粒を含む	施釉部5Y8/1灰白	白磁碗、高台削り出し、太宰府分類Ⅳ類
602	9区	包含層	白磁	皿	－	(2.0)	(6.6)	3.2	底部1/1	普通	精良	10Y8/1灰白	白磁皿、削り出し高台、太宰府分類Ⅱ類か
603	9区	包含層	施釉陶器	卸皿	－	(1.25)	(11.0)	(7.95)	底部1/4	良好	精良、黒色粒わずかに含む	7.5Y7/1灰白	瀬戸焼卸皿
604	9区	包含層	焼締陶器	擂鉢	－	(4.5)	－	－	口縁1/12	普通	密、φ～1mm大の白色粒まれに含む	5PB6/1青灰、5R5/1赤灰	備前焼、口縁薄板作り、凹線無、乗岡編年中世6a期
605	9区	包含層	焼締陶器	擂鉢	(29.6)	(13.0)	(32.0)	(15.8)	1/7	普通	粗い、φ3mm以上の白色粒を多く含む	2.5YR7/6橙	備前焼、口縁部上方と下方へ拡張、刷目9本1単位、乗岡編年中世4a期
606	9区	包含層	土師器	羽釜	(24.4.)	(7.25)	(29.5)	－	口縁1/8	甘	粗い、φ0.5～6mm大の褐色小石粒、白色、赤褐色粒中量含む	10YR5/2灰黄褐	頸端部下方へ拡張、外面タテハケ後顎貼り付け、内外面ナデ
607	9区	包含層	瓦	丸瓦	長(6.6)	厚2.1	幅(6.9)	－	1/20	普通	やや粗い、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒僅	N6/灰	側縁面取り、布目(11条/cm)
608	9区	包含層	石製品	砥石	5.95	6.0	－	7.0	－	－	－	5Y8/1灰白	花崗岩製、上下欠損、使用面4面
609	10-1区	SP18	須恵器	皿	7.7	1.35	－	4.95	1/1	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	N7/灰白	底部糸切り、底部中央に裂痕、相生窯分類小皿
610	10-1区	SP10	土師器	皿	(14.3)	(2.4)	－	(9.2)	1/3	普通	密、φ5mm前後の灰色粒混入	2.5Y8/2灰白	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期新段階
611	10-1区	SP12	土師器	皿	(7.8)	(1.45)	－	(5.5)	1/3	普通	密、φ1mmまでの橙、茶色の砂粒を含む	10YR8/2灰白	手づくね成形、口縁端部丸くおさまる、口縁外面・内面ナデ、Ⅳ期
612	10-1区	SP12堀方	土師器	皿	(12.9)	(2.0)	－	－	口縁1/6	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	10YR8/2灰白	手づくね成形、口縁端部丸くおさまる、口縁外面・内面ナデ、Ⅳ期
613	10-1区	SP12堀方	須恵器	椀	(16.7)	(2.8)	－	－	口縁1/6	普通	密、φ～1mm大の黒色粒まれに含む	N/9白、N4/灰	内外面回転ナデ、口縁部重焼痕、色調は白色を呈す
614	10-1区	SP13	土師器	皿	(9.7)	1.5	－	(8.0)	1/4	普通	密、φ0.5～1mm褐色、白色、灰白色粒少量含む	2.5Y8/1灰白	手づくね成形、口縁端部丸くおさまる、口縁外面・内面ナデ、口縁部三角形、Ⅳ期
615	10-1区	SP23	土師器	皿	(8.7)	(1.45)	－	－	1/4	普通	密、φ1.5mm程の灰色粒、白色粒を含む	10YR8/2灰白	手づくね成形、口縁端部丸くおさまる、口縁外面・内面ナデ、Ⅳ期
616	10-1区	SP24	土師器	皿	(14.2)	3.2	－	(8.5)	1/3	普通	密、φ0.5～1mm褐色、白色、灰白色粒少量含む	10YR8/2灰白	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期古段階
617	10-1区	SP24	土師器	皿	(14.0)	(2.0)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	2.5Y6/1黄灰	口縁内外面ナデ
618	10-1区	SP24	土師器	甕	(25.0)	(15.4)	(25.7)	－	口縁1/4	普通	粗い、φ～6mm大の赤褐、白、透明、黒色粒やや多く含む	2.5Y8/3淡黄	外面平行タタキ、内面当具痕、最大径胴部上半、宮原1992 Ⅱa期以前
619	10-1区	SP24	石製品	砥石	長(9.55)	厚3.4	幅8.65	－	－	－	－	5Y8/1灰白	花崗岩製、上下欠損、使用面6面
620	10-1区	SP20堀方	土師器	皿	(13.1)	(1.65)	－	(9.6)	口縁1/6	普通	密、φ～1mm大の黒、白、透明色粒微量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部調整不明、口縁端部外反、Ⅰ期
621	10-1区	SP20堀方	土師器	杯	(10.2)	3.95	－	(6.0)	1/3	普通	密、φ0.5～1mmの灰色、白色粒少量含む	2.5Y8/1灰白	粘土紐巻上げ、底部指圧痕、内面口縁部に煤痕、Ⅰ期
622	10-1区	SP20堀方	土師器	杯	(14.1)	3.6	－	(6.4)	1/4	普通	やや粗い、φ～5mm大の白、黒、透明、褐色粒微量混じる	7.5YR8/2灰白～5YR7/6橙混じる	底部指圧痕、外面口縁、内面ナデ、口縁外面に沈線、Ⅰ期
623	10-1区	SP22	土師器	皿	(12.3)	2.2	－	(8.3)	1/4	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒僅	10YR8/2灰白	手づくね、器面摩滅、Ⅳ期新段階
624	10-1区	SP22	土師器	皿	(13.0)	(2.25)	－	－	口縁1/6	甘	密、φ0.5～1mmの白色赤褐色褐色粒少量含む	10YR5/1褐灰	手づくね、体部ナデにより屈曲、Ⅳ期新段階
625	10-1区	SP22	土師器	皿	－	(2.3)	(11.5)	(7.4)	底部1/6	普通	密、φ～1mm大の赤褐色、黒色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	手づくね、口縁部ナデ、Ⅳ期新段階
626	10-1区	SP33	須恵器	椀	－	(3.25)	(12.8)	(5.6)	底部2/3	普通	密、φ～4mm大の灰、白色粒少量	N6/灰	底部糸切り、見込みわずかに凹み、内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ－1期
627	10-1区	SP41	土師器	皿	－	(2.2)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ～1mm大の黒、赤色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	器面摩滅
628	10-1区	SP41	須恵器	椀	－	(3.05)	－	－	口縁1/10	普通	密、φ0.5～2mmの白色粒少量含む	N5/灰	内外面黒化
629	10-1区	ST01	土師器	皿	8.2	1.5	－	6.15	1/1	普通	密、φ1mmまでの微細な砂粒含む	2.5Y8/2灰白	手づくね成形、口縁端部断面三角形状、見込みナデ後口縁ヨコナデ、Ⅳ期
630	10-1区	ST01	土師器	皿	8.4	1.6	－	4.3	1/1	普通	密、φ1mm以下の白色粒を含む	2.5Y8/1灰白	手づくね成形、口縁端部断面三角形状、見込みナデ後口縁ヨコナデ、Ⅳ期
631	10-1区	ST01	土師器	皿	8.65	1.55	－	7.25	5/6	甘	密、φ0.5～1mmの褐色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	手づくね成形、口縁端部断面三角形状、見込みナデ後口縁ヨコナデ、Ⅳ期
632	10-1区	ST01	土師器	皿	8.05	1.55	－	6.95	1/1	甘	精良、φ0.5mm以下の白色粒少量含む	2.5Y8/1灰白	手づくね成形、口縁端部断面三角形状、見込みナデ後口縁ヨコナデ、Ⅳ期
633	10-1区	ST01	青磁	碗	16.2	7.0	－	5.9	1/1	良好	精良	5Y6/2灰オリーブ	龍泉窯系青磁碗、内面に片彫蓮華文、花文2単位、葉文1単位、太宰府分類Ⅰ－2b類
634	10-1区	ST02	土師器	皿	8.3	1.6	－	7.2	5/6	甘	密、φ0.5mmの白色粒少量含む	2.5Y7/1灰白	手づくね成形、器面摩滅、Ⅳ期
635	10-1区	ST02	瓦器	椀	(14.6)	(4.5)	－	－	口縁1/6	普通	密、φ2mm大の灰白色粒僅	N4/灰	内面に疎らにミガキ、内面口縁部に沈線、楠葉型Ⅲ－1期
636	10-1区	ST02	須恵器	椀	(15.8)	3.85	－	6.3	1/2	普通	やや粗い、φ1.5mm程の白色粒を多く含む	5PB6/1青灰	底部糸切り、口縁端部肥厚、生栖遺跡集積遺構と類似
637	10-1区	ST02	青磁	碗	15.2	6.8	－	4.85	1/1	良好	密、φ0.5～2mmの白色粒	5Y7/1灰白	同安窯系青磁碗、内面に花文と点描文、外面に櫛目文、太宰府分類Ⅰ－b類
638	10-1区	ST02	鉄製品	刀子	長(14.6)	厚1.95	幅(4.0)	－	2/3	－	－	－	刃部欠損、片関

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
639	10-1区	SD01	土師器	甕	(26.8)	(12.6)	(27.6)	–	口縁1/6	普通	粗い、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒多	5YR7/6橙	外面タテハケ後ナデ、内面ヨコハケ後ナデ
640	10-1区	SD4	土師器	杯	(14.0)	(3.0)	–	–	口縁1/8	甘	密、φ0.5～1mmの褐色、白色粒少量含む	10YR7/3にぶい黄橙	口縁端部摘み上げ、器面摩滅
641	10-1区	SK01	須恵器	椀	–	(1.1)	(7.5)	(6.4)	底部1/2	普通	密、φ～4mm大の白、黒色粒少量含む	N8/灰白	底部糸切り
642	10-1区	SK01	須恵器	椀	(13.6)	(2.9)	–	–	口縁1/8	甘	密、φ0.5～1mm大の白色灰色粒中量含む	2.5Y8/2灰白	器面摩滅
643	10-1区	SK02	須恵器	椀	–	(4.55)	(12.5)	(5.2)	底部1/2	普通	密、φ～8mm大の青、白、透明色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
644	10-1区	SK03	土師器	皿	8.5	1.6	8.9	7.5	9/10	普通	密、φ～1mm大の白、透明、灰色粒やや多く含む	2.5Y7/1灰白	手づくね成形、口縁端部丸くおさめる、内面見込みナデ後、口縁部ヨコナデ、Ⅳ期
645	10-1区	SK03	土師器	杯	(11.7)	(2.9)	–	–	口縁1/8	甘	密、φ0.5～1mmの白色、灰色、暗灰色粒中量含む	10YR5/2灰黄褐	器面摩滅
646	10-1区	SK03	須恵器	椀	(16.4)	(4.1)	–	–	口縁1/4	普通	密、φ～4mm大の白、黒色粒やや多く含む	5PB6/1青灰	内外面回転ナデ
647	10-1区	SK03	須恵器	椀	(14.45)	(3.85)	–	–	口縁1/5	普通	密、φ0.5～3mmの白色、灰色粒中量含む	N6/灰	内外面回転ナデ
648	10-1区	SK04	須恵器	椀	–	(1.9)	(10.5)	(7.2)	底部1/4	普通	密、φ～2mm大の白色粒少量含む	N6/灰	平高台脇ナデ後底部糸切り、内面凹み、相生窯分類椀C3
649	10-1区	SK04	須恵器	椀	–	(1.7)	(8.4)	(5.1)	底部1/2	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒少	N8/灰白	平高台脇ナデ後底部糸切り、相生窯分類椀C1
650	10-1区	SK04	須恵器	椀	–	(1.9)	(8.8)	(6.2)	底部1/4	良好	密、φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	N6/灰	平高台脇ナデ後底部糸切り、内面凹み
651	10-1区	SK04	須恵器	椀	(15.6)	(3.3)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ～2mm大の透明色粒やや多く含む	5Y8/1灰白	内外面回転ナデ、口縁部重焼痕、色調は白色を呈す
652	10-1区	SK04	須恵器	椀	(15.9)	6.25	–	(6.6)	1/3	普通	やや粗い、φ5mm程の白色粒を多く含む	N7/灰白	平高台脇ナデ後底部静止糸切り
653	10-1区	SD06	土師器	皿	(8.0)	1.1	–	(5.5)	1/4	甘	密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	10YR8/2灰白～7.5YR7/4にぶい橙	底部ヘラ切り、器面摩滅
654	10-1区	SD06	土師器	杯	(14.3)	3.2	–	(9.1)	1/4	普通	密、φ～1mm大の白、赤褐、透明色粒やや多く含む	5YR7/6橙	底部ヘラ切り、器面摩滅
655	10-1区	SD06	瓦器	椀	(14.7)	(4.1)	–	–	口縁1/4	普通	密、φ1mm以下の白色粒含む	N4/灰	内面疎らにミガキ、外面ミガキ観察できず、炭素吸着弱
656	10-1区	SD06	瓦器	椀	(15.0)	5.0	–	(5.6)	口縁1/6	普通	密、φ0.5mm大の灰色粒僅	N4/灰	高台断面三角形、内面見込み平行暗文、口縁部は器面摩滅のためミガキ観察できない、和泉型
657	10-1区	SD06	須恵器	杯	(8.7)	2.6	–	(4.8)	口縁1/4	普通	密、φ0.5～2mmの白色、灰色粒中量含む	5Y8/1灰白	底部糸切り、内面見込みナデ後、内外面回転ナデ
658	10-1区	SD06	須恵器	椀	15.95	5.75	–	6.3	3/4	甘	密、φ0.5～3mmの灰色、白色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、内面見込み凹み、口縁部重焼痕、器面摩滅、森田編年Ⅰ－2期
659	10-1区	SD06	須恵器	椀	(16.8)	(5.5)	–	(6.2)	口縁1/5	良好	密、φ0.5～3mmの白色、灰色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、内面見込み凹み、内外面回転ナデ
660	10-1区	SD06	須恵器	椀	(16.6)	5.7	–	(6.3)	1/6	普通	密、φ～5mm大の白、黒色粒少量含む	N6/灰	平高台痕跡程度、底部糸切り、見込み凹む、口縁部重焼痕、内外面回転ナデ、森田編年Ⅰ－2期
661	10-1区	SD06	須恵器	椀	(15.7)	5.1	–	(6.2)	1/2	普通	密、φ～1mm黒色粒微量含む	N8/灰白	底部糸切り、口縁部重焼痕、内外面回転ナデ、森田編年Ⅰ－2期
662	10-1区	SD06	須恵器	椀	(15.0)	5.6	–	5.3	1/2	普通	密、φ～3mmの白、黒色粒少量含む	N8/灰白	平高台痕跡程度、底部糸切り、見込みわずかに凹む、口縁部重焼痕、内外面回転ナデ、森田編年Ⅰ－2期
663	10-1区	SD06	須恵器	椀	(15.9)	6.0	–	6.3	1/2	普通	密、φ～4mm大の白、黒色粒少量含む	5Y8/1灰白	平高台痕跡程度、底部糸切り、見込みわずかに凹む、口縁部重焼痕、内外面回転ナデ、森田編年Ⅰ－2期
664	10-1区	SD06	須恵器	椀	–	(5.25)	–	–	口縁1/20	普通	密、φ～4mm大の白、黒、透明色粒微量含む	N8/灰白	内外面回転ナデ、口縁部重焼痕、色調は白色を呈す
665	10-1区	SD06	須恵器	鉢	(30.2)	11.05	(31.8)	(13.0)	口縁1/10	甘	やや粗い、φ0.1～0.5mmの乳白色粒多量に含む	N7/灰白～N6/灰	内外面ロクロ目顕著、回転ナデ、端部外反、口縁部分類A2－Ⅱ類
666	10-1区	SD06	須恵器	鉢	–	(4.55)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ1mmまでの白、灰色の砂粒含む	N6/灰	口縁端部外方へわずかに拡張、内外面回転ナデ、口縁部分類A2－Ⅱ類
667	10-1区	SD06	土師器	堝	–	(5.95)	–	–	口縁1/14	普通	やや粗い、φ～3mm大の赤褐、白、透明色粒やや多く含む	10YR6/2灰黄褐～3/2黒褐	口縁端面に凹み、内面ナデ
668	10-1区	SD06	土師器	甕	(26.0)	(3.7)	(26.8)	–	口縁1/8	普通	粗い、φ1～3mm大の乳白色、赤褐色粒中	10YR6/3にぶい黄橙	口縁端面沈線状の凹み、内面ナデ、外面:タテハケ後口縁部ヨコハケ後ナデ
669	10-1区	SD06	土師器	甕	(30.0)	(5.1)	(31.3)	–	口縁1/6	普通	粗い、φ～3mm大の赤褐、透明、灰色、雲母粒やや多く含む	10YR3/1黒褐～5/3にぶい黄褐	内外面ナデ、端部内面に面を持つ
670	10-1区	SP08	土師器	皿	9.5	2.0	–	6.2	1/1	普通	やや粗い、φ～3mm大の赤、透明、白、灰色粒やや多く含む	7.5YR8/4浅黄橙、2.5Y8/1灰白	底部糸切り、直線的に立ち上がり、口縁端部外反、Ⅲ期新段階
671	10-1区	SP08	土師器	皿	8.3	1.3	–	6.45	1/1	普通	やや粗い、φ～3mm大の透明、赤褐、白、灰色粒やや多く含む	5YR7/6橙	底部ヘラ切り、底部と口縁部の境やや不明瞭、Ⅲ期新段階
672	10-1区	SP08	土師器	皿	(8.2)	1.4	–	6.05	3/4	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒少	5YR7/6橙	底部ヘラ切り、直線的に立ち上がる、Ⅲ期新段階
673	10-1区	SP08	土師器	皿	8.45	1.45	–	6.45	1/1	普通	密、φ0.5～3mm大の白色、灰色、赤褐色粒多量に含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、底部と口縁部の境不明瞭、Ⅲ期新段階
674	10-1区	SP06	須恵器	椀	(15.9)	(4.8)	–	–	口縁1/5	普通	やや粗い、φ2mm以下の灰色粒白色粒を多く含む	N8/灰白	内外面回転ナデ、口縁外面重焼痕
675	10-1区	SP02	土師器	椀	–	(1.65)	(7.2)	(5.2)	底部1/4	普通	密、φ0.5～1mm大の白、赤、黒色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	底部糸切り、内面凹まない、器面摩滅、Ⅱ期新段階以降
676	10-1区	SP04	須恵器	椀	–	(1.55)	–	–	口縁1/13	普通	密、φ0.5～1mmの灰色粒少量含む	5Y7/1灰白	口縁端部外反
677	10-1区	SP05	土師器	皿	(8.8)	(1.25)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ～1mm赤、黒、透明色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	手づくね、口縁部・内面ナデ
678	10-1区	SP07	土師器	皿	(8.5)	(1.55)	–	(5.6)	1/3	普通	密、極微細な砂粒を含む	10YR8/2灰白	手づくね成形、口縁端部丸くおさまる、口縁外面、内面ナデ、Ⅳ期
679	10-1区	SP07	土師器	皿	(13.0)	2.15	–	(9.3)	口縁1/4	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒僅	2.5Y8/3淡黄	手づくね、口縁部・内面ナデ、Ⅳ期
680	10-1区	SP09	土師器	皿	(8.1)	(1.3)	–	(7.1)	口縁1/6	普通	密、φ1mmまでの褐、茶色の砂粒を含む	2.5Y8/2灰白	手づくね成形、口縁端部丸くおさまる、器面摩滅、Ⅳ期
681	10-1区	SP19	土師器	皿	(13.8)	(2.0)	–	(10.2)	口縁1/7	普通	密、φ～1mm大の黒、透明色粒微量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、底部と口縁部の境不明瞭、Ⅱ期
682	10-1区	SP19	土師器	杯	–	3.3	–	–	1/10	甘	密、φ0.5mm以下の白色、透明色粒少量含む	10YR7/2にぶい黄橙	底部調整不明、口縁外面に沈線、内外面ナデ、Ⅰ期
683	10-1区	SP19	土師器	杯	(11.0)	3.9	–	(5.8)	1/4	普通	密、φ～1mm大の黒、透明色粒微量含む	7.5YR7/3にぶい橙	底部調整不明、体部下半ケズリ、口縁端部摘み上げ、Ⅰ期
684	10-1区	SP19	土師器	杯	(13.8)	(2.9)	–	–	口縁1/4	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	7.5YR8/6浅黄橙	口縁端部外反、内外面ナデ
685	10-1区	SP32	土師器	杯	(14.7)	(2.55)	–	–	口縁1/8	甘	密、φ0.5～1mmの白色、褐色、灰色粒中量含む	2.5Y8/2灰白	直線的に延びる口縁、器面摩滅
686	10-1区	SP32	須恵器	皿	7.7	1.85	–	4.35	1/1	普通	やや粗い、φ1mm前後の白色粒を多く含む	N6/灰	底部付着物のため調整不明、糸切りか、相生窯分類小皿
687	10-1区	SP38	石製品	石鍋	長(3.5)	–	幅(6.9)	–	1/30	–	–	N5/灰	滑石製
688	10-1区	SP54	須恵器	椀	–	(1.25)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	5Y7/1灰白	内外面回転ナデ
689	10-1区	SP68	瓦器	椀	–	(1.0)	(5.8)	(4.1)	底部3/4	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	N4/灰	見込み平行暗文、高台断面三角形
690	10-1区	SP74	土師器	杯	(15.4)	(4.5)	–	(9.3)	口縁1/6	普通	密、φ～1mm大の赤褐、黒、透明色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部調整不明、口縁外面強い凹み、Ⅰ期か
691	10-1区	SP92	土師器	皿	8.2	1.3	–	6.4	1/1	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色、赤褐色粒少	5YR7/8橙	底部ヘラ切り、板状圧痕、底部と口縁部の境不明瞭、Ⅲ期
692	10-1区	SP92	須恵器	甕	–	(13.5)	–	–	1/50	普通	やや粗い、φ～3mm大の白、黒色粒少量含む	内面:5Y8/1灰白色、外面:N4/灰色	体部外面タタキ
693	10-1区	包含層	土師器	皿	(16.2)	1.4	–	(13.9)	1/6	甘	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	5YR7/6橙～5YR8/4淡橙	底部ヘラケズリ、口縁部外反、Ⅰ期
694	10-1区	包含層	土師器	皿	8.6	1.1	–	6.6	2/5	普通	密、φ1mm程の白色粒を多く含む	10R6/6赤橙	底部ヘラ切り、板状圧痕、口縁直線的に延びる、内外面ナデ
695	10-1区	包含層	土師器	皿	8.4	1.3	–	6.0	1/1	普通	密、φ～2mmの褐色、灰色の石含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、器面摩滅
696	10-1区	包含層	土師器	皿	7.7	1.5	–	5.85	2/3	甘	密、φ～1mmの白、黒、赤褐色粒やや多く含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、器面摩滅

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
697	10-1区	包含層	土師器	皿	(7.6)	(1.5)	–	(7.2)	1/3	普通	密、φ0.5mm以下の白色、赤褐色粒極少量含む	10YR8/2灰白	手づくね、内外面ナデ、口縁端部三角形状、Ⅳ期
698	10-1区	包含層	土師器	皿	(11.8)	(2.0)	–	(8.2)	口縁1/5	甘	密、φ0.5～1mmの白色、褐色粒少量含む	10YR8/2灰白	手づくね、器面摩滅、Ⅳ期
699	10-1区	包含層	土師器	皿	(10.0)	1.7	–	(7.2)	口縁1/7	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色、褐色粒僅	7.5YR8/3浅黄橙	手づくね、器面摩滅、Ⅳ期
700	10-1区	包含層	土師器	杯	(13.2)	2.8	–	(9.2)	1/6	普通	やや粗い、φ～3mm大の白、黒褐色、黒色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、内外面ナデ
701	10-1区	包含層	須恵器	皿	(8.2)	2.2	–	(4.4)	1/4	普通	密、0.1～0.5mmの微砂粒少	N8/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、口縁部重焼痕、相生窯分類小皿
702	10-1区	包含層	須恵器	皿	(8.8)	2.1	–	(5.3)	1/7	普通	やや粗い、φ1mmの白色粒、黒色粒を多く含む	5PB6/1青灰	底部糸切り、内湾して立ち上がる、相生窯分類小皿
703	10-1区	包含層	須恵器	皿	8.9	2.85	–	4.4	1/1	普通	やや粗い、φ2mm以下の白色粒を多く含む	5PB6/1青灰	底部糸切り、内湾して立ち上がる、相生窯分類小皿
704	10-1区	包含層	瓦器	皿	(9.0)	(2.95)	–	(3.2)	口縁1/5	甘	精良	N4/灰	内面ミガキ
705	10-1区	包含層	瓦器	椀	–	(2.9)	–	–	口縁1/9	普通	密、φ～1mm以下黒色粒まれに含む	N5/灰	内面ミガキ
706	10-1区	包含層	瓦器	椀	–	(3.55)	–	–	口縁1/20	普通	やや密	N8/灰白～6/灰	内面ミガキ疎ら
707	10-1区	包含層	瓦器	椀	(14.2)	(4.3)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ1mm以下の白色粒を多く含む	N4/灰	器面摩滅
708	10-1区	包含層	瓦器	椀	–	(1.65)	(9.9)	(6.3)	底部1/4	普通	密、φ2mm程の白色粒を多く含む	N7/灰白	内面ミガキ、高台断面三角形
709	10-1区	包含層	瓦器	椀	–	(1.6)	(10.9)	(6.0)	底部1/4	不良	密、φ0.5mmの白色粒極少量含む	N5/灰	高台貼り付け、断面形状台形、内面見込み平行暗文
710	10-1区	包含層	須恵器	蓋	摘径3.4	(1.9)	(10.4)	–	摘部1/1	普通	やや粗い、φ2mm以下の白色粒を多く含む	N8/灰白	摘部のみ残存、内外面ナデ
711	10-1区	包含層	須恵器	杯蓋	–	(3.1)	(13.9)	–	1/4	普通	密、φ～0.4mm前後の白色粒混入	N7/灰白	杯蓋部分、回転ヘラケズリ
712	10-1区	包含層	須恵器	蓋	(14.4)	(1.9)	–	–	天井部1/8	普通	密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	N7/灰白～6/灰	ヘラ切り、口縁部屈曲、端部下方へ拡張
713	10-1区	包含層	須恵器	蓋	(18.7)	(1.5)	–	–	口縁1/5	普通	密、φ～1mm大の白色粒微量含む	N7/灰	口縁部屈曲、端部釉付着、内外面回転ナデ
714	10-1区	包含層	土師器	杯	(13.95)	3.5	–	(10.35)	1/7	普通	密、φ0.5～1mmの白色粒極少量含む	5YR6/6橙	底部指圧痕、口縁は直線的に延びる
715	10-1区	包含層	須恵器	杯	(13.7)	(3.05)	–	(10.2)	口縁1/8	良好	密、φ0.4cm前後の白色粒混入	N7/灰白	底部調整不明、内外面回転ナデ
716	10-1区	包含層	須恵器	椀	(15.0)	(4.05)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ1～3mm大の灰白色、乳白色粒僅	N7/灰白	内湾し立ち上がり、口縁部外反、内外面回転ナデ
717	10-1区	包含層	須恵器	椀	(15.6)	(4.6)	–	–	口縁1/6	良好	密、φ0.5～4mmの暗灰色、褐色、白色粒少量含む	2.5Y7/1灰白	内外面回転ナデ、口縁部重焼痕
718	10-1区	包含層	須恵器	杯	(14.3)	(5.45)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ0.5mm大の灰白色粒僅	N6/灰	口縁直線的に延びる、内外面回転ナデ
719	10-1区	包含層	須恵器	椀	(15.8)	(5.65)	–	(6.6)	口縁1/6	普通	密、φ～1mm大の黒色粒まれに含む	N9/白	内外面回転ナデ、
720	10-1区	包含層	須恵器	椀	–	(1.5)	(8.5)	(6.0)	底部1/2	普通	やや密、φ0.1～1mmの乳白色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内面凹み、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
721	10-1区	包含層	須恵器	椀	–	(1.7)	(8.3)	(6.65)	底部2/5	良好	密、φ0.5～1mmの白色粒少量含む	N6/灰	底部糸切り、高台脇ナデ、内面凹み、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
722	10-1区	包含層	須恵器	椀	–	(1.85)	(8.9)	(5.4)	底部1/2	良好	密、φ0.5～4mmの白色粒中量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
723	10-1区	包含層	須恵器	椀	–	(3.4)	(13.3)	(5.45)	底部1/3	良好	密、φ0.5～3mmの白色、灰色粒中量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、森田編年Ⅰ-2期
724	10-1区	包含層	須恵器	壺	–	(2.5)	(9.9)	6.5	底部1/1	普通	やや粗い、φ0.1～3mmの乳白色粒、φ4mm微量含む	N7/灰白	底部ヘラ切りか、輪高台貼り付け後ナデ、内面回転ナデ
725	10-1区	包含層	白磁	碗	–	(3.0)	–	–	口縁1/8	普通	精良	2.5Y8/2灰白	白磁碗、太宰府分類Ⅳ類
726	10-1区	包含層	白磁	碗	–	(5.2)	–	–	口縁1/10	良好	精良	7.5Y8/1灰白	白磁碗、太宰府分類Ⅳ類
727	10-1区	包含層	白磁	碗	(14.8)	(4.2)	–	–	口縁1/5	普通	精良	施釉部10Y7/1灰白	直線的に延びる口縁、口縁下に沈線1条、太宰府分類Ⅴ-1類
728	10-1区	包含層	青白磁	合子	(7.8)	(1.6)	–	–	口縁1/5	良好	精良	釉10GY8/1～7/1明緑灰	青白磁合子蓋
729	10-1区	包含層	須恵器	壺	(21.0)	(7.5)	(21.7)	–	口縁1/5	普通	やや粗い、φ0.1～1mmの乳白色粒中量含む	N3/暗灰～5R2/1赤褐	口縁端部上方へ拡張、内外面回転ナデ
730	10-1区	包含層	須恵器	風字硯	長(9.3)	厚(1.75)	幅(6.0)	–	1/4	普通	密、φ0.5～2mmの灰色白色粒極少量含む	N5/灰	有堤式風字硯、硯面は使用のため摩滅、硯頭のみ残存、脚の有無は不明、堤部はヘラケズリ
731	10-1区	包含層	土師器	竈	–	(13.45)	–	–	–	普通	粗い、φ0.5～1mm大の灰白色乳白色粒多、雲母微量	7.5YR4/2灰褐	庇部貼り付け後ナデ、内面ハケ
732	10-1区	包含層	土師器	羽釜	–	(6.4)	–	–	口縁1/10	普通	粗い、φ～6mm大の赤乳白、乳白、白、黒、透明色粒含む	7.5YR7/4にぶい橙	頸端部上方へ拡張、口縁端部外方へわずかに拡張、短頸羽釜
733	10-1区	包含層	土師器	甕	–	(7.7)	–	–	口縁1/8	普通	粗い、φ～5mm大の白、雲母、黒、灰、赤褐色粒やや多く含む	7.5YR6/4にぶい橙	内外面板ナデ
734	11区	SP102	土師器	皿	8.0	1.3	–	5.5	2/3	甘	密、φ0.5mm大の乳白色粒、灰色粒少量含む	10YR8/2灰白	手づくね、器面摩滅、Ⅳ期
735	11区	SP102	土師器	皿	(8.0)	1.4	–	(5.7)	1/2	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色、赤橙色、乳白色粒僅	2.5Y8/2灰白	手づくね、口縁端部シャープ、内外面ナデ、Ⅳ期
736	11区	SP102	土師器	皿	(7.4)	1.35	–	(6.0)	1/3	良好	密、φ～1mmの褐、白色粒含む	10YR7/3にぶい黄橙～2.5YR7/4浅赤橙	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期
737	10-1区	SP14	須恵器	椀	–	(3.8)	–	–	口径1/10	普通	密、φ～3mm大の白色粒少量含む	7.5Y5/1灰	内外面回転ナデ
738	10-1区	SP14	須恵器	椀	–	(1.45)	(8.3)	(6.0)	底部1/5	普通	密、φ0.5mmの白色粒少量含む	N7/灰白	平高台脇ナデ後底部回転糸切り
739	11区	SP77	瓦器	皿	(8.0)	(1.65)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒僅	N6/灰	内外面ナデ、ミガキ観察できない
740	11区	SP67堀方	土師器	皿	(9.4)	1.15	–	(7.0)	1/5	甘	密、φ0.5～1mmの白色粒白色、赤色粒極少量含	2.5Y8/2灰白、10YR7/3にぶい黄橙	底部ヘラ切り、口縁部外反、Ⅳ期
741	11区	SP79	土師器	皿	(8.7)	1.2	–	(7.0)	1/4	甘	密、φ0.5～1mmの白色褐色粒少量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、内外面ナデ、Ⅳ期
742	11区	SP60	須恵器	鉢	–	(4.95)	(20.0)	(9.0)	底部1/2	良好	やや粗い、φ0.5～6mmの白色、灰色、小石粒中量含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ
743	11区	SP113堀方	瓦器	椀	(15.3)	(5.25)	–	(4.6)	1/2	普通	精良	N4/灰～5Y8/1灰白	見込み平行暗文、内外面ミガキ、高台断面三角形、和泉型Ⅱ－3期か
744	11区	SP75	白磁	碗	–	(3.0)	(12.8)	(7.6)	底部1/4	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒微量含む	施釉部7.5Y8/1灰白	白磁碗、大宰府Ⅳ－1類
745	11区	SP75	石器	砥石	長10.95	厚3.25	幅6.55	–	–	–	–	5Y8/1灰白	4面使用、凝岩灰製
746	11区	SP18	土師器	皿	(9.0)	1.7	–	(6.8)	口縁1/7	普通	密、φ0.5mm大の赤橙色粒少	7.5YR8/6浅黄橙	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期
747	11区	SP26	土師器	皿	(7.9)	(1.35)	–	(5.0)	口縁1/4	普通	密、φ～2mm大の白、赤褐、黒色粒微量含む	10YR8/3浅黄橙	手づくね、口縁端部シャープ、内外面ナデ、Ⅳ期
748	11区	SP26堀方	須恵器	甕	–	(2.75)	–	–	口縁1/20	甘	密、φ～1mmの白、黒、透明色粒少量含む	2.5Y8/2灰白より白い	器面摩滅
749	11区	SP37	土師器	杯	(14.2)	3.1	–	(8.4)	口縁1/3	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒中	10YR8/3浅黄橙	底部調整不明、内外面ナデ
750	11区	SP37	須恵器	椀	–	(3.3)	–	(4.8)	底部1/6	普通	密、φ～3mm大の灰、白、赤色粒少量含む	5Y8/1灰白	底部糸切りか、相生窯分類椀C3
751	11区	SP41	土師器	杯	(12.6)	3.4	–	(7.2)	1/3	普通	密、φ～5mm大の黒、白、透明色粒少量含む	5Y7/6橙	底部調整不明、器面摩滅、体部凹凸顕著
752	11区	SP41堀方	土師器	杯	–	(2.95)	–	–	口縁1/10	甘	密、φ0.5～3mmの白色、灰色、透白色粒中量含む	10YR5/2灰黄褐	器面摩滅
753	11区	SP41	須恵器	椀	–	(2.7)	–	–	口縁1/16	普通	密、φ～3mm大の白、黒色粒微量含む	N8/灰白	内外面ナデ
754	11区	ST01棺内	土師器	托皿	8.65	3.1	–	5.05	1/1	普通	密、φ～0.5mmの透明、灰白色粒微量含む	5YR8/4淡橙～5YR7/6橙	底部ヘラ切り、内外面ナデ、Ⅲ期

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
755	11区	ST01棺内	土師器	皿	(8.0)	2.0	–	(5.4)	1/2	普通	密、φ～2mm大の赤、透明、黒色粒微量含む	10YR8/2灰白～8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、口縁内湾、内外面ナデ、Ⅲ期新段階
756	11区	ST01棺内	白磁	碗	16.05	6.5	–	6.5	全体1/1	普通	精良	7.5YR8/1～7/1灰白	白磁碗、大宰府編年Ⅳ-1-a類
757	11区	ST01棺内	ガラス	玉	直径0.8	厚さ0.6	–	孔径0.4	1/1	–	–	5Y8/2灰白	風化著く白色化、表面に気泡抜け痕
758	11区	ST01 棺	鉄製品	釘	長(8.25)	厚0.6	幅0.9	–	1/1	–	–	–	折釘、木質遺存
759	11区	ST01 棺	鉄製品	釘	長(8.0)	厚0.6	幅0.85	–	9/10	–	–	–	折釘、先端部欠損、木質遺存
760	11区	ST01 棺外	土師器	皿	8.1	1.4	–	5.7	1/1	普通	密、φ1mm前後の白色粒混入	10YR8/1灰白～2.5YR6/6橙	底部ヘラ切り、板状圧痕、内外面ナデ
761	11区	ST01 棺外	土師器	皿	8.1	1.4	–	6.1	1/1	普通	密、φ1mm前後の白色粒を含む	5Y8/1灰白～2.5YR7/4淡赤橙	底部ヘラ切り、板状圧痕、内外面ナデ、端部外方へわずかに摘み出し
762	11区	ST01 棺外	土師器	皿	8.0	1.6	–	6.15	1/1	普通	密、φ～1mm大の白、赤色粒微量含む	10YR8/2灰白～8/3浅黄橙	底部ヘラ切り、板状圧痕、内外面ナデ
763	11区	ST01 棺外	土師器	皿	8.05	1.95	–	5.9	1/1	普通	密、φ1mm前後の白色粒混入	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、板状圧痕、内外面ナデ、Ⅲ期新段階
764	11区	ST01 棺外	土師器	皿	8.55	1.7	–	5.1	6/7	良好	密、φ～2mm大の赤、透明、黒色粒微量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、底部境丸み、口縁内湾、内外面ナデ、Ⅲ期新段階
765	11区	ST01 棺外	土師器	杯	13.75	3.65	–	9.05	1/1	良好	密、φ～2mm大の赤、透明、黒色粒微量含む	10YR8/2灰白	底部ヘラ切り、立ち上がりやや内湾し直線的に延びる、内外面ナデ
766	11区	ST01 棺外	須恵器	甕	–	(21.3)	–	–	1/30	普通	密、φ～5mm大の白、黒色粒少量含む	N6/灰	外面格子タタキ、内面同心円状の当具痕
767	11区	SD02	土師器	蓋	摘部径3.0	(2.4)	(12.4)	–	摘部1/1	普通	密、φ0.5mm以下の雲母多量に含む	5YR7/4にぶい橙～5YR5/3にぶい赤褐	摘部ナデ、器面摩滅
768	11区	SK02	須恵器	椀	–	(2.9)	–	–	口縁1/8	普通	やや密、φ1mm以下の乳白色まれに少量含む	N6/灰～N7/灰白	内外面回転ナデ
769	11区	SK11	青磁	碗	–	(2.6)	(11.0)	5.6	底部1/1	良好	精良	7.5Y6/3オリーブ黄	龍泉窯系青磁碗、内面に片彫文、櫛目文、大宰府分類Ⅰ類
770	11区	SK03	須恵器	椀	(17.5)	(4.0)	–	–	口縁1/8	良好	密、φ～1mm未満白、灰少	N7/灰白	内外面回転ナデ
771	11区	SK03	白磁	碗	–	(3.8)	(14.8)	(15.5)	口縁1/8	普通	精良	施釉部7.5Y6/2灰オリーブ	白磁碗、大宰府分類Ⅳ類
772	11区	SK03	土師器	甕	(31.8)	(4.0)	(32.5)	–	口縁1/8	普通	粗い、φ0.1～1mm以下の多量に含む、雲母?含む	10YR7/3にぶい黄橙～10YR6/2灰黄褐	内面:口縁部ヨコハケ(5本/cm)、体部ナナメハケ、外面:ナデ
773	11区	SX01	土師器	皿	(10.4)	1.9	–	(7.0)	口縁1/8	普通	密、φ～1mm以下の黒褐色の砂粒混じる	7.5YR7/4にぶい橙	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期
774	11区	SX01	土師器	皿	(9.0)	(2.0)	–	–	口縁1/5	甘	密、φ0.5～1mm以下の白色、褐色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期
775	11区	SX01	土師器	皿	(8.2)	(1.45)	–	(6.8)	1/4	普通	密、φ0.5mm以下の白色灰色粒少量含む	10YR7/2にぶい黄橙	器面摩滅、Ⅳ期
776	11区	SX01	土師器	皿	(12.8)	(2.5)	–	(8.0)	1/3	普通	密、φ0.5mm以下の白色灰色粒少量含む	7.5YR6/2灰褐	手づくね、器面摩滅、Ⅳ期
777	11区	SX01	土師器	皿	(14.0)	(2.7)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒僅	5YR7/4にぶい橙	手づくね、器面摩滅、Ⅳ期
778	11区	SX01	土師器	皿	(14.0)	(2.5)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ0.5mm大の乳白色、赤褐色粒僅	10YR8/3浅黄橙	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期
779	11区	SX01	土師器	皿	(13.8)	(2.7)	–	–	口縁1/7	普通	密、φ～4mm大の赤褐色、白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期
780	11区	SX01	土師器	杯	(13.0)	(3.8)	–	–	口縁1/4	普通	密、φ0.5から1mm大の赤橙色粒少	2.5Y8/2灰白	器面摩滅、内湾気味に立ち上がる
781	11区	SX01	土師器	椀	–	(2.35)	–	(8.1)	底部1/2	普通	密、φ～8mm大の乳白色、黄褐色粒やや多く含む	7.5YR7/4にぶい橙	底部調整不明、岸本分類椀C1
782	11区	SX01	土師器	椀	–	(1.3)	–	5.0	底部1/1	甘	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒少量含む	10YR8/2～2.5Y8/2灰白	底部調整不明、紐状輪高台貼り付け、吉備系土師器椀か
783	11区	SX01	白磁	碗	(14.7)	(4.85)	–	–	口縁1/5	普通	精良	施釉部7.5Y7/1灰白	白磁碗、大宰府分類Ⅳ類
784	11区	SX01	白磁	碗	(14.8)	(3.95)	–	–	口縁1/4	良好	精良	施釉部7.5Y7/2灰白	白磁碗口縁部、大宰府分類Ⅳ類
785	11区	SX01	白磁	碗	–	(3.05)	–	–	口径の1/9	良好	精良	7.5Y7/1灰白	口縁玉縁部、大宰府分類Ⅳ類
786	11区	SX01	白磁	碗	–	(3.4)	–	–	口縁1/20	良好	精良	7.5Y8/1～7/1灰白	白磁碗、大宰府分類Ⅳ類
787	11区	SX01	白磁	碗	–	(2.5)	–	–	口縁1/8	良好	密、φ～1mmの褐色粒まれに含む	5Y8/2灰白	白磁碗、大宰府分類Ⅳ類
788	11区	SX01	白磁	碗	–	(3.1)	(11.6)	(7.8)	底部1/4	良好	精良	2.5Y7/2灰黄	白磁碗底部、大宰府分類Ⅳ類
789	11区	SX01	白磁	碗	–	(2.9)	(11.2)	(7.2)	底部1/3	良好	精良	施釉部5Y7/2灰白	白磁碗、大宰府分類Ⅳ類
790	11区	SX01	青磁	碗	–	(2.6)	(9.4)	5.3	底部1/1	良好	密、φ0.1～0.5mm大の乳白色粒少量含む	10YR7/2灰白	同安窯系青磁碗、外面に粗い櫛目文、大宰府分類Ⅲ類
791	11区	SX01	瓦器	椀	–	(4.1)	–	–	口縁1/15	普通	密、φ～3mm大の白、赤褐色粒少量含む	5Y8/1灰白	器面摩滅
792	11区	SX01	瓦器	皿	–	(1.8)	–	–	口縁1/15	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒僅	N2/黒	器面摩滅
793	11区	SX01	瓦器	椀	–	(0.6)	(6.8)	(5.4)	底部1/4	甘	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白、灰色粒少量含む	2.5Y8/2灰白～10YR7/4にぶい黄橙	高台断面台形、器面剝落
794	11区	SX01	黒色土器	椀	–	(0.9)	(5.5)	4.7	底部1/1	普通	密、φ～3mmの白、透明色粒少量含む	内面:N3/暗灰、外面:10YR6/2灰黄褐	底部糸切り、内面黒色、ミガキ顕著、梶原・番丁田遺跡に類例あり。
795	11区	SX01	土師器	竈か	(31.8)	(15.2)	(33.0)	–	口縁1/7	甘	粗い、φ0.1～1mm大の乳白色、赤褐色、灰色粒多量に含む	7.5YR4/2灰褐～7.5YR6/4にぶい橙	内面ヨコハケ、外面タテハケ
796	11区	SX01	土師器	甕	–	(4.2)	–	–	口縁1/10	普通	粗い、φ0.1～1mm大の乳白色、橙色の粒多量に含む	2.5YR6/6橙～10YR4/2灰黄褐	口縁部内面ヨコハケ、外面摩滅
797	11区	SX01	土師器	堝	–	(5.3)	–	–	口縁1/20	甘	やや粗い、φ0.5～1mmの白色、褐色、灰褐色粒少量含む	10YR6/3にぶい黄橙	内面ヨコハケ、外面タテハケ、口縁部逆L字状に屈曲
798	11区	SX01	瓦質土器	羽釜	–	(4.4)	–	–	口縁1/10	普通	やや粗い、φ0.5～2mmの灰色、白色粒多量に含む	N4/灰、2.5Y7/1灰白	内外面ナデ
799	11区	SX01	瓦質土器	羽釜	–	(3.4)	–	–	口縁1/20	普通	やや粗い、φ～4mm大の白色粒多く含む	N8/灰白とN5/灰	口縁端部内側にわずかに拡張、器面摩滅
800	11区	SX01	土師器	甕	–	(3.75)	–	–	口縁1/10	普通	粗い、φ～1mm大の白、赤褐、透明色粒やや多く含む	10YR6/3にぶい黄橙	口縁部内面ヨコハケ後ナナメハケ、外面ナデ
801	11区	SX01	土師器	甕	(35.0)	(6.95)	(36.0)	–	口縁1/7	甘	粗い、φ0.5～3mm大の白色、灰色、雲母、透明粒含む	10YR5/2灰黄褐	内外面ナデ
802	11区	SX01	土師器	堝	–	(8.05)	–	–	脚部1/3	普通	やや粗い、φ0.5～1mm大の赤橙色、乳白色粒中	10YR8/4浅黄橙	三足脚部、外面タテハケ
803	11区	SX01	瓦質土器	羽釜	(9.2)	(8.95)	–	–	脚部1/2	甘	やや粗い、φ0.1～0.5mmの乳白色粒含む	N4/灰～N3/暗灰	三足堝脚部、器面摩滅
804	11区	SX01	土師器	堝	–	(15.15)	–	–	脚部2/3	普通	やや粗い、φ0.5～1mm大の乳白色、浅黄色粒中	10YR7/2にぶい黄橙	三足脚部、外面ハケ
805	11区	SX01	土師器	堝	–	(11.0)	3.25	–	脚部1/2	普通	粗い、1～2mm大の灰白色、乳白色粒多	10YR5/3にぶい黄橙	脚部、器面摩滅
806	11区	SX01	須恵器	椀	(16.0)	4.6	–	6.3	1/4	普通	やや粗い、φ0.1～2mmの乳白色、灰色粒含む	N8/～N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、外面墨書、森田編年Ⅱ-2期
807	11区	SX01	須恵器	椀	15.8	4.9	–	5.6	7/8	普通	密、φ～3mmの白、黒、褐色の石を含む	2.5Y7/1灰白	底部糸切り、外面一部に焼成前線刻、森田編年Ⅱ-2期
808	11区	SX01	須恵器	椀	–	(2.4)	(9.9)	(6.6)	底部1/4	普通	密、φ0.5～2mmの白色粒、褐色、透明粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、見込み凹み、相生窯分類椀C3
809	11区	SX01	須恵器	椀	–	(1.8)	(9.2)	(6.1)	底部1/2	普通	やや粗い、φ～3mm大の白、黒色粒含む	N7/灰白	底部糸切り、内面凹み無し、相生窯分類椀C1
810	11区	SX01	須恵器	鉢	(28.1)	(7.8)	(30.0)	–	口縁1/8	普通	密、φ1～5mm大の乳白色、灰白色粒少	N5/灰	片口部、口縁部断面三角形
811	11区	SX01	須恵器	鉢	–	(4.65)	–	–	口縁1/20	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色、乳白色粒少	N7/灰白	端部拡張無、内外面ナデ
812	11区	SX01	須恵器	鉢	–	(3.0)	(17.05)	(11.9)	底部1/3	良好	密、φ0.5～4mmの白色、褐色、灰色粒多量に含む	N6/灰	底部調整不明、器面摩滅

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
813	11区	SX01	須恵器	甕	(34.4)	(8.05)	(36.4)	–	口縁1/3	普通	やや粗い、φ0.5～4mm大の白色、赤褐色、灰色粒少量含む	N5/灰	胴部外面平行タタキ、口縁内面段
814	11区	SX01	須恵器	甕	–	(4.6)	–	–	口縁1/20	普通	やや密、φ0.1～0.5mmの乳白色粒含む	N7/灰白	外面タタキ、口縁端部上方へわずかに拡張
815	11区	SX01	須恵器	甕	–	(6.6)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ0.5～1mm大の乳白色、灰色粒少	N4/灰	口縁端部上下にわずかに拡張、断面菱形、内外面回転ナデ
816	11区	SX01	須恵器	甕	(32.0)	(5.75)	(34.5)	–	口縁1/6	普通	密、φ0.5～2mm大の灰色、乳白色粒中	N8/灰白～6/灰	外面横方向の平行タタキ、部分的に短いタテ方向のタタキ、口縁端部下方へわずかに拡張
817	11区	SX01	瓦	平瓦	長(7.75)	厚2.3	幅(7.6)	–	1/20	甘	やや粗い、φ0.5～3mm大の白色、灰色粒中量含む	表2.5Y7/2灰黄	凸面縄目タタキ後粗いハケ、凹面布目、粗いハケ、298・43と同じ
818	11区	SX01	瓦	平瓦	残存長10.5	厚2.0	残存幅10.55	–	1/30	普通	やや粗い、φ～5mm大の赤褐、白、黒色粒やや多く含む	下部2.5Y8/2灰白	凸面縄目タタキ、砂付着、凹面布目
819	11区	SX01	瓦	平瓦	長12.95	厚1.8	幅9.8	–	1/20	甘	やや粗い、φ0.5から3mmの白色、灰色、赤褐色粒中量含む	10YR7/4にぶい黄橙	凸面平行タタキ、凹面布目(縦横5本/cm)
820	11区	SX01	瓦	軒平瓦	長(5.85)	–	幅(7.35)	–	瓦当部/5	普通	やや粗い、φ0.5～2mmの白色粒中量含む	N4/灰	均整唐草文、包み込み技法、本町遺跡BR9と同文
821	11区	SX01	瓦	平瓦	長9.65	厚1.95	幅10.8	–	1/20	甘	やや粗い、φ0.5～1mmの白色、赤褐色粒中量含む	表:7.5YR7/4にぶい橙	凸面平行タタキ後粗いハケ、凹面布目、粗いハケ
822	11区	SX01	瓦	丸瓦	長14.2	厚5.4	幅13.9	–	1/15	普通	やや粗い、φ～4mm大の白、茶、黒色粒矢や多く含む	10YR7/3にぶい黄橙	全体的に摩滅、凹面布目、玉縁部に糸切り痕
823	11区	SP56	土師器	皿	(10.9)	2.5	–	(7.9)	1/3	甘	密、φ0.5～1mm灰色、白色、褐色粒中量含む	10YR7/2にぶい黄褐	底部ヘラ切り、器面摩滅、底部境不明瞭、Ⅱ期
824	11区	SP56	土師器	杯	(11.7)	(1.95)	–	–	口縁1/8	甘	密、φ0.5～1mmの褐色灰色粒中量含む	2.5Y8/2灰白	器面摩滅
825	11区	SP56	土師器	杯	(13.8)	(2.3)	–	–	口縁1/5	良好	密、φ～1mm白色粒少量	5YR8/4淡黄	内外面ナデ、直線的に延びる口縁
826	11区	SP56	土師器	椀	–	(3.5)	(11.4)	(6.2)	底部1/2	普通	密、φ～3mm大の赤褐、灰色粒やや多く含む	10YR8/2灰白と7.5YR8/3浅黄橙	底部糸切り、器面摩滅
827	11区	SP56	須恵器	椀	14.0	5.15	–	7.0	2/3	甘	密、φ1～2mm白、茶、灰少量含む	N8/灰白、7.5YR5/1褐灰	底部ヘラ切りか、器面摩滅、相生窯分類椀B
828	11区	SP56	須恵器	椀	(13.6)	(3.5)	–	–	口縁1/5	普通	密、φ～2mm大の白、灰色粒やや多く含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、立ち上がり内湾し、口縁端部外反
829	11区	SP56	須恵器	椀	(14.7)	(3.3)	–	–	口縁1/8	良好	密、φ0.5～1mmの白色粒少量含む	N6/灰	内外面ナデ、器壁薄作り(最薄2.3mm)
830	11区	SP56	須恵器	椀	–	(4.4)	(14.2)	(6.65)	底部1/3	良好	密、φ0.5～2mmの白色、灰色粒中量含む	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
831	11区	SP56	須恵器	椀	–	(3.9)	(13.8)	(6.2)	底部1/3	良好	密、φ～1mm白少、φ1mm黒極少	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、器壁薄作り
832	11区	SP56	須恵器	片口	–	(1.45)	(5.5)	–	口縁1/10	良好	密、φ0.5mmの灰色粒極少量含む	N6/灰	小型の鉢あるいは椀の片口部
833	11区	SP68	土師器	皿	(12.6)	(2.85)	–	(8.5)	口縁1/4	普通	密、φ～2mm大の赤、黒色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	手づくね成形、内外面ナデ
834	11区	SP68堀方	須恵器	椀	(12.0)	(3.75)	–	–	口縁1/7	普通	密、φ～1mm大の白、灰色粒少量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、口縁端部わずかに外反
835	11区	SP68堀方	須恵器	椀	16.7	5.0	–	6.5	1/1	良好	密、φ0.5～5mm大の灰色、白色小石粒多量に含む	N6/灰	底部糸切り、内外面回転ナデ、見込みわずかに凹む、口縁部重焼痕、森田編年Ⅱ-2期
836	11区	SP72	瓦質土器	羽釜	(22.2)	(9.15)	(27.4)	–	口縁1/5	普通	やや粗い、φ～4mm大の白、灰、透明色粒矢や多く含む	N5/灰	三足鍋脚部剥離、口縁端部内側へ拡張
837	11区	SP80	土師器	托皿	–	(1.95)	(5.05)	(5.0)	底部1/1	普通	φ～3mm大の白、赤、黒、ピカピカ色少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部ヘラ切り、外面底部凹む、Ⅲ期新段階
838	11区	SP80	須恵器	壺	–	(16.4)	(27.1)	–	肩部1/3	良好	密、φ0.5～4mmの白色灰色粒少量含む	N6/灰	肩部突帯2条貼り付け、内外面回転ナデ、相生窯分類壺B
839	11区	SP88	須恵器	鉢	–	(5.0)	(19.0)	(11.3)	底部1/1	普通	密、φ0.5～7mm大の乳白色、灰色粒僅	N8/灰白	器面摩滅
840	11区	SP02	土師器	埚	–	(10.3)	3.05	–	–	普通	粗い、φ～4mm大の白、赤褐、透明色粒やや多く含む	10YR8/3浅黄橙	脚部、器面摩滅
841	11区	SP14堀方	須恵器	椀	(15.8)	4.2	–	(6.8)	1/3	普通	密、φ1～2mm白、φ3～4mmの白、茶、黒	5Y7/1灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ、森田編年Ⅱ-2期
842	11区	SP22	須恵器	椀	–	(1.8)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ～1mm以下の黒色粒まれに含む	N8/灰白	内外面ナデ
843	11区	SP33	土師器	皿	(8.0)	(1.5)	–	–	口縁1/4	普通	密、φ1mm大の灰色粒僅	7.5YR8/4浅黄橙	手づくね、口縁端部シャープ、内外面ナデ、Ⅳ期
844	11区	SP33	土師器	皿	(8.0)	1.7	–	(4.9)	口縁1/6	普通	密、φ0.5～1mm大の灰色粒僅	7.5YR7/6橙	手づくね、器面摩滅、Ⅳ期
845	11区	SP33	土師器	皿	–	1.9	–	–	口縁1/12	普通	密、φ～1mm大の白、黒、赤褐、透明色粒少量含む	7.5YR7/3にぶい黄橙	手づくね、口縁端部シャープ、器面摩滅、Ⅳ期
846	11区	SP47	土師器	皿	(8.9)	(1.45)	–	(7.4)	口縁1/5	普通	密、φ～1mm大の白色粒少量含む	2.5Y8/2灰白	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期
847	11区	SP47	土師器	皿	(7.5)	1.4	–	(6.0)	口縁1/4	普通	密、φ～1mm大白灰色粒少量含む	10YR8/2灰白	手づくね、内外面ナデ
848	11区	SP47	土師器	皿	(7.8)	(1.4)	–	(6.8)	1/4	良好	密、φ～1mm未満、白、茶微少	2.5Y8/2灰白	手づくね、内外面ナデ
849	11区	SP47	土師器	皿	(7.2)	0.85	–	(6.1)	1/6	普通	密、φ0.5mm以下の褐色粒極少量含む	10YR7/2にぶい黄橙	手づくね、内外面ナデ、口縁端部シャープ
850	11区	SP47	土師器	皿	(7.2)	1.0	–	(6.0)	口縁1/4	甘	やや密、φ0.1mm大の乳白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	手づくね、内外面ナデ、口縁端部シャープ
851	11区	SP47	土師器	皿	(8.3)	1.5	–	(7.1)	1/4	甘	密、φ0.5mm以下の白色、褐色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	手づくね、内外面ナデ
852	11区	SP47	土師器	皿	7.65	1.6	–	6.75	1/1	良好	密、φ～1mm白、灰色粒微量	2.5YR8/2灰白	手づくね、内外面ナデ
853	11区	SP47	土師器	皿	7.6	1.55	–	6.8	1/1	良好	密、φ～1mm白、灰色粒微量	10YR8/2灰白	手づくね、内外面ナデ
854	11区	SP47	土師器	皿	7.7	1.55	–	6.25	3/4	普通	密、φ0.5～1mm以下の灰色、白色粒少量含む	10YR8/3浅黄橙	手づくね、内外面ナデ、Ⅳ期新段階
855	11区	SP48	須恵器	椀	–	(3.0)	–	–	口縁1/10	良好	密、φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	N7/灰白	内外面ナデ
856	11区	SP54	須恵器	椀	–	(2.65)	–	–	口縁1/15	良好	密、φ0.5～3mmの白色、灰色粒中量含む	N7/灰白	内外面ナデ
857	11区	SP87	須恵器	椀	–	(1.15)	(9.2)	(6.3)	底部1/4	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒矢や多く含む	N7/灰白	底部糸切り、見込み凹み
858	11区	SP92	須恵器	椀	(15.6)	(3.4)	–	–	口縁1/8	普通	密、φ～1mm大の白、黒色粒少量含む	N6/灰	内外面回転ナデ、口縁部重焼痕
859	11区	SP112	須恵器	鉢	–	(2.5)	(16.0)	(11.4)	底部1/5	普通	やや粗、φ0.1～3mm大の乳白色粒多量に含む	N6/灰	底部調整不明
860	11区	SP104	瓦	軒丸瓦	長(9.4)	高(10.0)	幅(8.3)	厚2.0	1/10	普通	やや粗い、φ0.1～1mmのO乳白色粒多量、橙色粒少量含む	凹面N6/灰	瓦当剥離、外面ヘラナデ、内面布目(縦5本/cm、横9本/cm)、端部面取り
861	11区	包含層	土師器	蓋	(3.2)	(1.8)	(3.55)	–	摘部1/1	普通	密、φ0.5～2mmの白色、灰色、赤褐色粒少量含む	10YR7/2にぶい黄橙	外面ナデ
862	11区	包含層	土師器	椀	–	(1.8)	(6.9)	(5.8)	底部1/1	普通	密、φ1mm程の白色粒、赤褐色粒を含む	5YR8/3淡橙	底部糸切り、器面摩滅
863	11区	包含層	青磁	皿	–	(0.85)	(8.5)	(7.2)	底径1/3	普通	精良	施釉部5Y6/2灰オリーブ	同安窯系青磁皿、内面に箆書き文と櫛点描文、太宰府分類Ⅰ-2b類
864	11区	包含層	青磁	碗	–	(3.15)	(11.0)	6.3	底部2/3	良好	精良	5Y8/1灰白、釉2.5GY6/1オリーブ灰	内面釉輪状に掻取り、内面文様は櫛点描文か
865	11区	包含層	白磁	碗	–	(3.1)	(10.8)	(6.4)	底径1/4	普通	精良	施釉部10YR8/1灰白	高台内面はケズリ、高台断面は台形にケズリ出す
866	11区	包含層	瓦器	皿	(8.0)	1.6	–	(5.4)	1/4	普通	密、φ～1mm以下の白色粒まれに含む	N4/灰	内面ミガキ
867	11区	包含層	瓦器	椀	–	(1.3)	(7.8)	(4.8)	底部1/4	普通	精良	N6/灰	見込み平行暗文、高台断面台形
868	11区	包含層	瓦器	椀	(14.6)	4.65	–	4.2	1/4	普通	密、φ1mm程の白色粒を含む	N5/灰	見込み斜格子暗文、高台断面三角形、和泉型
869	11区	包含層	瓦器	椀	(14.6)	4.5	–	(5.2)	1/5	甘	密、φ～2mm大の赤褐、黒色粒やや多く含む	5YR7/4にぶい橙	器面摩滅、内面ミガキ、高台断面台形から三角形、和泉型Ⅲ期
870	11区	包含層	瓦器	椀	(15.0)	(3.4)	–	–	口縁1/8	甘	密、φ0.5～1mmの白色、灰色粒少量含む	N5/灰	内面ミガキ

番号	調査区	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
871	11区	包含層	須恵器	杯	(16.5)	3.25	–	(12.0)	口縁1/40、底	普通	密、φ0.5～1mmの白色粒中量含む	N6/灰	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ
872	11区	包含層	須恵器	椀	(14.0)	(3.3)	–	–	口縁1/5	普通	やや粗、φ0.1～0.5mmの乳白色粒多量に含む	N8/灰白	内外面回転ナデ、内湾しながら立ち上がり、端部は丸くおさめる
873	11区	包含層	須恵器	椀	(14.8)	(5.15)	–	5.95	2/3	普通	密、φ0.5～2mmの白色粒中量含む	N6/灰色	底部糸切り、見込み凹み、内面ヘラ書き線有、ゆがみあり、相生窯分類椀C3
874	11区	包含層	須恵器	椀	(15.9)	(3.5)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ～2.5mm大の黒、白、透明色微量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、器壁薄作り、口縁端部外反
875	11区	包含層	須恵器	椀	(17.0)	(3.6)	–	–	口縁1/6	普通	密、φ0.5mm大の灰色、乳白色粒僅	N8/灰白	内外面回転ナデ、内湾しながら立ち上がり、口縁端部わずかに外反
876	11区	包含層	須恵器	椀	(15.7)	(4.85)	–	–	口縁1/5	良好	密、φ0.5～2mmの灰色、白色粒中量含む	N7/灰白	内外面回転ナデ、内湾しながら立ち上がり、口縁端部はわずかに外反
877	11区	包含層	須恵器	椀	–	(2.1)	9.9	5.4	底部1/4	不良	密、φ0.5～2mmの灰色、白色粒中量含む	5Y8/1灰白	底部糸切り、内外面ナデ、色調は白色を呈す
878	11区	包含層	須恵器	椀	–	(2.2)	(10.9)	(6.6)	底部1/2	普通	密、φ0.5～1mm大の灰白色粒少	N8/灰白	底部静止糸切り、高台脇ナデ、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C1
879	11区	包含層	須恵器	椀	–	(1.75)	(8.2)	(6.2)	底部1/3	普通	密、φ～4mm大の白色粒やや多く含む	N7/灰白	底部糸切り、高台脇ナデ、内面凹み、相生窯分類椀C3
880	11区	包含層	須恵器	椀	–	(1.7)	(9.5)	6.4	底部2/3	普通	密、φ0.5～2mm大の灰色粒少	N8/灰白	底部糸切り、高台痕跡程度
881	11区	包含層	須恵器	鉢	–	(5.5)	(20.2)	(10.0)	底部1/4	普通	密、φ0.5mm大の乳白色粒、φ2～3mm大の灰色粒僅	N7/灰白	底部切り離し不明、内外面回転ナデ
882	11区	包含層	須恵器	壺	–	(8.0)	(12.2)	8.55	底部1/1	良好	密、φ～1mm白、灰少、φ2～3mm白極少	N7/灰白	底部糸切り、内外面回転ナデ
883	11区	包含層	須恵器	壺	–	(5.2)	(18.9)	(13.6)	底部1/5	普通	密、φ～3mm大の白色粒少量含む	N8/灰白	底部調整不明、内外面回転ナデ
884	11区	包含層	須恵器	鉢	–	(4.9)	(20.9)	(13.4)	底部1/5	良好	密、φ0.5～2mmの灰色、白色粒少量含む	N7/灰白	底部調整不明、内面使用のため摩滅
885	11区	包含層	土師器	甕	(17.6)	(3.45)	(18.0)	–	口縁1/6	甘	粗い、φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色粒、中量含む	10YR7/2にぶい黄橙	口縁端部上方へやや拡張、器面摩滅
886	11区	包含層	土師器	羽釜	–	(5.15)	–	–	口縁1/12	甘	粗い、φ0.5～2mmの白色、灰色、褐色、赤褐色粒多量に含む	7.5YR6/4にぶい橙	口縁部ナデ
887	11区	包含層	土師器	甕	–	(5.5)	–	–	口縁1/12	普通	粗い、φ～6mm大の白、黒、赤褐色、透明色粒やや多く含む	10YR8/2灰白	内外面ナデ
888	11区	包含層	土師器	甕	–	(3.5)	–	–	口縁1/20	普通	粗い、φ～3mm大の灰、赤、黒色粒やや多く含む	2.5Y8/2灰白	口縁部内面ヨコハケ後外面ともにナデ
889	11区	包含層	土師器	竈	長(12.25)	厚2.8	幅5.25	–	脚部2/3	甘	やや粗い、φ0.5～4mmの白色、褐色、灰色粒中量含む	2.5Y8/3淡黄	三足脚部、竈内面ヨコハケ、脚部手づくね
890	11区	包含層	瓦質土器	羽釜	(18.0)	(26.8)	(25.0)	–	1/3	普通	やや粗い、φ～2mm大の白、灰、赤色粒やや多く含む	N4/灰	三足竈、脚部と体部の接点がないため図上復元、羽部貼付、内面ナデ、外面摩滅
891	11区	包含層	土師器	鞴羽口	–	(2.45)	3.55	–	1/20	普通	精良	5YR4/1褐灰	羽口端部、外面溶融物付着、内面赤化
892	11区	包含層	石製品	石鍋	長3.45	厚1.45	幅5.55	–	1/30	–	–	N7/灰白	石鍋細片、外面煤付着
893	12-1区	SP12	須恵器	椀	–	(1.65)	(8.3)	5.3	底部1/1	普通	やや粗い、φ～2mm白、灰色粒やや多く含む	N7/灰白	底部糸切り、見込み凹まない、高台痕跡程度、内外面ナデ、森田分類Ⅰ-2期
894	12-1区	SP24	須恵器	突帯椀	–	(3.2)	–	–	体部1/16	普通	密、φ～1mm大の白、透明色粒	N8/灰白	突帯断面三角形、相生窯分類椀C2
895	12-1区	SP27	土師器	椀	–	(3.15)	–	–	口縁1/10	普通	密、φ0.5～2mmの白色粒、極少量含む	5YR7/6橙	内外面ナデ
896	12-1区	SP38	黒色土器	椀	–	(1.65)	(10.7)	7.5	底部5/6	普通	密、φ～1mm大の白、透明色粒やや多く含む	2.5Y2/1黒	内外面黒色(B類)、内面見込み横方向のミガキ後体部ミガキ、高台内楕円状にミガキ、高台は低く、断面半円形
897	12-1区	包含層	土師器	羽釜	(23.5)	(8.0)	(29.1)	–	口縁1/3	甘	粗い、φ0.5～3mmの褐色、白色、赤褐色、灰色粒多量に含む	10YR7/3にぶい黄橙	外面タテハケ後ナデ、内面ナデ、短頸羽釜
898	12-1区	SK01	土師器	椀	–	(2.05)	(9.55)	(7.6)	底部1/2	普通	密、φ0.5mm以下の白色粒極少量含む	2.5Y8/2灰白	底部糸切り、見込み凹みなし、Ⅱ期新段階以降
899	12-1区	SK01	土師器	椀	–	(1.6)	(7.0)	(7.0)	底部1/5	普通	密、φ0.5mm以下の赤褐色、白色極少量含む	7.5YR7/6橙	底部糸切り、高台脇ナデ、内面付着物のため調整不明 岸本分類椀C1、Ⅱ期新段階以降
900	12-1区	SK01	土師器	椀	–	(2.7)	(8.4)	(7.0)	底部1/2	甘	密、φ0.5～1mmの灰色、褐色粒少量含む	2.5Y7/1灰白	底部糸切り、内外面ナデ、Ⅱ期新段階以降
901	12-1区	SK01	須恵器	椀	–	(2.65)	(9.7)	(6.3)	底部1/2	普通	密、φ～3mm大の白、黒色粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、見込み凹み、内外面回転ナデ、相生窯分類椀C3
902	12-1区	SK01	土師器	羽釜	–	(5.65)	–	–	口縁1/10	甘	粗い、φ0.5～2mmの白色、赤褐色粒含む、φ10mm大粒含	10YR7/2にぶい黄橙	頸貼り付け、内面ナデ、短頸羽釜
903	12-1区	ST01	土師器	皿	8.25	1.65	–	7.5	1/1	普通	密、φ～0.5mmの透明、黒、赤微量含む	2.5Y8/1～7/1灰白	手づくね、口縁端部は丸くおさめる、内面一方向にナデ後口縁部ナデ、Ⅳ期
904	12-1区	ST01	土師器	皿	8.2	1.7	–	3.45	1/1	普通	密、φ1mm前後の白色粒を含む	10YR7/1灰白	手づくね、口縁端部は丸くおさめる、内面一方向にナデ後口縁部ナデ、Ⅳ期
905	12-1区	ST01	土師器	皿	8.1	1.55	–	5.65	1/1	普通	密、φ～0.5mmの黒、透明、灰白色粒微量含む	2.5Y8/1～7/1灰白	手づくね、口縁端部は丸くおさめる、内面一方向にナデ後口縁部ナデ、Ⅳ期
906	12-1区	ST01	青磁	碗	16.1	6.8	–	6.5	1/1	普通	密、φ1mm程の白色粒混入	釉:5Y5/3灰オリーブ色	龍泉窯系青磁椀、外面鎬蓮弁文、太宰府分類Ⅱ－b類
907	12-2区	SD01	須恵器	椀	–	(1.45)	(6.2)	(4.75)	底部1/2	良好	密、φ0.5～1mmの白色、灰色、透明粒少量含む	N7/灰白	底部糸切り、見込み凹み、内外面回転ナデ
908	12-2区	SD01	土師器	羽釜	–	(5.7)	–	–	羽部1/10	普通	粗い、φ5mm大の灰、透明色粒少量含む	5Y8/1灰白	羽部、白色
909	12-2区	SD01	須恵器	甕	–	(7.0)	–	–	口縁1/12	普通	密、φ～3mm大の白、黒色粒少量含む	N5/灰	外面格子タタキ、口縁外面格子タタキ後ナデ、内面同心円状当具
910	12-2区	SD01	備前焼	擂鉢	–	(4.75)	–	–	口縁1/15	普通	密、φ～4mm大の白、赤褐色粒まれに含む	5PB5/1青灰、5YR5/3にぶい赤褐	口縁部自然釉付着
911	12-2区	SD01	備前焼	壺	–	(6.4)	(22.0)	–	頸部1/6	普通	密、φ～3mm大の白、黒、赤褐色粒やや多く含む	頸部10YR5/2灰赤、N5/灰	口縁帯は薄板作り、外面に明確な凹線はない、乗岡編年中世6期
912	12-2区	SD01	瓦	平瓦	長(8.5)	厚2.3	幅(8.0)	–	1/8	普通	粗い、φ～7mm大の灰、白、黒色粒少量含む	N6/灰	凸面砂付着、側面面取り、ハケ
913	12-2区	SD01	瓦	丸瓦	長(6.5)	厚2.9	幅(5.4)	–	–	普通	やや粗い、φ0.5～2mmの灰色、白色粒、中量含む	N7/灰白	凸面:縄目タタキ後ナデ、凹面:布目(縦横10条/cm)、端部面取り
914	12-2区	SD01	瓦	平瓦	長(8.15)	厚3.2	幅(10.25)	–	1/10	甘	やや粗い、φ0.5～1mmの褐色、白色、灰色粒中量含む	表5Y8/1灰白	凸面縄目タタキ、砂付着、凹面布目、被熱
915	12-2区	SD01	石製品	五輪塔	–	25.8	19.5	8.7	1/1	–	–	–	花崗岩製、空風輪、12.5kg、空輪一部欠損
916	12-2区	SD01	石製品	五輪塔	9.4	19.1	23.7	11.25	1/1	–	–	–	花崗岩製、水輪、22.5kg.
917	12-2区	SD01	石製品	五輪塔	11.8	21.1	26.4	13.7	1/1	–	–	–	花崗岩製、水輪、24.5kg
918	12-2区	SD01	石製品	五輪塔	10.9	23.3	27.3	11.9	1/1	–	–	–	花崗岩製、水輪、15.0kg

番号	遺跡名	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
図6-1	辻垣内	–	土師器	皿	(12.8)	1.55	–	(7.6)	1/3	甘	φ0.5～2mmの灰色、白色、透白色粒少量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部指圧痕、器面摩滅、Ⅰ期
図6-2	辻垣内	–	土師器	皿	(13.4)	1.25	–	(8.5)	1/4	普通	φ～2mm大の白、黒、灰色粒少量含む	5YR6/6橙	底部指圧痕、底部未調整、内外面ナデ、口縁外反、Ⅰ期
図6-3	辻垣内	–	土師器	皿	10.6	2.55	–	6.5	4/5	普通	φ0.5～2mmの白色、褐色、透明色粒中量含む	2.5Y8/2灰白	底部ヘラ切り、外面ナデ、内面摩滅、Ⅱ期
図6-4	辻垣内	–	土師器	杯	(13.3)	3.75	–	(7.8)	3/4	普通	やや密、φ0.1～0.3mm大の乳白色含む	7.5YR8/4浅黄橙～7.5YR7/6橙	底部指圧痕、輪高台貼り付け、見込み・底部を除き内外面ナデ
図6-5	辻垣内	–	土師器	椀	(12.8)	4.15	–	(6.0)	1/6	甘	φ0.5～2mmの灰色、白色粒少量含む	7.5YR7/6橙	底部ヘラ切り、器面摩滅、Ⅰ期新段階～Ⅱ期古段階
図6-6	辻垣内	–	土師器	椀	–	4.25	(14.25)	(9.35)	底部1/2	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色、褐色粒少量含む	7.5YR7/4にぶい橙	底部指圧痕、輪高台貼り付け、内外面ナデ、体部は直線的に立ち上がる、Ⅰ期
図6-7	辻垣内	–	土師器	椀	–	4.25	(12.1)	(8.0)	底部3/4	甘	φ0.5～1mmの白色、灰色、褐色粒中量含む	7.5YR8/4浅黄橙	底部指圧痕、輪高台貼り付け、外面ナデ、内面摩滅、Ⅰ期
図6-8	辻垣内	–	須恵器	杯	11.9	3.5	12.1	7.8	3/4	普通	φ0.5～1mmの灰色、白色粒多量に含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ

番号	遺跡名	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
図6-8	辻垣内	－	須恵器	杯	11.9	3.5	12.1	7.8	3/4	普通	φ0.5～1mmの灰色、白色粒多量に含む	N7/灰白	底部ヘラ切り、内外面回転ナデ
図6-9	辻垣内	－	須恵器	鉢	－	2.95	(10.1)	(8.2)	底部1/3	良好	φ0.5～3mmの灰色粒極少量含む	N6/灰	底部糸切り、口縁端部上方へ拡張、内外面回転ナデ、篠窯鉢C、篠ⅣA期
図6-10	辻垣内	－	須恵器	鉢	(19.6)	12.25	(21.4)	(11.1)	1/2	普通	φ～2mm大の白、黒色粒少量含む	5Y8/1灰白	底部糸切り
図6-11	辻垣内	－	土師器	甕	－	7.9	－	－	把手1/1	不良	粗、φ0.1～2mm大の橙粒多量に含む	2.5Y8/2灰白	甕もしくは甑の把手、把手貼り付け部にハケ
図6-12	辻垣内	－	土師器	甕	(16.4)	6.65	(18.0)	－	1/4	普通	φ～4mm大の白、赤、黒色粒やや多く含む	5YR7/4にぶい橙	内面ナデ、外面摩滅

番号	遺跡名	遺構	種別	器種	口径	器高	最大径	底径	残存度	焼成	胎土	色調	特記事項(備考)
図7-1	英賀城跡	－	磁器	白磁皿	(15.0)	4.0	－	(8.2)	口縁部1/20、	普通	精良	露胎部N8/灰白	端反皿、高台畳付露胎、森田勉分類E群-2b
図7-2	英賀城跡	－	備前焼	擂鉢	(28.1)	14.1	(29.9)	(14.4)	口縁1/30、底	良好	φ0.5～5mmの白色、灰色粒中量含む	5YR6/6橙、2.5YR5/3にぶい赤褐	スリ目11条/単位、口縁部は上方が尖り、内面の稜は目立たない、外面には凹線3条
図7-3	英賀城跡	－	備前焼	擂鉢	(36.0)	7.0	(37.0)	－	口縁部1/10	普通	普通、φ1mm大の黒色粒少、φ2～5mm大の乳白色粒僅	10R5/2灰赤	スリ目7条/単位、口縁部は上方が尖り、内面に稜を持つ、外面には凹線3条
図7-4	英賀城跡	－	備前焼	擂鉢	(29.4)	9.7	(30.0)	－	口縁1/6	良好	密	2.5YR4/2灰赤	口縁部は上方に立ち上がり、内面は丸くおさめる